

学校の今に寄り添い、先生方とともに未来を描く

「ビューネクスト」高校版

VIEWnext

2021
August

8

Photo Session at Cover

兵庫県・
私立
姫路女学院
中学校・高校

特集

2021年度大学入試
合格者の姿から考える

「志望をかなえる
マイ・ストーリー」

新課程に向けて描く

「学校教育デザイン」

東京都立第五商業高校

発問・課題設定をキーに見る

主体的・対話的で深い学び 授業実践

体育

北海道浦河高校

舟田彩一郎

化学

東京都立多摩科学技術高校

田中義靖



中高生が社会参加
できる仕組みとは？

未来を描く！創る！
イノベーティブな
生徒たち

第2回

社会問題に関心を持った中高生が 実社会で活動できるように支援

ゆうじん
山口由人さん・高校2年生

東京都・私立聖学院中学校・高校

東 京都・私立聖学院中学校・高校では、6年間を通して、生徒が主体の探究・PBL型の学習活動に力を注ぐ。そうした学びの中で、生徒は社会問題に向き合う意義に気づき、その解決に向けたプロセスを身につけていく。中には自主的に校外での社会貢献活動に取り組み、在学中に起業したりする生徒もいる。

山口由人さんは、2020年、一般社団法人「Sustainable Game」を設立。SDGs（*）の実現に向けて中高生が活動する仕組みづくりに取り組んでいる。

「社会問題に関心を持った中高生が、企業の人など、様々な大人たちと一緒に、問題解決のために活動できるように支援する団体を中学3年生の時に立ち上げました」

山口さんは、小学校までをドイツで過ごした。その頃の体験が、中学2年生の時に授業で学んだSDGsと結びつき、社会問題に興味を持つようになった。

「ドイツでは、自分はマイノリティーである外国人でしたから、疎外感を味わいましたし、難民差別に

* Sustainable Development Goals の略。2015年に国連が掲げた、持続可能な開発目標のこと。「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」など、17の目標と169のターゲットから成る。

教師たち



東京都・私立
聖学院中学校・高校
高校2学年主任
山本 享

各々にふさわしい時機に、 社会とつながる支援を

生徒の成長スピードは様々ですから、それぞれに適したタイミングで社会とつながってほしいという思いを持って、探究・PBL型の学習では、社会問題を積極的に扱ったり、外部イベントを紹介したりしています。山口さんは元々問題意識が強く、行動力があるために、早い段階で心に火がともったのでしょう。当初は、外部のファシリテーターを紹介するなどが、校外とつなげる支援をしましたが、今は山口さん自身で校内外に仲間をどんどん増やし、活動を充実させています。以前、山口さんが私に、「国語や歴史、英語など、学校で広く学ぶ意味が分かった」と話してくれたことがあります。校内外での様々な経験を通じて、学びの本質を理解したのだと思いました。「社会をよくしたい」という思いに支えられ、大きく伸びていく生徒たちの姿から、社会とつながる学びの意義を再認識しています。

対して何も行動できなかったことなどに、ずっとモヤモヤした気持ちを抱えていました。授業でSDGsを学び、自分にも具体的な行動が起せるのではないかと、活動を通して社会や大人とつながることができたら楽しそうだと考えたことを考えるようになりました」

その後、教師に紹介されたSDGs関連の外部イベントに積極的に参加をした山口さんは、自らが主体となって、さらなる一歩を踏み出した。社会問題に関心の高い先輩たちに声をかけ、「課題発見DAY」という教育プログラムを考案し、高校生向けのイベントとして実施したのだ。「ルーレットでSDGsの17の目

標から1つの目標を選び、その目標を意識して街を歩き、発見した課題を発表し合うというプログラムです。社会問題の解決を、持続可能な未来をつくるゲームと捉えることで、中高生が『自分たちの力でクリアしよう』と、社会問題の解決に挑戦したくなるのではないかと考えたのです。ポスターを作って校外から参加者を募ったり、企業に頼んで会場を借りたりしながら、月1回『課題発見DAY』を実施しました」

企業と連携しながら、中高生が大人とともに社会問題を解決するための仕組みづくりに取り組んできた山口さんだが、その過程で壁にぶつかることもあった。特に、中

高生の話を実剣に聞いてくれない企業が多かったことには悩まされた。「『社会をよくしたい』という思いを伝えるだけでは、相手を説得できないことを痛感しました。他者を動かすためには、社会問題の背景を理解する上で必要な幅広い知識や、活動を行う理由や根拠を分かりやすく説明する力などが求められます。学校で様々な教科を学ぶ意義は、その点にあるのだと思いました」

中高生と大人が一緒に社会問題の解決に挑むのが、あたり前の社会をつくりたい。社会をよりよくしたいというその思いは同じなのだから――。変わらぬ理想を抱き、山口さんは今、中高生による社会問題解

決の取り組みと、そうした中高生の活動に対する支援を希望する企業や団体とをマッチングさせるウェブサイトの開発を進めている。

「これまでの活動を通して、地域や社会でイノベーションを起こした国内外の同世代の人たちとつながることができましたが、そうした仲間と切磋琢磨する中で、自分も『社会のここを変えた』と誇れるようなことをしたいという思いがさらに強くなりました。将来は、小規模なNPOやNGOの問題意識を広く社会に伝えたり、活動のための資金調達を支援したりする仕組みを考えて、誰一人取り残されない社会の実現に貢献したいと思っています」

学校概要

設立 1903（明治36）年
形態 全日制／普通科／男子校
生徒数 1学年約150人
2021年度入試合格実績（現役のみ）
国公立大は、千葉大、東京海洋大、金沢大、防衛
大学校に4人が合格。私立大は、慶應義塾大、上
智大、中央大、東京理科大、明治大、立教大、早
稲田大などに延べ452人が合格。

先生がご存知の「イノベティブな生徒たち」をご推薦ください！

具体的なお推薦方法は、VIEWnext 公式LINEを通じて9月下旬にお伝えいたします。

※VIEWnext 公式LINEが未登録の方は、右の2次元コードを読み取っていただき、友だち追加をお願いいたします。



2020年度にクラス担任として3年生を卒業させたある教師より
私の大切な2人の生徒のこと

2 特集

2021年度大学入試合格者の姿から考える
志望をかなえる「マイ・ストーリー」

25 For School Section

- 26 新課程に向けて描く「学校教育デザイン」
東京都立第五商業高校
- 30 —疑問や課題を解決!実践につながる!— 新課程レポート
静岡県立御殿場高校
- 34 指導変革の軌跡
兵庫県・私立神戸山手女子中学校高校
- 38 輝く学年団を訪ねて
大阪府・私立箕面自由学園高校 3学年団
- 42 学校危機管理 基礎講座
テーマ 自然災害への備え

45 For Teacher Section

- 46 発問・課題設定をキーに見る 主体的・対話的で深い学び 授業実践
- 46 体育 北海道浦河高校 舟田彩一郎
- 50 化学 東京都立多摩科学技術高校 田中義靖
- 54 SDGsの視点で見る大学の学び
- 54 解説 目標15 陸の豊かさを守ろう
- 54 目標17 パートナリシップで目標を達成しよう
- 56 大学の学び 目標15 鳥取大学 農学部 生命環境農学科 植物生態学研究室
- 58 目標17 慶應義塾大学 総合政策学部
xSDG・ラボ (蟹江研究室)
- 60 これからの進路指導のための 世の中トレンド解説
トレンド・ワード ジェンダー
- 64 誌上で見学 学びのnext
リーダーシップ教育 神奈川県立藤沢清流高校

巻頭 未来を描く! 創る! イノベティブな生徒たち

山口由人さん (高校2年生)
東京都・私立聖学院中学校・高校

- 44 データから考える! 指導のnext
ビックアップデータ 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所
「子どもの生活と学びに関する親子調査」

72 Reader's VIEW

<https://berd.benesse.jp>

本誌記事は、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトでもご覧いただけます。

印刷製本/(株)協同プレス 編集協力/(有)ペンダコ 執筆協力/中丸 満、二宮良太、長谷川敦 撮影協力/荒川 潤、竹内洋平、谷口 哲、ヤマグチイッキ

※本文中のプロフィールはすべて取材時のものです。また、敬称略とさせていただきます。 ※本誌記載の記事、写真の無断複写、複製及び転載を禁じます。 ©Benesse Corporation 2021

2020年度卒業生がそれぞれの進路を踏み出して、既に4か月が過ぎました。さかのぼること3年前、初めての大学入学共通テストに向けて、本校でも、入学時から入試本番までの3年間の指導計画を作成し、私たち教師は、生徒の進路意識と学力の向上に努めてきました。3年次には、新型コロナウイルスの感染拡大という想定外の事態に直面しながらも、生徒は教師が想像する以上の力を発揮し、3年生の1日1日を懸命に過ごしました。

この春、希望の進路を踏み出した生徒もいれば、それがかなわなかった生徒もいます。今でもよく思い出するのは、2人の生徒のことです。難関国立大学の総合型選抜に挑戦したその2人は、対照的な生徒でした。

Aさんは、ある社会問題の解決を目指すボランティア活動に熱心に取り組んだ生徒でした。幼少の頃、健康上の苦労を経験したことから、自分がこの世に存在しているのは、人々の善意のおかげだと考えていたAさんは、その恩返しとして、中学校時代からボランティア活動に参加するようになりました。Aさんの社会に対する思いは、「総合的な学習の時間」での振り返りや、日直日誌の記述欄などで滔滔とつづられていました。

ボランティア活動を通じてかかわってきた社会問題について研究するため、総合型選抜での受験を決意したAさんが作成した志望理由書の第1稿は、体験に裏つけられたAさんの思いがあふれ出ていました。伝えたいことがありすぎるAさんを、冷静にさせるような添削を、私は何度か繰り返しました。

Aさんが、「大学入学共通テストの自己採点の結果が、目標に届かなかった」と、悲痛な表情で私に報告に来た時も、Aさんの強固な志望理由を知る私は、「Aさんは、合格させなければいけない人だ」と思いました。もちろん、生徒全員に合格してほしい。でも、Aさんは、「大学が合格させなければいけない人」だと思ったのです。

Bさんは、探究学習で素晴らしい成果を収めた生徒でした。フィールドワークなどで大学教授や企業人と交流する中で、グローバルな課題に対する知見を深め、全国の高校生を対象とした論文コンクールでは、最優秀賞を獲得しました。

Bさんの志望理由書には見事な経歴がつづられました。しかし、書面が丁寧な文字で埋められているのに

もかわらず、なぜか十分に書かれていないように思えて仕方ありませんでした。コンクールで賞を獲得したのに、なぜ心に迫ってこないのだろう。繰り返し読むうちに、Bさんの志望理由書の内容が、高校が用意した舞台の中の活動の結果を中心に描いていること、自分の過去や現在、そして大学での学びとつながっていないことに気がつきました。

それでも、私を始め、3年生の指導にかかわっていた教師は全員、Bさんは大学入学共通テストで高得点を上げ、見事合格を果たすはずだと信じていました。実際、共通テスト本番も、Bさんは目標点を軽々とクリアしました……。

しかし、Aさんは合格しましたが、Bさんは不合格になりました。

21年度大学入試をやっと冷静に振り返ることができるようになった今、AさんとBさんは何が違ったのかをよく考えます。そして、それは、生徒が自分のこれまでの学びや活動を、その成果や結果だけでなく、そこに至るプロセスも含めた「ストーリー」として語れていたかどうかではないかと、思うようになりました。

Aさんの合格はとてもうれしいです。きっとAさんは大学でも、そして社会でも、生き生きと活躍するでしょう。そして、Bさんの不合格はとても悔しいです。あれほど真摯に探究学習に取り組んだBさんに対しては、今でも申し訳ない気持ちでいっぱいになります。Bさんの学びや活動が「ストーリー」として語られなかったのはなぜか、私たちの支援に足りなかったことは何だったのか。その答えは簡単には出そうもありませんし、正直、学校だけでできることではない氣もしています。

「先生方には心から感謝しています」と、第2志望の大学へ進むことを決めた卒業式の日のBさんの言葉は、今も鮮明に耳に残っています。Bさんの言葉が本当の気持ちだと分かるからこそ、私たち教師にもっとできることはなかったのかと、私は自問し続けています。

進学校は、難関大学への進学者が多い学校です。本校も間違いなく、進学校の1つです。しかし、これからの進学校は、もしかすると、自分の物語を描き、納得のいく進学ができる生徒が多い学校なのかもしれない……、そんなことを考えています。



Special issue

特集

2021年度大学入試合格者の姿から考える

志望をかなえる

「マイ・ストーリー」

右のエピソードは、本特集を企画するにあたり、全国の先生方と2021年度大学入試を振り返る中で、ある先生が語った実話です。学校推薦型選抜・総合型選抜の拡大が続いていることから、21年度大学入試においても、同じような経験をしたという方は少なくないのではないのでしょうか。エピソードの中で、このある先生は、2人の生徒の合否を分けたのは、「生徒が自分のこれまでの学びや活動を、その成果や結果だけでなく、そこに至るプロセスも含めた『ストーリー』として語っていたかどうかではないか」という仮説を持たれていました。実際、多くの先生方から、同様の趣旨のことを伺いました。そこで本特集では、生徒一人ひとりの「自分のこれまでの学びや活動と、その成果や結果に至るまでのプロセス、これからの展望」を「マイ・ストーリー」と呼ぶこととし、「マイ・ストーリー」を描き、それを語る力が、これからの大学入試で希望進路を実現するために必要とされることを検証しつつ、そうした力を生徒に育む教師の指導や支援のあり方・方法を、実践事例を通じてお伝えしていきます。

VIEWnext編集部 統括責任者 柏木 崇

P.6 課題整理

希望進路を実現した生徒の共通点は、「マイ・ストーリー」の形成

佐賀大学 アドミッションセンター長・教授 ^{にしごり}西郡 大 / 岩手県立福岡高校 長岡拓郎
茨城県立水海道第一高校 ^{みつかいどう}菅原冬樹 / 大分県立大分豊府中学校・高校 中原久典

P.10 実践事例1 北海道登別明日中等教育学校 ^{のほりべつあけび}

探究学習・教科学習・特別活動における徹底した振り返りで、自己を把握する力を高める

P.14 実践事例2 茨城県・私立江戸川学園取手中・高校 ^{とりで}

志望の「きっかけ」を「動機」に変え、目標と現実とのギャップを埋めるストーリーを描く

P.18 実践事例3 長崎県立諫早高校 ^{いさはや}

「振り返り・自己分析・選択」の過程を通して、主体的に学ぶ力を身につけさせる

P.22 本特集テーマのnext

新学習指導要領下で、生徒の「マイ・ストーリー」の形成を支援する教師に求められること
ベネッセ文教総研 所長 西島一博

課題整理



希望進路を実現した生徒の共通点は、「マイ・ストーリー」の形成

様々な制度変更があった2021年度大学入試では、どのような指導の下、こういった資質・能力を身につけた生徒が志望大学に合格したのか。21年度大学入試において合格実績を飛躍させた3校の教師、及び文部科学省「大学入学者選抜における多面的な評価の在り方に関する協力者会議」委員を務める大学教授が語り合った。

学びを「マイ・ストーリー」として語る生徒が高評価

谷本 まず、2021年度大学入試を振り返り、どのような生徒が合格していたのか、大学としての実感をお話してください。

西郡 大学が求めているのは、基礎学力を備えていることは前提とした上で、高校での学びや活動を、

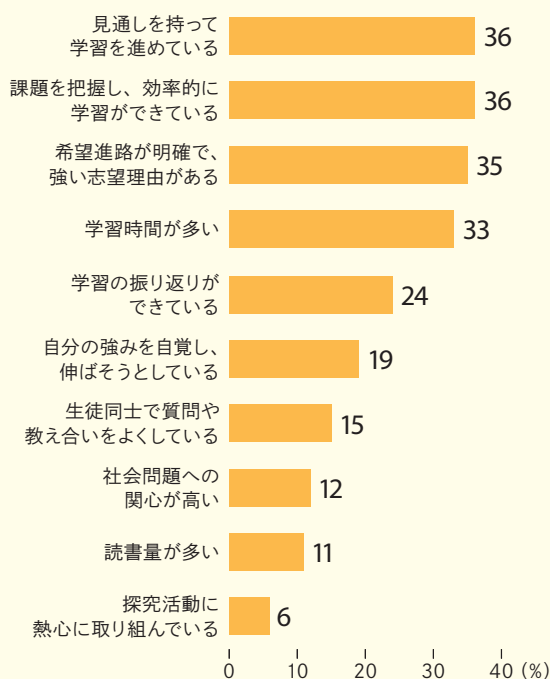
自分の成長のストーリーとして表現できる生徒です。志望理由書であれば、学びや活動の事実・結果をただ述べるのではなく、そうした事実、結果に至るまでの過程と今後の展望を自分の言葉で述べているものを、大学は評価します。また、面接や集団討論でしっかり

とした考えを語り、評価される生徒も、自身の成長のストーリーを持っていきます。なお、本学の7学部のうち5学部の一般選抜では、

任意提出の書類審査である「特色加点制度」を導入しています。同制度では、高校での学びや活動が、大学入学後の学びや活動にどのように生かせるかなどを記入する書類を合否判定に用います。

中原 本校でも、学校推薦型・総合型選抜で合格したのは、自分の課題意識と大学での学びを社会貢献を介してつなげ、自分のストーリーとして語ることができた生徒でした。ある大学に学校推薦型選抜で合格した生徒は、関心のあった道徳教育について1年次から研

図1 2021年度大学入学共通テストにおいて、
想定よりも高得点だった生徒の特徴



※ベネッセ教育情報センター「教育・入試改革対応に関する調査」(2021年2～3月にウェブとファクスで実施)を基に編集部で作成。

究を続け、3年次の面接の練習では、「この大学のこの教授の下で道徳教育を学びたい」と楽しそうに語っていました。低学年次からの積み重ねがあったからこそ、そのように語れたのだと思います。

谷本 ベネッセ教育情報センターでは、全国の先生方から、募集単位の入試の傾向や指導のポイントをお伺いし、「学校推薦型選抜・総合型選抜指導レポート」(※1)を作成しました。その中でも、「自分が取り組んできた活動が、地

域の課題とどのように関連するかを考え、その視点を志望理由書に明確に盛り込むよう、生徒に助言した。「合格した生徒の特徴は、志望理由にリアリティーがある」といった声が多く見られました。高校生活での様々な経験を未来へとつなげて「マイ・ストーリー」を描く力は、どのような指導によって育まれると思われませんか。

菅原 本校では、定期考査や文化祭といった高校生活の節目で必ず振り返りの機会を設けて、自分を

見つめさせ、次の行動に生かすことは何か、考えさせてきました。そうした振り返りを基に、時には生徒同士で学習法について相互評価させたり、「マイ・ストーリー」を描いている優れた記述を学年通信に掲載したりと、学びや活動での気づきを言葉にし、共有することを大事にしてきました。

長岡 生徒は、日々の学習や部活動などを通して、自分を見つめ直し、過去や未来の自分と今の自分とをつなげ、今後の学びや活動を方向づける軸を形成していきま

す。加えて、自治体や企業、大学と協働して行う探究学習も、そうした軸をつくる貴重な機会です。社会との接続を意識した活動を通して、自身のあり方・生き方を見つめ、志望を固めていく生徒は少なくありません。

中原 21年度大学入試では、一般選抜でペーパー・インタビューを課した大学もありましたが、「高校3年間のうち、チームで取り組んだことを1つ挙げて、そのチームでの自分の役割を説明しなさい」という設問の回答に苦労した

と言ってきた生徒がいました。低学年次から、日常の教育活動の中で、自分は他者とうかがわったか、自分の役割は何だったか、どれだけ頑張れたかなどを振り返り、書かせる指導が必要だと考えています。

西郡 志望理由を過去の経験に結びつけて語れるようになるためには、普段から自分の行動を振り返り、その気づきを言語化する作業を繰り返すことが重要です。先生方は、まさにそうした指導をされているのだと感じました。

長岡 2年連続で3学年担任を務めています。現3年生は、昨年度の3年生よりもコロナ禍による自粛で経験できなかったことが多く、経験を基にした志望理由の掘り下げに難しさを感じています。

西郡 コロナ禍が原因で生徒の学習の動機づけなどに苦心していることは、大学側も理解しています。その点に関して大学関係者の間でよく話題になるのは、先行き不透明な時代だからこそ、何を考えて、どう行動するかということに、真剣に向き合う生徒を評価し

*1 「学校推薦型選抜・総合型選抜指導レポート」は、アンケートにご協力いただいた先生へ提供しております。2022年度入試の指導レポートの詳細は、ベネッセハイスクールオンラインでご案内しています。

ようということ。もちろん、大人でも答えが出せない難題ですが、自分なりに考えていることを、それまでの学びを踏まえて表現してほしいと思っています。

中原 本校では、生徒は学校オリジナルのスケジュール帳に毎日学習時間を記録し、それを基に学習や生活を振り返ります。そして、それを担任や副担任が毎日確認してコメントを返しますが、生徒は次第に、振り返りを基に次の学習について見通しを立てられるようになります。また、ある生徒は、



佐賀大学
アドミッションセンター長・教授

西郡 大 にしごおり・だい

2009年、東北大学大学院教育情報学部博士課程後期修了。専門は教育情報学。同年、佐賀大学アドミッションセンター准教授。17年より現職。文部科学省「大学入学者選抜における多面的な評価の在り方に関する協力者会議」委員。

受験前日に1年間の学習時間を計算して「16万7958分」と記入し、「これだけ頑張ったのだから大丈夫」と、自らを奮い立たせて受験に臨んでいました。過去の積み重ねが今の自分をつくっているということ、大学入試を通じて肯定的に自覚できたことは、今後の人生において大きな意味を持つと考えています。

谷本 21年度大学入学共通テストについて、全国の高校にアンケートを取ったところ、想定以上に高得点だった生徒は、「見通しを持って学習を進めている」「希望進路が明確で、強い志望理由がある」といった特徴がありました（P.7図1）。自分の過去の経験を裏づけにした強い志望を抱き、いつ、何をすればよいかといった見通しを持って学びに向かった生徒が力を発揮したという状況は、先生方のお話と共通しています。

生徒の「マイ・ストーリー」は
人生を支える力を持つ

長岡 昨年、過去10年間の本校卒

業生の、マーク式の模擬試験から大学入学共通テストまでの点数の伸びを分析しました。すると、現在の学校推薦型・総合型選抜で進学した卒業生は、一般選抜で進学した卒業生よりも大学入学共通テストまでの点数の伸びが大きく、合格後も学びから離れず、点数を伸ばしていました。大学からは、

学校推薦型・総合型選抜で進学した学生は一貫してGPA（*2）が高いといった話も聞きます。進路理由や社会貢献などについて十分に考え、それらを表現する機会を持ったことで、学びに向かう力を伸ばし続けることができたのかもしれません。

西郡 先ほどお話しした「特色加点点制度」で評価されて合格した生徒は、入学辞退率が低く、大学入学後のGPAも高いです。行動特性を見ても、自律性やリーダーシップが高い傾向があります。また、本学の教員に、「入学時にどういった資質・能力を持っているか」「目標から逆算して今やるべきことを考えたり、普段の生

活と自分の問題意識を関連づけたりすることができた力を持った学生」といった答えが返ってきました。まさに、自分の学びを振り返りながら「マイ・ストーリー」を描いていく力と言えます。

谷本 生徒が描いた「マイ・ストーリー」を、教師が描いた指導ストーリーと重ね合わせ、生徒の「マイ・ストーリー」をより豊かにするために、3年間でどのような指導が求められるのでしょうか。

菅原 私は、卒業までにどのような生徒を育てたいのかを明確にし、そこから逆算して時期ごとに求められる教科指導と進路指導を組み立て、流れを持った指導ストーリーを描いて指導してきました。そうした指導ストーリーは、最大公約数的に全生徒に適用できるものとして、生徒にも明確に示します。その上で、教師はそれぞれの「マイ・ストーリー」を描きながら自走する生徒に伴走することを重視し、生徒自身が様々な学びや活動を線で結び、意味づけできるように、面談などを通じて支援しています。

* 2 Grade Point Averageの略。履修科目の評点に単位数を加味して算出する成績評価値。個々の学生の到達水準を測る目安に用いることができる。

長岡 従来の3年生の出願検討会では、学力面を検討材料の中心にして話し合っていました。が、昨年度より、探究学習のテーマを検討材料に加えました。「この生徒は、探究学習のテーマとの親和性や取り組みの様子を見ると、この大学の総合型選抜に向いているのではないか」といった助言をし合うなど、生徒の進路に広がりを持たせられるようになりました。



岩手県立福岡高校

長岡拓郎

ながおか・たくろう

教員歴10年。同校に赴任して3年目。教務課。3学年担任。

◎学校概要

設立 1901(明治34)年
形態 全日制/普通科/共学
生徒数 1学年約150人
2021年度入試合格実績(現役のみ)
国公立大は、北海道大、弘前大、岩手大、東北大、秋田大、宮城教育大、福島大などに61人が合格。私立大は、岩手医科大、青山学院大、中央大、明治大などに延べ62人が合格。

中原 生徒の「マイ・ストーリー」の形成には、保護者の協力も必要です。特に現在は、コロナ禍によって家庭の経済的事情が進学に影響するケースもあります。保護者に志望理由書を読んでもらうなどして、生徒がどのように考えて進路を決めようとしているのかを、十分に理解してもらおうとします。重要です。伝統校の強みは、大学合格



茨城県立水海道第一高校

菅原冬樹

すがわら・ふゆき

教員歴25年。同校に赴任して5年目。進路指導主事。

◎学校概要

設立 1900(明治33)年
形態 全日制/普通科/共学
生徒数 1学年約280人
2021年度入試合格実績(現役のみ)
国公立大は、北海道大、茨城大、筑波大、埼玉大、千葉大、東京学芸大などに88人が合格。私立大は、青山学院大、慶應義塾大、明治大、立教大、早稲田大などに延べ610人が合格。

や教科学力向上に向けた指導ストーリーが確立されていることで。それに、時代の変化に応じた新たな視点を組み込むことで、これからの高校教育が形作られていくのではないのでしょうか。様々な改革が進む今こそ、自校が積み重ねてきた指導から、新しい教育につなげられるものを見いだすべきでしょう。生徒が描く「マイ・ストーリー」は、一人ひとりの18年



大分県立大分豊府中学校・高校

中原久典

なかはら・ひさのり

教員歴22年。同校に赴任して18年目。進路領域主任。

◎学校概要

設立 1986(昭和61)年
形態 全日制/普通科/共学
生徒数 1学年約240人
2021年度入試合格実績(現役のみ)
国公立大は、東北大、筑波大、お茶の水女子大、一橋大、京都大、大阪大、神戸大、九州大、大分大などに196人が合格。私立大は、早稲田大、立命館大などに延べ207人が合格。

間のかけがえない物語です。人生の支えとなる「マイ・ストーリー」を、生徒とともに形作る指導や支援を大切にしていきます。

西郡 本日のお話を通して、高校の先生方の熱心な指導や支援によって、現在の高校生がしっかりと将来を念頭に置いて大学を目指していることを再認識することができました。ただ教えられるだけの自分から、自ら学びを創り出し、深める自分へと変わるには、多様な課題に取り組み、その中で失敗を経験することも大切でしょう。そうした経験も糧に、成長の軌跡を「マイ・ストーリー」として生き生きと語ることができる生徒を育てていただきたいです。

谷本 これからの進路指導で求められる生徒支援の視点が明確に見えてきたように思います。本日はどうもありがとうございました。



ファシリテーター
ベネッセ教育情報センター
センター長
谷本祐一郎
たにもと・ゆういちろう

探究学習・教科学習・特別活動における 徹底した振り返りで、自己を把握する力を高める

北海道登別明日中等教育学校

北海道登別明日中等教育学校では、探究学習や教科学習、特別活動など、あらゆる教育活動において、リフレクションシートや面談などによる振り返りを徹底して行い、生徒に内省を促すことで、自己を把握する力の向上に努めている。そのようにして、将来の目標を明確にした生徒が学び合いを実践した結果、進学実績は大きく飛躍した。

志望校への思いを表現し、総合型選抜で合格を果たす生徒たち

割増の33人。特に、学校推薦型選抜、総合型選抜での合格者数の増加が顕著であった。

北海道登別明日中等教育学校は、2014年度に文部科学省「スーパーグローバルハイスクール」、19年度に同「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」の指定を受けるなど、グローバルリーダーの育成を目指した教育を展開している。そうした同校は、21年度大学入試で進学実績を大きく伸ばした。1学年約80人の小規模校ながら、国公立大学合格者数は前年度比3

生徒それぞれの長所や得意なことを生かして、行きたい大学に挑戦させるのが、同校の進路指導の方針だ。21年度大学入試を受験した生徒も、探究学習を通じて、自分は将来どのように社会とかわりたのかを突き詰めて考え、その実現のために6年間で培った資質・能力をしっかりと認識できていたと、20年度6年次の年次主任を務めた小島啓一先生は振り返る。「自分の関心や様々な社会課題

を知ること、志望に対するこだわりを持たせたいと考えました。そして、そのこだわりが、どうすれば他者に伝わるものになるのか、生徒同士で表現し合うことを通じて言葉を磨く場を設けました。それが結果的に、学校推薦型選抜、総合型選抜の合格者の増加につながったのだと思います」

生徒はどのようにして自身の成長や志望校への思いを「マイ・ストーリー」として表現できるようになっていったのか。探究学習と教科学習、特別活動の面から見ていく。

面談は、生徒に内面を言語化させる場

同校の探究学習は、4年次にグループによる地域課題探究、5・6年次に個人によるキャリア課題探究を行う（6年次は選択科目）。生徒が探究学習に主体的に取り組めるように、「課題探究マトリックス」を運用している。「○○の課題を知る」「○○の解決法や改善策を考える」など、A～超Dの5段階の目標を示すとともに、探究の過程を、「仮説を立てる」「条件を想定する」「効果検証」として、各

図2 「進路のしおり」身につけさせたい資質・能力のルーブリック、大学訪問のポートフォリオ(抜粋)

ポートフォリオは、成長した力・しなかった力を認識し、学習改善につなげることを意識して書かせるようにしている。
※学校資料を抜粋して掲載。

年度に6年次担任を務めた進路指
導部の寺沢英幸先生は、こう語る。
「記入時に生徒に注意したのは、
活動と資質・能力の関係性につ
いてです。『□□の活動を通じて
○○力が伸びた』というように、

自身の成長を経験と結びつけなが
ら評価する習慣を身につけてほし
いと考えました」
教科学習の振り返りでは、例え
ば、太田先生は、担当教科の国語
の授業で、ポートフォリオを活用

して自己の学びの現状を把握させ
ている(図3)と言う。

「学力を高めるためには、自分に
足りない点やつまづいている点を
客観的に捉えて、学習のPDCA
サイクルを回すことが重要です。
そのために、目標とその達成状況、
そして課題を視覚化する仕組みが
必要だと考えました」

ポートフォリオは、Google
フォーム(*)を使って科目ごと
に記録する。年度始めに、「自分
の言葉で根拠を述べられるように
する」などと、自分の学習目標を
立てた上で、定期考査や長期休業
中の家庭学習などの取り組みにつ
いて、計画と振り返りを記入する。

同ポートフォリオは、「関心・
意欲・態度」の評価対象でもある。
例えば、学習計画については、「定
期考査の1週間前までに学習ノー
トを完成させる」などと、「何を、
いつまでに、どれだけ取り組むの
か」までを書けると、最良のA評
価となる。「Xを終えたらYをす
る」「1日5つ単語を覚える」など、
期限を区切っていないかったり、全
体を見通せていなかったりする計

画は、BまたはC評価となる。

振り返りは、計画通りに実行で
きたかどうかを5段階で自己評価
する。ただし、「やりきれなかつ
た」を選んだからといって、教師
の評価が低くなるわけではない。
「余裕を持って提出物を出す」「優
先順位を整理する」などと、具体
的な改善策を書けていればA評価
となり、改善策が抽象的だったり、
矛盾点があったりすると、Bまた
はC評価になる。

「自分の学習を客観視して、計
画通りにできたこと、できなかつ
たことを振り返り、次の学習に向
けた方針や見通しを言語化するこ
とを重視しています」(太田先生)

「学びのプロジェクト」で
キャリアの展望をストーリー化

6年間にわたる生徒の学びと将
来の夢をつなげる結節点となるの
が、6年次に行う「学びのプロ
ジェクト」だ。人生をかけて実現
したい「大プロジェクト」を掲げ、
その実現に近づくための「中プロ
ジェクト」を高校卒業後の進学先

* アンケートの作成とともに、そのアンケートの集計や分析を行えるオンラインツール。

図3 国語科「現代文B」のポートフォリオ(抜粋)

教科	国語	科目名	現代文B	単位数	2																					
<p>【問い】この小説3編を、国語で何と身に付けている？ 所収を明記してごらん。</p> <p>読まれた筆者の意図を正しく読み取らなさい。</p> <p>【問い】風評や噂で名前を悪くされた主人公(見方)は誰？ 主人公(見方)の苦悶の瞬間を人々に伝えて。登場人物(見方)は誰か？ 文章の読解力、筆者の意図を読み取る力。</p> <p>【問い】問いの力を身に付けるために何を学ぶことは得た？ 次の学習までに文学になるべく多く読んで読解力を伸ばせ。</p> <p>【問い】読評の希望が叶えられたか？ 読評した。また、おもしろいところを 筆者の読評が有らぬように見えておもしろくしてほしい。</p>																										
<p>得意な得意 好きな嫌いな 別の理由</p> <p>とらえがたいところ 嫌い 他の教科よりも得意だけれど、文章が読んでいるととも風を感ぜなければならぬので 読める</p>																										
<p>1学期中間考査に向けて</p> <p>希望範囲に達していない文章の読み直しをすすめてみる</p> <p>山月記 前巻を作り直さるために</p> <p>学期の考査で求められる(読評)の書き出しを準備しておく。</p> <p>準備、具体例から排他概念を読み取る。 捨取りの両方を意識する読解をする。</p> <p>【読評学習の目標 ①】</p> <p>考査が終了するまでに読評、見方とは一休的なもの、その違いをどこに求めるか(読評)に理解する。</p> <p>【読評学習の目標 ②】</p> <p>考査までに読評を全編読解し、自分がつくまでは解きなさい。</p> <p>【読評学習の目標 ③】</p> <p>考査について問題読解を解き、考査までには解くまで読み書きできるようにする。</p>																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>学期の考査の 達成率</th> <th>読評 100%</th> <th>読評 80%</th> <th>読評 60%</th> <th>読評 40%</th> <th>読評 20%</th> <th>読評 0%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>加減</td> <td>100%</td> <td>80%</td> <td>60%</td> <td>40%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100%</td> <td>80%</td> <td>60%</td> <td>40%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>考査に向けた学習を全編読解し、自分がつくまでは解きなさい。</p> <p>読評をかけたが、読評が読まずで達成できなかった。または、読評範囲に読評できなかった。</p>						学期の考査の 達成率	読評 100%	読評 80%	読評 60%	読評 40%	読評 20%	読評 0%	加減	100%	80%	60%	40%	20%	0%	合計	100%	80%	60%	40%	20%	0%
学期の考査の 達成率	読評 100%	読評 80%	読評 60%	読評 40%	読評 20%	読評 0%																				
加減	100%	80%	60%	40%	20%	0%																				
合計	100%	80%	60%	40%	20%	0%																				

※学校資料を抜粋して掲載。

でどのような研究を行うことで形にしようと考えているのか、生徒が発表し合う。例えば、観光学部を志望する生徒は、次のような趣旨の発表をした。

「自分は興味のあることが多すぎて、6回生までに志望を1つに絞れなかった。そこで、幅広い分野を学べる社会学に注目するとともに、地域や観光をテーマに取り組んだ5・6年次の探究学習の経験を生かせる観光学部を志望することにした。また、1年次から地

域社会やグローバル化、外国語について学んできた経験を踏まえ、国際教育に力を入れている大学を志望することにした。進学後は、地域と世界のつながりについて研究し、地域の文化や伝統をグローバルに発信していきたい。」

そのように、自身の学びを振り返り、関心や適性、経験を踏まえ、志望する学問分野や大学を考え、高校生活と大学での学びをつなげたキャリアの展望を一人ひとりが語った。

主体的・対話的な
学び合いで切磋琢磨

6年次の9月からは、週1回、主体的で対話的な生徒同士の学び合いによる希望進路実現に向けたグループ活動「校内アゴラ」を実施した。学びを深めたいテーマが近い生徒同士でグループを組み、計画を立て、活動を行った。

例えば、表現力の向上に取り組んだグループでは、メンバーが大入試に向けて作成した、自身の活動の紹介動画を視聴し、ほかのメンバーが「志望動機が弱い」などと助言。既に合格が決まっている生徒も参加し、これから入試に臨む生徒に助言していたという。

個別学力検査の過去問題を題材に学び合いを実践したグループでは、事前に各自で取り組んだ問題について、生徒同士で解説し合ったり、別解を出し合ったりした。

「自分と近い目標を持つ仲間が、どんな思いで入試に臨もうとしているのか、自己実現を図ろうとしているのかを知り、刺激を受けていたようです。切磋琢磨する雰囲気

気も醸成されていたように思います」(寺沢先生)

徹底した振り返りと内省によって自己を把握し、「マイ・ストーリー」を語る生徒が協働して力を高め合った成果は、冒頭に述べた21年度大学入試の結果に表れた。「自分の関心や将来実現したいことを踏まえて学部・学科選びができたことが、総合型選抜で評価されるとともに、一般選抜の受験者の学習意欲の維持にもつながり、最後まで志望を貫くことができました」(小島先生)

今後の課題は、生徒一人ひとりの将来像に、より合致した大学の学部選びを支援することだ。

「将来の目標と、大学・学問との接続がまだ弱いと感じています。自己理解を深め、目標が明確でも、学部・学科の情報が不足し、ミスマッチが起こることがあります。自分が関心のある社会課題を研究するためには、どの学問を学ばよいかといった点はもちろん、生徒が具体的な学科学科名や教授名まで挙げられるように、支援していきます」(太田先生)

志望の「きっかけ」を「動機」に変え、 目標と現実とのギャップを埋めるストーリーを描く

茨城県・私立江戸川学園取手中・高校

茨城県・私立江戸川学園取手中・高校では、近年、生徒の主体性を引き出す指導に力を入れてきた。生徒に目標を持たせるとともに、目標と現実とのギャップをどう埋めるのかを考え、その解決策を実行することを通じて、自律的に成長する力を伸ばしている。また、多様な体験の中で得た気づきをアウトプットさせることで、自身の課題を客観的に捉える力も育成している。

志を高めるには「きっかけ」を「動機」に変えることが大切

茨城県屈指の進学校の1つである私立江戸川学園取手中・高校は、コロナ禍の中、2021年度大学入試において、さらに大きく進学実績を伸ばした。東京大学合格者5人に加え、筑波大学医学類合格者7人は5年連続全国1位。医学部医学科合格者数は111人と、同校の過去最高を記録した。進学実績が伸びた要因は、生徒の主体性にある。

性を育成する指導を模索してきた。それは、これまで同校が重視してきた「手厚い指導」からの転換の必要性を、誰よりも教師が感じていたからだ。かつては大量の宿題・課題を与え、長期休業中もほぼ毎日登校させて生徒を支えてきた同校だったが、5年前、竹澤賢司前校長が「Society 5.0」を見据えた学校改革を提唱。自ら価値を創造する人材の育成のために、管理型の教育を改め、生徒の主体性を伸ばす指導へと舵を切った。

や志を持たせることだ。進路指導部部長で医科コース担任の熊代淳先生は、次のように説明する。「目標と現状のギャップがどれくらいあるかが分からなければ、自分で学習や生活を改善しようといった主体性は生まれません。将来したいことは何か、それを実現させるためにどの大学・学部で何を学ぶのか、目標の大学に入るために必要な学力は身につけているのか、不十分な場合はそのギャップを埋めるために何をすればいいのか――。生徒の主体性を引き出す上でまず必要なのが、夢や目標

を持たせることです。大きな目標を描かせることで、志望校へのこだわりが生まれ、それは受験勉強を乗り越えるモチベーションにもなるのです」（熊代先生）

夢へと向かう生徒の志を育む上で教師が大切に行っているのが、『きっかけ』を『動機』に変えるための手助け」である。

「例えば、医科コースの生徒は、医師になるという希望を持っていますが、生徒の話をよく聞いてみると、医師になりたいと思っただけで、『きっかけ』はあっても、何となく実現させたいという

『動機』を持っていないことが少なくありません。『きっかけ』を実際の行動につなげて、志望校合格までに立ち足る壁を乗り越えていくためには、自分が未来にどうなっていたいのかといった『動機』が必要だと、生徒に伝えています」（熊代先生）

「きっかけ」で止まっている生徒は、志望理由書の中で使われている動詞が過去形に終始しているのに対し、「動機」を持っている生徒は、自分が大学で何をしたいの

かを伝えようとするため、未来形の表現が多くなると、進路指導部副部長の野村峻先生は説明する。

「志望校への強い憧れを持っていても、志望動機を明確に言えない生徒は少なくありません。志望したきっかけと大学の学部・学科で学ぶ内容、将来の夢を一本の線の上に乗せて、自分の幹を作っていくことが大切だと、生徒に伝えています。過去の自分の経験や思いを整理し、大学でどのように成長し、社会とどのようにかわっていくのか。一本筋の通ったストーリーを構築する手助けをすることが教師の役割だと考えています」

目標探しや志の向上のため、多様な体験の機会を提供

同校では、生徒が夢や目標を見つけられるよう、体験の機会を数多く設けている。もともと同校は、「心豊かなリーダーの育成」を教育理念に掲げて、「心力・学力・体力の三位一体の教育」を実践しており、特に「心力」を高めることを目的として、学校行事を充実

させてきた。例えば、医科コースでは、「きっかけ」を「動機」に変えていくために、現役の医師や研究者の講演会、病院実習などを頻繁に行い、生徒が将来を具体的に考えられるようにしている。

加えて近年は、ボランティア活動やコンテストなど、校外活動への参加も勧めている。参加者募集がある度に「Classi」(*)で全生徒に知らせて、参加した活動については、「Classi」のポータルフォロに入力させて、通知表や調査書に反映している。地域でのフードロスの軽減活動のボランティアや起業アイデアコンテスト、科学オリンピックなど、活動は多種多様で、1学期間に複数の活動に参加する生徒もいるという。

それらの体験は、学校推薦型選抜や総合型選抜のためではなく、あくまで目標探しや志の向上など、その生徒ならではの「マイ・ストーリー」を形成するための「原体験づくり」の場というのが、同校のスタンスだ。商品開発のプロジェクト学習を通じて「人を喜ばせたい」という自分の価値観に気

づく、あるいは、海外留学を通じて「グローバルに活躍したい」といった志を育む。体験を通じて、「人や社会のために働く」といった気持ちをおこすものも少なくない。

「将来、お金を稼いで高級車に乗りたいといった利己的な目標も、確かにモチベーションにはなりませんが、自分が我慢すれば、諦めることもできる弱い動機です。一方、『子どもを救うために、小児医療に貢献したい』といった利他的な目標は、簡単には取り下げられないものです。受験勉強が最も苦しい時、諦めずに粘り強く取り組むためには、揺るぎのない目標を掲げることがとても大切なことだと思います。多様な体験は、自分と社会との接点を見つかる上でも意義が大きいと考えています」（熊代先生）

定期的な振り返りを通じて自分の価値観に気づかせる

多様な体験を通じて得た気づきを「マイ・ストーリー」の軸となる目標や志として結実させるため



野村 峻 のむら・しゅん
教職歴10年。同校に赴任して6年目。社会科(地理)。



熊代 淳 くましろ・あつし
教職歴16年。同校に赴任して9年目。数学科。

学校概要

設立 1978 (昭和53) 年
形態 全日制/普通科/共学
生徒数 1学年440人
2021年度入試合格実績 (現浪計) 国公立大は、北海道大、東北大、東京工業大、東京大、名古屋大、大阪大などに127人が合格。私立大は、青山学院大、慶應義塾大、上智大、中央大、法政大、明治大、立教大、早稲田大などに延べ1503人が合格。

* 株式会社ベネッセホールディングスとソフトバンク株式会社の合併会社である Classi 株式会社が提供する、学校教育での ICT 活用を総合的に支援するサービス。

には、頻繁なアウトプットによる振り返りが重要になる。

同校では、中学1〜3年次は道徳の時間で、高校1〜3年次はLHRの中で月1回、自分の考えを言語化する活動を行っている。生徒は、B5判のノート1ページに、テーマについての感想や考えを書いて提出。担任は、クラス全員のノートを見てコメントを返す。

LHRのテーマは、「心力」の育成にかかわるものを担任が自由に考える。例えば、熊代先生のク

ラスでは、今年5月に、「マズローの欲求階層説」に基づいて、高

な目的や使命感を強く持つほど、受験に向かう気持ちが強くなるという話をした上で、生徒に「何のために医師になるのか」をノートに書かせた。

生徒がノートに記述する内容は、テーマに直接かわるものだけでなくもよいと伝えている。テーマから派生して、自身の体験や将来の目標について書く生徒もいるという。

図1 野村先生の学習手帳（抜粋）

2. 現状分析
 全国の中で自分の位置を知るものとして、今の皆さんには7月12日（月）に実施された第1回高2ベネッセ総合学力テストがあります。最近の目標などもいろいろありますが、自分自身の成長のためにも一度しっかりと見直しをしましょう。そのうえで、自分の現在の位置と目標を対照し、改善分野を把握して取り組んでいきましょう。今の自分の実力が（目標）を達成するよりも高い目標（より高いレベルの大学を目指す）は自分自身で目標値を調整（変更）を設定することで、よき目標としましょう！

●第1回高2ベネッセ総合学力テストの結果

	英語	数学	国語	英数国
得点	/100	/100	/100	/300
偏差値				

●志望校と今の自分の「差」をチェック！
 <国公立大学編！>

	英語	数学	国語
①第1志望校の偏差値			
②自分の偏差値			
A	①-②		
B	標準偏差+10		
C	A×B		

現2年生用に野村先生が作成した「学習手帳」。目標と現実とのギャップを知り、夏季休業中に取り組む学習について具体的に考えさせることがねらいだ。 ※学校資料をそのまま掲載。

「その時々々に考えたこと、最近

の体験で得た気づきなどを書くうちに、将来に向けた見通しや自分の適性などが少しずつ見えてくることもあり。そのように、時々心の変容を書き留めておくと、いざ自分の進路を本格的に考える際に大いに役立つ材料になります」（野村先生）

一方、生徒が日常の思いを記録するツールには、「Classi」のコメント機能を活用している。書き込む内容は、学習状況から勉強の悩み、その日にあった出来事まで幅広く。担任は生徒のコメントに対して返信を行い、アドバイスや励ましを送っている。

そのほか、夢や目標をアウトプットする機会として、毎年12月に「夢を語る会」を実施している。1・2年生から選ばれた各学年3人の生徒が、全校生徒の前で自分の将来の夢と、そのために今努力していることをプレゼンテーションソフトを使って発表。その上で、全校生徒が自身の夢や目標をテーマに作文を書く。そこにも、多様な体験から得た気づきが反映され

ることが多いという。

生徒は多様な活動をする中で、他者に伝えずにはいられない体験をし、それを言語化することで、自分の心の変容がより鮮明になる。それに対して教師がコメントを返すと、生徒は喜び、その後も頻繁に意見交換が行われる。そうしたサイクルが回ることで、ノートや「Classi」のコメントが、実質的にポートフォリオの役割を果たすようになるという。

「参加した取り組みすべてについて、感想や気づきを書かせる方法もあると思います。しかし、体験の機会を設ける目的は、夢や目標を持たせることにあるので、何も響かない体験があってもそれでもよいと思っています。本当に心に残った体験さえ書き残すことができれば、後々、生徒が自分の歴史を語る際の材料としては十分でしょう」（野村先生）

生徒が自由に気づきをアウトプットする機会を担保し、その声を教師がしっかりと受け止めることが、自分の価値観や適性に気づくことにつながるのである。

模擬試験や定期考査の結果を基に、
目標と現実のギャップを認識

将来の目標や志望校が決まった後は、その実現に向けて理想と現実のギャップを埋める道筋を描き、それを実行していくことが重要になる。教科学習での「マイ・ストーリー」を生徒が描くために、野村先生が21年度の2年生に対して実践しているのが、学習手帳の活用だ。

志望校の偏差値と入試科目を調べさせ、模擬試験の結果から、各科目においてあと何点上乗せする必要があるのかを考えさせた上で（第1志望の偏差値－自分の偏差値）×「標準偏差÷10」で求める）、次の模擬試験で何点取ることを目標にするのか、その達成のために夏季休業中に自分がすべき学習内容は何かを具体的に考え、その結果を手帳に記入させる（図1）。

21年度1学年では、前期・後期それぞれで行われる三者面談において、生徒自身に目標を語らせる時間を設けている。定期考査または模擬試験を振り返り、どのよう



写真1 生徒の発表で始まる三者面談。当初、熊代先生のクラスのみでの取り組みだったが、21年度から1学年全体での実施に拡大した。

な学習をしたのか、目標まであと何点必要で、今後どのような学習をするのか、20〜30分間の三者面談の冒頭5〜10分間を使い、プレゼンテーションソフトや紙の資料を使って保護者と教師の前で発表させる（写真1）。発表資料のフォーマットは、教師が用意。今期の得点、志望校の偏差値、目標

点、目標点まで必要な点数を記入する仕様とした。

「三者面談は保護者と教師の対談になりがちですが、本来の主役は生徒です。生徒自身に目標と現実のギャップを語らせることで、生徒のメタ認知を高めるのがねらいです」（熊代先生）

大学入試では、我が子を思うがあまり、しばしば保護者が子どもに過干渉になってしまい、生徒の主体性を阻害してしまうことがある。生徒の口から目標を語らせることは、保護者が子どもの主体性を信じ、程よい距離感を保つようになる効果もあるという。

目標に向けて改善を 重ねるプロセスが大切

指導の成果は、卒業生の姿に表れている。

「以前は、学校を信じていれば大丈夫だからと、教師に言われたことだけに取り組む生徒が多かったです。しかしここ数年、在校生に受験体験を語る卒業生の話を聞くと、在学中に自分で手帳を作っ

て計画的に学習したといった経験などが語られるようになり、自分に何が必要なのかを考えて行動する力、自分がなせうまくいったのかを客観的に分析できる力が身につけていると感じます。社会に出ても、自分の力で道を切り開いてくれることを期待しています」（熊代先生）

高い目標を掲げたからこそ、夢がかなわなかった生徒もいる。

「大学入試を通して学んでほしいのは、目標の達成に向けて不断の改善をするプロセスです。残念な結果に終わったとしても、少しでも合格に近づけたという自信や、やり遂げた満足感があれば、将来、新たな目標が見つかった時に、その達成に向けて努力する思いが湧いてくるでしょう。私たち教師も大学入試の結果にとらわれず、社会で出会う困難に対して前向きに頑張れる人材を育む指導を模索し続けていきます」（野村先生）

「マイ・ストーリー」を描き、未来を創ろうとする経験は、生徒にとって、人生を通じて生きる財産になるのだろう。

「振り返り・自己分析・選択」の過程を通して、主体的に学ぶ力を身につけさせる

長崎県立諫早高校

2021年度大学入試で、長崎県内屈指の合格実績を上げた長崎県立諫早高校。その成功の要因は、様々な活動における生徒の振り返りと自己分析、それを基に、自分が取るべき行動を選択させるという3年間の指導の中で成し得た、確固たる「マイ・ストーリー」の形成だった。

最後まで合格を信じ、挑戦を続けた生徒たち

2021年度大学入試において、3年生280人のうち、73%の生徒が国公立大学合格を果たした長崎県立諫早高校。同校の大学入学共通テスト（以下、共通テスト）の自己採点結果を基にした個別学力検査（前期日程）出願時の可否判定と最終可否結果を見ると、興味深い数値が浮かび上がる。共通テストの結果のみによる可否判定でAまたはB判定だった生徒の合格率は92・4%と高い結果で

あったが、C判定以下だった生徒の合格率も、53・4%という好結果だったのだ。原田尚之校長は、「『行ける大学』ではなく、『行きたい大学』への思いを貫いた本校の生徒たちが誇らしい」と語る。「本校におけるC判定以下での受験、いわゆるチャレンジ受験の生徒のうち、半数以上の生徒が逆転合格を果たしました。さらに、国公立大学の学校推薦型選抜、総合型選抜では、出願した31人のうち、7割を超える23人が合格しました。本校では近年、生徒に時間や機会を預ける指導を重視

してきました（『VIEW21』高校版2018年12月号P.21〜24参照）。21年度大学入試の結果は、先生方が生徒の志望の確かさや長所を把握し、3年間支援してきた成果でもあると思います」生徒たちが、「行ける大学」ではなく、「行きたい大学」への思いを確固たるものとし、最後まで合格を信じて挑戦を続けられたのはなぜか。同校の取り組みのうち、志望理由書作成、キャリア検討会、そして「振り返りと目標設定シート」による自己分析に焦点をあてながら、「マイ・ストーリー」を

描く力を育んだ要因を明らかにしていく。

自分の「これまで」に向き合い「これから」を考える

21年度大学入試に挑んだ生徒が1年次から徹底して取り組んできたのが、学校行事や「総合的な学習の時間（以下、総合学習）」、そして、学期や学年ごとにおける振り返りだ。学年主任として生徒を3年間見守った藤村誠先生は、「振り返りによって、様々な活動での自分の成長を知り、次に取り組む

2021年度大学入試合格者の姿から考える
志望をかなえる「マイ・ストーリー」

べきことを考えさせたかった」と
ねらいを語る。

「振り返りでは、自己評価に加
えて、担任や保護者、クラスメー
トからも評価してもらいました。



校長
原田尚之
はらだ・たかゆき
教職歴38年。同校に赴任し
て4年目。



前3学年主任
藤村 誠
ふじむら・まこと
教職歴33年。同校に赴任して
7年目。地理歴史・公民科。



教務主任
後田康蔵
うしろだ・こうぞう
教職歴25年。同校に赴任し
て10年目。理科。



進路指導主事
園田浩二
そのだ・こうじ
教職歴16年。同校に赴任し
て7年目。数学科。

学校概要

設立 1911(明治)44年
形態 全日制・定時制/普通科/共学
生徒数 1学年約280人
2021年度入試合格実績(現役のみ) 国公
立大は、東京大、京大、大阪大、広島大、
九州大、長崎大、熊本大などに204人が合格。
私立大は、慶應義塾大、自治医科大、東京理
科大、明治大、早稲田大、同志社大、立命館大、
関西大、関西学院大などに延べ195人が合
格。

図1 2年次2月 志望理由書作成の流れ

- 1 この時期に志望理由書を作成する理由を生徒に説明する
- 2 高校生活の取り組みを、志望大学での学びや研究の社会的な意義と結びつけ、志望理由をストーリーにして表現させてみる
- 3 志望大学のアドミッション・ポリシーや学部・学科の研究内容を確認し、自分が取り組みたい研究の社会的意義を、志望大学で実現できる研究に結びつけられるかを考えさせる
- 4 志望理由を構成する、意思表示・きっかけ・社会的意義・まとめの4つの観点それぞれについて文章化させる
- 5 意思表示・きっかけ・社会的意義・まとめの4つの観点それぞれを、1つのまとまった文章として下書きさせ、生徒自身に添削させる
- 6 学びたい研究内容と生徒自身のエピソードがつながったストーリーを盛り込んだ志望理由書を完成させる

※学校資料を基に編集部で作成。

多面的評価の積み重ねによって、
生徒は高校生活での成長を、志望
理由書や小論文などで表現できる
ようになったと思います」

「マイ・ストーリー」を描く力
を生徒に育む上で大きな役割を果
たしたのが、2年次の2月に全生
徒が取り組む志望理由書作成だ。
「1年次からの様々な場面での振
り返りの集大成にあたるもの」と、
進路指導主事の園田浩二先生は説
明する。

「『総合学習』における課題研究
を始めとする、自分の高校生活
を語る上での材料を棚卸ししなが
ら、希望進路への思いを段階的に
ストーリーにしてみる場が、志望
理由書作成です(図1)。自分の
高校生活での経験、大学での研究
の社会的意義などから構成される
志望理由書の作成によって、自分
の志望理由は大学にとって説得力
のあるものになっているか、出願
までにどんな活動をしておくべき
かなどを考えることができます」

教科学力にとどまらない、
多様な視点で生徒を把握

「志望理由書の作成は、学校推
薦型選抜・総合型選抜の受験者だ
けでなく、一般選抜の受験者に
とつても、学習のモチベーション
を高めるスイッチの役割を果たし
たと思います」(藤村先生)

1年次12月と2年次10月には進
路検討会「キャリア検討会」を実
施する。同検討会では、ルーブリッ
クで示された「本校の目指す生徒
像」に対する生徒の自己評価、活
動実績、そして1年次の1学期に
受検した「GPS-Academic(※)」
の結果を基に、学校推薦型選抜、
総合型選抜を勧めたい生徒を学年
団全体で検討する(P.20図2)。
「キャリア検討会では、学校推
薦型選抜、総合型選抜の受験にふ
さわしいと考えられる生徒を学年
団で共有しました。そして、その
生徒に今後有用と思われる校内外
の活動は何かを話し合ったり、既
に同様の活動に取り組む他クラス
の生徒や、フロントランナー的な

※ ベネッセのアセスメントの1つで、問題発見・解決に必要な3つの思考力(批判的思考力、協働的思考力、創造的思考力)を選択式、記述・論述式、質問紙で多面的に測るテスト。

図2 キャリア検討会で担任から提出される生徒資料

○組 ○番	欠席日数 (2年8月まで)			0	GTEC	1020	テニス部
GTZ	批判	協働	創造	① 琉球 大学 医 学部 医 学科			
7月進研	SI	GPS	A B B	② 徳島 大学 医 学部 医 学科			
ルーブリック自己評価				担任評価			
授業	家庭学習	総合	学校生活	部活動	諸活動	担任評価	
B	A	B	A	B	B	担任評価	
				特記事項			
				カナダ研修			

キャリア検討会では、進研模試とGPSの結果、育成を目指す資質・能力についての自己評価と担任評価などを基に、学校推薦型選抜、総合型選抜の受験に適した生徒を検討する。検討会に参加する教師は、クラスや担当教科を超えて生徒を理解し、検討会後は、担任以外の教師からも生徒への声かけが活発に行われる。

※学校資料を基に編集部で作成。

上級生と検討対象の生徒を引き合わせるための情報を共有したりしました」(藤村先生)
キャリア検討会の組上そじょうに載せる生徒は各クラス5人程度としたため、担任は検討会に先立って、自

分が担当するクラスの候補の生徒と面談を行い、その時点での希望進路や校内外で取り組んでいる活動などについての生徒の考えを聞き、人選を行った。

「面談によって生徒は、学校推薦型選抜や総合型選抜が、評定のよさや、欠席日数の少なさといったことだけで出願できるものではなく、高校生活での活動などを根拠にした強固な志望理由が必要であることを認識したと思います。また、担任にとっても、進路をテーマに深く生徒と面談する、貴重な機会になりました。担任の先生方からは、『生徒のことを深く理解できた』『教師としての成長につながった』といった声が聞かれました」(園田先生)

3年生に進級しても、「マイ・ストーリー」を描く力を育成する支援は続いた。
「例えば、8月に実施した校内学習合宿では、自学自習だけでなく、同じ学部系統を志望する生徒をグループにした討論会も実施しました。本気で学習に取り組む最中だからこそ、『なぜ、大学に行

くのか』を語り合うことは、極めて良質なモチベーションになります。秋以降も、『何のために進学するのか』と生徒に問いかけ続けてくださいと、先生方にもお願いしました。改めて志を言葉にすることで、生徒が『マイ・ストーリー』についてさらに深く考えたり、考えが広がったりすることを期待していました」(藤村先生)

自分に必要な学びを
生徒が考え、選択する

21年度大学入試における同校の実績は、3年間を通して生徒の志望を確たるものにしていったことが大きな要因となっていることは確かだ。そして、もう1点着目すべきなのが、生徒が自分自身で学習面での課題を見つけ、主体的に学習に取り組むための支援だ。同校の生徒は、「振り返りと目標設定シート」(図3)に沿って模擬試験の振り返りを行い、合格するためにどのレベルの問題を得点できるようにする必要があるのである。これを考え、科目ごとの学習方法や時

間配分などを検討する。「振り返りと目標設定シート」は、家庭学習や課外講座などで、自分は今何を学ぶべきなのかを生徒自身が判断する基準になったと、教務主任の後田康蔵先生は語る。
「生徒が、自分の状況を客観的に捉え、自分に必要な学習を選択する。どのような学習をすればよいか分からない生徒は、教師に相談し、考える。そうした選択の場面を教科学習においてもつくることで、主体的に学ぶ力が身につくと考えました」

同校の教師たちは、教科学習のみならず、進路学習における選択の経験が、受験に向けて主体的に学ぶ力へと転化されると考えている。
「本校では、1年次の1学期から、自由参加の進路イベントをたくさん生徒に紹介します。東京大学に進学した卒業生と高校生が学校改革について話し合ったり、医学部志望者が長崎の離島の医師の下でインターンシップを経験したりと、その多くは本校独自のものです。学校が手間ひまをかけて進

2021年度大学入試合格者の姿から考える
志望をかなえる「マイ・ストーリー」

図3 振り返りと目標設定シート

1月進研実力の振り返りと目標設定													
2年 組 番 氏名													
科目	A	自己採点											
		得点率	104	84	66	38	49	45	39	77	28	59	
		解説											
	B	自己採点											
		得点率	66	100		49	36	32	37	61	23	64	
		解説											
	C	自己採点											
		得点率	30	10		16	26	19	43	9	6	9	
		解説											
	合計		得点率	200	200	200	100	100	100	125	50	100	100

言語	レベル	取組モデル	目標 (の月日までに取り組むこと)
A	【例文】 授業における質問について、自分でも考える。問題演習では、自分の得意のところが足りないので解法をより良いものに修正する。		
B	【例文】 英文読解で単語を覚える。全1冊の単語帳を2冊にする。単語帳の単語を覚える。		
C	【例文】 現代文キーワード及び漢字の勉強。「現代文のキーワード」のカードを持って、漢字の勉強をする。		

模擬試験終了後、科目ごとに小問別の難易度レベルを3段階で生徒に示す。生徒は、自己採点結果と照らし合わせ、各レベルの問題をどれだけ正解できていたのかを、科目ごとに確認して振り返り、その後の学習計画に生かす。教科学習面における、生徒の自己分析と方略の選択のベースとなるものだ。

※学校資料を基に編集部で作成。

路イベントをつくっており、生徒も、参加することが意義深いことだと考えるはず。生徒の多くは部活動に参加していますので、参加したいイベントが部活動の日程と重なってしまった場合は、部活動の顧問の教師に自分の思いを説明し、イベントへの参加の了承を得なければいけません。そう

した生徒の自己分析と選択、そして自分の思いを他者に伝える行為も、主体的に学ぶ力の土台になるはず。 (後田先生)

「マイ・ストーリー」を多様な人と描く力が必要

3年間かけて、生徒の「マイ・

「唐突な志望変更も、その生徒のことをよく知る人から見れば、むしろ当然のことだったのかも」

その生徒は、自分の校内活動のことをよく知る教師の協力を得て、短期間で志望理由をまとめ直し、総合型選抜での合格を果たした。

「突然の志望変更に戸惑いながらも、その生徒の話をよく聞いてみました。すると、3年間取り組んできた校内活動を、地域コミュニティなど生かしてみたいと言っている。そうであれば、出願まで時間のない中で志望を固め直すためにも、校内活動をともに行った先生に相談して、支援を仰ぎなさいと助言しました」(藤村先生)

進路と学習という高校生にとつての両輪をしっかりと駆動させ、生徒が自分を最も理解する人たちと進路を切り拓いていく。その軌跡もまた、「マイ・ストーリー」ではないだろうか。

「将来、高校生の真価の1つが、多様な活動の中で得た協力者・理解者の数や、その人々との関係の深さとなる時代が来ると思っています。キャリア検討会でも、『この生徒を理解しているのは誰か』といった項目が必要になると思います」(後田先生)

「将来、高校生の真価の1つが、多様な活動の中で得た協力者・理解者の数や、その人々との関係の深さとなる時代が来ると思っています。キャリア検討会でも、『この生徒を理解しているのは誰か』といった項目が必要になると思います」(後田先生)

校内外の多様な経験を通して「マイ・ストーリー」を描く生徒は、教師だけでなく、学校外の社会人などとも接することになる。「マイ・ストーリー」の共同作成者も多彩になって当然だろう。

「必要になってくるでしょう」(藤村先生)

新学習指導要領下で、生徒の「マイ・ストーリー」の 形成を支援する教師に求められること

大学入試における次の大きな変化は、新学習指導要領に対応して実施される2025年度入試だ。歴史的な改訂と言われる新学習指導要領には、教育目標や学び方、学習評価などにおいて、新たな視点が盛り込まれた。それらを踏まえて、生徒の「マイ・ストーリー」の形成を支援する教師には、どのようなことが求められるのか。本特集の内容とともに、ベネッセ文教総研所長の西島一博が総括する。

新学習指導要領で 一層求められる 「マイ・ストーリー」を描く力

生徒が自身の学びや活動を振り返り、それを次の学びや活動に生かしたり、その積み重ねを他者に向けて表現したりする力の育成は、これまでも先生方が重視してきたことだと思います。2022年度から実施される高校の新学習指導要領では、その重要性がますます高まると考えます。本コーナーでは、新学習指導要領における授業や指導の変化を押さえながら、生徒の「マイ・ストーリー」の形成を支援する重要性和、教師に求められることをお伝えします。

予測困難な時代の中で、新学習指導要領では、自らの人生を切り拓く上で必要な資質・能力の育成が求められています。そうした資質・能力を育成するための視点が、知識・技能の習得中心の学びから脱却し、探究のプロセスを経験することや、身につけた知識・技能を活用することが重視される「主体的・対話的で深い学び」です。そうした学習活動を通して、生きて働く知識・技能の習得を含む、多様な資質・能力を身につけることを目指すわけです。

各教科書会社のウェブサイトで開催されている、新学習指導要領に対応した教科書の案内を見ても、生徒が主体となって探究的・

協働的な学びを進めたり、学習内容を基に自己表現をしたりする活動を支える内容が充実しています。例えば、「地理総合」や「歴史総合」の教科書では、単元が「問い」から始まるものが多く、「覚える」から「考える」という学習観への転換を表しているように思えます。また、問いについて考えを深めるための様々な資料が、2次元バーコードのリンクも含めて用意されています。

シラバスやループブリックで、 育成を目指す資質・能力や 学び方を伝える

学校全体で「主体的・対話的で深い学び」の実践を推進するため



ベネッセ文教総研 所長
西島一博

には、どんな資質・能力をどのような学び方を通じて身につけるかを、言語化、意識化して、教師同士はもちろん、教師と生徒で共有することが求められます。そして、その共有に有効なツールが、シラバスやルーブリックです。それらを活用しながら、教科ごとの教育目標はもちろん、「3年間でこんな資質・能力や学び方を身につけてほしい」「こんな生徒に育て卒業してほしい」など、長期的な視点での教育目標や、そうした目標を設定した理由を、様々な機会に生徒に伝えることが重要です。

生徒自身が、「今の時期に身につけるのはこの資質・能力だ」などと意識して学びを進めることこそ、生徒が「マイ・ストーリー」を形成していくプロセスにほかならないからです。

**振り返りを積み重ね、
生徒のメタ認知能力の向上を**

生徒の資質・能力を向上させるためには、自身の学びを振り返る

機会を充実させることが大切です。振り返りの精度を高めるために、ルーブリックなどを基に、授業を通じてどのような気づきや学びがあったのか、どういった資質・能力が身についたのかなどを自己評価させます。それを繰り返す中で、生徒は目標に向かって着実に成長しているといった達成感を持つたり、「もつとこんな力を伸ばす必要がある」といった課題意識を抱いたりして、次の学びに主体的に向かうのです。

さらに、そうした振り返りを積み重ねていくことにより、生徒は次第に自身を客観視できるようになります、いわゆるメタ認知能力が向上します。それによって、自身の学びをますます豊かにし、また、「マイ・ストーリー」を形成・表現する力も高まっていくでしょう。

生徒が自分を客観視する上では、教師による形成的評価も大きな助けになります。学習の過程で生徒の理解度を確認し、生徒と教師がその後の学習改善や授業改善に生かしていく形成的評価は、まさに生徒の成長を促すための評価

です。教師は、生徒の学びの姿を見取る際には、生徒が自身の過去と比べてどういった点がどのように成長したのかを自覚できるように支援することが重要です。そこそが、新学習指導要領で求められている評価観の軸だと思えます。

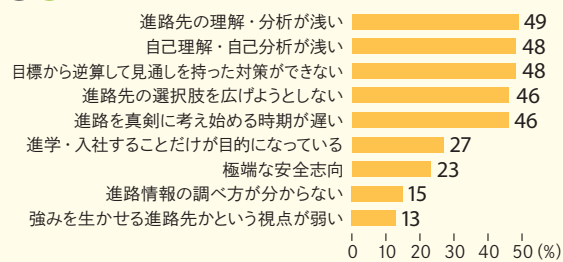
進路指導において、生徒の自己理解・自己分析の浅さや、目標から逆算して見通しを持つことができない生徒がいることを課題と感じている教師は少なくありません(図1)。日々の学びをルーブリックや形成的評価で確認する中で育まれた「マイ・ストーリー」を形成する力は、自己理解を深めたり、目標から逆算して見通しを考えた

りする際にも求められます。形成的評価をこれまで以上に意識的に行うことは、進路指導上の問題解決にもつながるのです。

**これからの大学入試は
「マイ・ストーリー」の形成力・
表現力を評価する方向へ**

ここまで見てきたように、生徒が目標を持って学びを進めると

図1 進路指導において教師が感じる生徒の課題

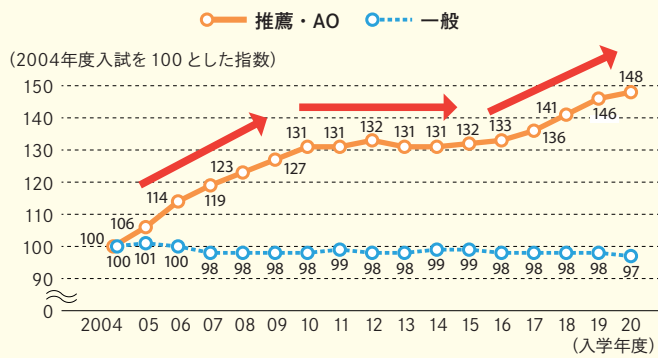


※ベネッセ教育情報センター「教育・入試改革対応に関する調査」(2021年2～3月にウェブとファクスで実施)を基に編集部で作成。

もに、自身の成長を言語化していくプロセスは、まさに生徒が「マイ・ストーリー」を描く過程と重なります。つまり、「マイ・ストーリー」を形成する過程と重なり、新学習指導要領下では、生徒一人ひとりが自身の学びや活動、そこでの気づきを蓄積し、それをストーリー化して表現するプロセスによって深い学びが実現すると考えられるのではないのでしょうか。

「マイ・ストーリー」を形成・表現する力は、これからの大学入試においてもますます求められる

図2 国公立大学における各選抜の入学者の推移



※文部科学省「国公立大学・短期大学入学選抜実施状況概要」を基に編集部で作成。

ことと思われま。これまでの推薦・AO入試の拡大傾向(図2)は、今後の学校推薦型選抜や総合型選抜でも続くことが予想されるほか、一般選抜においても、活動報告書等の提出を求める大学が増えるなど、多面的・総合的評価を重視する流れが強まっていくと考えられます。生徒の「マイ・ストーリー」の形成力・表現力を評価する方向に向かっていると

い方もできるでしょう。その背景には、これまでの推薦・AO入試などで、「マイ・ストーリー」の形成力や表現力の評価を経て入学した学生は、ペーパーテストのみでの評価を経て入学した学生に比べ、4年間での成長の度合いが大きいといった各種データが出てきたことがあります。20年度に実施された大学入試改革は、新学習指導要領への移行を見据えたものであり、新学習指導要領に対応した25年度入試が制度面や形式面で大きくは変わらないとしても、「マイ・ストーリー」の形成力や表現力の評価がより重視されると予測されることは留意しておくべき点でしょう。これからの社会を生き抜く上で必要な資質・能力を生徒に育成するためにも、大学入試で生徒の希望進路を実現させるためにも、「マイ・ストーリー」を描き、語れる生徒を育てるという視点から、新学習指導要領を改めてひもとき、授業や指導を見直していく意義は大きいのではないのでしょうか。

イベントのご案内

VIEWnext PRESENTS

2021年
10月4日(月)
オンラインで
開催!

本誌特集テーマとも連動!

自校の研修・会議に使える! 対話促進スキル向上・オンライン講座

2021年度大学入試、躍進の一因「キャリア検討会」
—— 教師同士の対話を促すポイントを探る ——



講師

いさはや
長崎県立諫早高校
教務主任
うしろ だ
後田康蔵

◎ 2018年度まで進路指導主事、19年度から教務主任を務める。同校の「キャリア検討会」導入において中心的役割を担った。

VIEW next 編集部は今年度、対話型の研修や会議を実現するために必要な対話促進スキルの向上を目的としたオンライン講座を、特集のテーマと連動させる形で開催しています。今回は、2021年度大学入試において学校推薦型選抜・総合型選抜での合格率が7割という実績を残した長崎県立諫早高校の「キャリア検討会」の詳細とともに、そうした場の進行役の教師が、参加者同士の対話を促進するために施すとよい工夫や配慮について、同校の教務主任で、「キャリア検討会」導入の立役者の1人でもある後田康蔵先生に、お話をいただきます。

開催日時 2021年10月4日(月) 16時30分~17時40分

形式 オンライン(ライブ配信) ※お申し込みいただいた方に、詳しい参加方法をご案内します。

参加申し込み方法 右の2次元コード、または下記 URL から登録してください。

<https://enquete.benesse.ne.jp/forms/o/we69d9dd5d/form.php>

参加申し込み締め切り 2021年9月29日(水) 参加費 無料



For School Section

学校改革や組織運営に役立つ
事例や情報を、
先生方の思いを乗せてお届けする

P.26

新課程に向けて描く 「学校教育デザイン」

新課程で求められるカリキュラム・マネジメントの
視点での学校づくりとは？

お勧めの分掌 ▶

管理職

教務担当

進路担当

東京都立第五商業高校

全教師がかかわるボトムアップ型で、
育成を目指す資質・能力のルーブリックを作成

P.30

—疑問や課題を解決！実践につながる！— 新課程レポート

ベネッセ教育情報センター

新課程初年度に向けた自校の計画・実践に
つながる事例や解説記事を提供

お勧めの分掌 ▶

管理職

教務担当

静岡県立御殿場高校

観点別学習状況の評価の試行
新課程を見据えた観点別評価の実践を通して、
資質・能力の育成につながる評価のあり方を追求

P.34

指導変革の軌跡

その時、教師は何を考え、どう動いたか。
学校改革の過程を当事者の言葉で追う

お勧めの分掌 ▶

管理職

教務担当

進路担当

兵庫県・私立神戸山手^{やまて}女子中学校高校

教職員協働の名門校再興
ガバナンスの強化とカリキュラム・マネジメントの推進で、
チームとしての教育力を高める

P.38

輝く^{みのお} 学年団を訪ねて

学年経営に悩む先生方に！
チームづくりの秘訣を振り下げる

お勧めの分掌 ▶

学年団

担任

大阪府・私立箕面自由学園高校 3学年団

楽しく学び続ける仕かけづくりと
気持ちを前向きにする声かけを続ける

P.42

学校 危機管理 基礎講座

お勧めの分掌 ▶

管理職

いざという時の対応は平時の準備で決まる。学校危機管理の専門家が解説

自然災害への備え

新課程に向けて描く

「学校教育デザイン」

全教師がかかわるボトムアップ型で、 育成を目指す資質・能力のルーブリックを作成

東京都立第五商業高校

アウトライン

グラウンドデザインとルーブリックを作成



「教科会」と「教科主任会議」を
行き来し、ルーブリックを作成

2020年3月にグラウンドデザインを策定した東京都立第五商業高校は、そこで掲げた育成を目指す8つの資質・能力それぞれのルーブリック(図)と、それに基づいた教科・科目ごとのルーブリックを作成した。

取り組みを牽引したのは、19年度に赴任した小川孝校長だ。全公立高校が19年度末までにグラウンドデザインを策定するという東京都教育委員会の施策を受け、小川校長も赴任直後から動き始めた。

グラウンドデザインの項目のうち、「目指す学校像」や「育成す

べき資質・能力」などは、学校教育目標や、前任の校長が書き留めた記録などを読み込み、小川校長が草案を作成。管理職と各分掌主任、学年主任から成る「企画調整会議」(*1)や、各教科の主任が集まる「教科主任会議」で草案を検討し、議論を重ねながら文言を確定させた。

一方、8つに設定した育成すべき資質・能力の到達度を測るルーブリックは、全教師がかかわる形で作成を進めた。

「ルーブリックの作成は、教師一人ひとりが、学校教育目標に基づき担当教科・科目の指導のあり方について深く考える機会になると捉えました。全教師がかかわり、

ボトムアップ型で作ろうと考えました」(小川校長)

具体的には、各教科会で、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の観点に学習に取り組む態度」の観点ごとに生徒に身につけさせたい資質・能力を検討し、評価標準のあり方を議論した。そして、各教科会から出された案を、教科主任会議で議論し、形にしていた。教務部主任の荒井久美先生は、次のように振り返る。

「例えば、教科主任会議で、ある項目の評価規準について議論が行き詰まった際には、各教科会で再び議論してもらおうといったように、教科会と教科主任会議を何度も行き来しながら、詳細を詰めて

*1 校長の補助機関として、校長の学校経営方針に基づき、学校全体の業務に関する企画立案、及び各分掌組織間の連絡調整、職員会議における議題の整理などを行う。

SCHOOL PROFILE

設立 1941(昭和16)年
形態 全日制・定時制/ビジネス科(全日制)、商業科(定時制)/共学

生徒数 1学年約210人(全日制)

2021年度進路実績(現役のみ)

4年制大は、國學院大、駒澤大、成蹊大、専修大、中央大、東京経済大、日本大、武蔵大などに57人が合格。短大・専門学校進学65人。就職75人。



図 「目指すべき生徒の将来像」と、「育成すべき資質・能力」のルーブリック及び各教科における評価項目

■ 目指すべき生徒の将来像

- 資格取得にとどまらず、確かな教養を身につけ、常に変化する社会で生き抜く人材の育成
- 「望ましい勤労観・職業観、創造性」を持ち、将来起こる様々な課題に自主的に取り組み、挑戦していくことができる人材の育成

■ 育成を目指す資質・能力と、各教科における評価項目

◎：特に評価できる ○：評価可能 空欄：評価できない

育成すべき資質・能力	レベル1	レベル2	レベル3	国語	地歴公	数学	理科	保健体育	英語	家庭	商業
技能・知識 社会的課題に対する知識、理解力	情報を収集し、必要なものを抽出することができる。	抽出した情報を理解することができる。	抽出した情報を課題解決に活用できる。	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎
思考力・判断力・表現力 筋道を立てて他者に伝える表現力	自分の意見を他者に伝えることができる。	自分の意見を他者に筋道を立てて伝えることができる。	自分の意見に他者が興味・関心を引くよう事例等をあげながら、工夫して伝えることができる。	◎	○	○	◎	○	◎	◎	○
思考力・判断力・表現力 論理的な思考力、判断力	他者のアドバイスがあれば、課題解決策を提案できる。	自分だけで課題解決策を提案できる。	自分だけで複数の課題解決策を提案できる。	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎
思考力・判断力・表現力 全般的なマネジメント力	課題の内容が理解できる。	課題の内容が理解でき、解決のためのプロセスを考案することができる。	課題解決のためのプロセスを考え、それに則って解決することができる。	○	○	◎	◎	◎		◎	◎
主体的に学習に取り組む態度 責任感、挑戦する姿勢、協働する力	学校の諸活動に積極的に参加できる。	学校の諸活動に自己の役割を見だし、参加することができる。	学校の諸活動に自己の役割を見だし、協働して最後まで責任を持ってやり遂げることができる。	○	○		◎	◎	○	◎	
主体的に学習に取り組む態度 自らを変える力、振り返る力	自己の課題を把握することができる。	自己の課題を把握し、改善のための目標を立てることができる。	自己の課題を改善し、反省と振り返りを重ねて次の行動につなげることができる。	○	○	○	◎	◎	○	◎	○
主体的に学習に取り組む態度 学びに向かう力、人間力	将来の生き方・在り方を考えることができる。	将来の生き方・在り方を考え、目標設定ができる。	将来の目標達成のために、今やるべきことを考え、実行できる。	○	○		◎	◎		◎	○
主体的に学習に取り組む態度 他者理解、異文化理解	他者の意見や異文化を受け入れ、その違いを理解できる。	他者の意見を記録・整理したり、異文化について調べたりして理解を深めようとしている。	他者の意見や異文化を正確に理解するために質問をし、比較検討することができる。	○	○		○	○	◎	◎	

地歴公：地理歴史・公民 ※学校資料を基に編集部で作成。

いきました。時間と手間はかかりましたが、すべての教師がルーブリックについての理解を深めることにつながりました」

教科・科目ごとに、育成を目指す資質・能力とルーブリックを整理

そのようにしてルーブリックを作成している最中に、教師から、「どの教科・科目でも『育成すべき資質・能力』を育成し、評価することは本当に可能なのか。教科・科目によって、育成・評価しやすい資質・能力があるのではないか」といった声が上がった。そこで、各教科会で、8つの育成すべき資質・能力が、その教科で「特に評価できる」「評価可能」「評価できない」のどれにあてはまるかを1つずつ検討し、その結果を「各教科における評価項目」(図)として一覧表にした。

「自分が担当する教科・科目では、どのような資質・能力を育成し、評価することが求められているのか、教育活動全体の中の教

科・科目の役割を考える機会になりました」（荒井先生）

20年3月にグランドデザインとループブリックを完成させた後は、教科・科目ごとに育成を目指す資質・能力を設定し、その到達度を測るためのループブリックの作成に着手した。

20年7月、有志の教師11人（各教科から1人以上が参加）から成る「ループブリック委員会」を設置。「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法など、ループブリックの作成・運用にあたって必要となる知識やノウハウを学んだり、評価方法に関する研究をしたりと、同年10月までに計5回の会合を実施した。各委員は、同委員会ですんだ知見を教科会でほかの教師に共有し、教科・科目ごとのループブリックの作成を進めた。

「教科・科目ごとのループブリックの形式は、全教科でそろえずに、各教科・科目に任せました。教科・科目の特性に応じた形にした方が、その後の運用がしやすく、ループブリックの活用が促進されると考えたからです。数学などは単元ご

とに作成し、国語などは全単元で利用できる共通のループブリックにしていました」（荒井先生）

随時見直し、ループブリックの完成度を高めていく

20年11月には、全教科において、各教科・科目のループブリックに基づいて作成した指導計画と評価計画による研究授業を実施。事後研究では、授業者と見学者が授業を振り返って、課題を出し合い議論した。ループブリック委員会の委員を務めた商業科の中島博己先生は、研究授業を行ったからこそ、見えてきた課題があったと話す。

「商業科の授業では、生徒が書いた営業日誌を、担当教師13人でループブリックに基づいて評価しました。すると、同じループブリックを用いているにもかかわらず、教師間で評価のばらつきが見られました。ループブリックの記述語の重要性を改めて実感するとともに、今後、運用をしながら少しずつでもよいから見直していこうと、教科内で話し合いました」（中島先生）

ブレイクスルー

若手教師を活動の軸に据える

若手教師を中心に、

活気と熱意にあふれた委員会

教科・科目ごとのループブリックの作成は、新学習指導要領の実施後の活用を見据えたものだ。20年度後半からそのループブリックを用いた指導や学習評価を行い、適宜見直して完成度を高め、22年度を迎えることを構想していた。新学習指導要領の実施までにループブリックを浸透させるためには、指導や学習評価における新しい手法の導入に対して抵抗感の少ない若手教師から実践することが鍵になると、荒井先生は考えた。

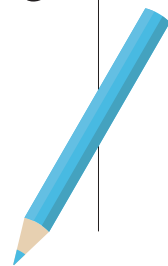
「若手教師にループブリックを活用してもらうためには、その作成に携わってもらうことが必要だと思います。そこで、ループブリック委員会の委員を、教職歴や赴任

歴に関係なく広く募りました。さらに、若手教師一人ひとりに声をかけ、これからの本校を担う先生方にこそ委員になってほしいと、思いを伝えました」

そうした結果、集まった11人の委員は、20代の教師を中心として、中堅教師やベテラン教師も加わり、幅広い視点からループブリックを検討できる体制となった。

若手教師は、荒井先生の予想通り、ループブリックの研究に意欲的に取り組んだ。中には、ループブリックを自ら試作し、出身大学の恩師を訪ねて、アドバイスをもらった若手教師もいたと言う。

同委員会でも、若手教師は積極的に意見を出し、熱い議論が交わされた。委員会発足から短期間で、全教科が自教科・科目のループブリックを完成させることができた





のは、若手教師の活躍があったからだと、中島先生は振り返る。

「委員会では若手教師の仕事ぶりに間近で接し、その勉強熱心な姿に、私自身、大きな刺激を受けました。彼らが意欲や能力を発揮できる場を整える重要性を実感しました」

また、荒井先生は、グラントデザインが教師の意識に大きな影響を及ぼしていることを最近、強く感じていると語る。

「新教育課程の編成に向けた教科主任会議の議論では、『グラントデザインに掲げた育成すべき資質・能力を確実に育むためには、どの教科・科目にどれくらいの授業時数を割り当てる必要があるか』といった視点で意見が交わされました。担当教科の立場だけでなく、学校全体の視点で建設的に議論が進みました」

そのように、常にグラントデザインに基づいて意見を出し合う意識が教師間に定着すれば、ルーブリックによる評価も浸透するのではないかと、荒井先生は考えている。

アップデート

教育活動や授業形態の変化も踏まえて見直す

グラントデザインもルーブリックも試行段階

緊急事態宣言の発出による分散登校への対応などもあり、教科・科目ごとのルーブリックを用いた指導と学習評価の実践は予定通りには進められていない状況だ。

コロナ禍の中、学校全体で取り組んできたのは、オンライン授業だ。昨春の臨時休業期間中に数人の教師が始め、今では全教科で実施。緊急事態宣言によって分散登校になった際には、同時双方向型とオンデマンド型（*2）を併用したオンライン授業を行っている。それが、各教科・科目のルーブリックの見直しにも影響するのではないかと、荒井先生は考えている。

「オンライン授業は今後も継続する予定で、そうになると、授業形態が以前と変わる可能性もあります。それに応じて、各教科・科目のルーブリックの修正も必要になってくるはずですよ。そうした点も検討するため、22年度を迎えるまでにもう一度研究授業を実施し、各教科・科目のルーブリックを見直す予定です」

グラントデザインも完成形ではないと、小川校長は話す。

「今後、探究学習にも力を入れていく予定ですが、現在のグラントデザインには、探究学習を通じて育成を目指す資質・能力について記載されていません。教育活動や授業形態などの変化に応じて、グラントデザインもルーブリックも随時見直していく考えです」



校長
小川 孝
おがわ・たかし

教職歴33年。同校に赴任して3年目。



主幹教諭、
教務部主任
荒井久美
あらい・くみ

教職歴20年。同校に赴任して8年目。外国語科（英語）。



指導教諭、
教務部
中島博己
なかじま・ひろき

教職歴38年。同校に赴任して11年目。商業科（簿記）。

*2 同時双方向型は、ウェブ会議システムなどを用いて、教師や生徒がコミュニケーションを取りながら授業を進める形態のこと。オンデマンド型は、インターネット上に教師が動画や資料などをアップしておき、生徒はそれを見ながら自分で学習を進める形態のこと。

新学習指導要領の実施が2022年度に迫る中、21年度は、新課程に向けた計画とその実践を通じた授業と評価の改善が求められる。新課程初年度に向け、実践事例や解説記事により現場の疑問や課題を解決し、自校の計画・実践につながる情報を提供する。

— 疑問や課題を解決！実践につながる！ —

新課程レポート

ベネッセ教育情報センター

テーマ

観点別学習状況の評価の試行

実践レポート

新課程を見据えた観点別評価の実践を通して、
資質・能力の育成につながる評価のあり方を追求

静岡県立御殿場高校ごてんば

静岡県立御殿場高校は、「地域とともに未来を創るスペシャリストの育成」を教育目標に掲げ、カリキュラム・マネジメントを推進してきた『VIEW21』高校版2020年2月号P.4〜7参照。22年度からの新教育課程に向けた観点別学習状況の評価（以下、観点別評価）の実践にも、20年度からいち早く取り組んでいる。

Q1 3観点での観点別評価の実践に取り組んだ背景は何か

観点別評価の研究の必要性は校内で共有されていたため、実践することで見えてくる課題や気づきを22年度の評価計画に生かすべく、20年度より学校全体で観点別評価を試行した

A1 20年度の途中から試験的に観点別評価を実施

菅原尚規先生（教務主任） 近年、本校は、静岡県総合教育センターの研究協力校として、公開授業研究会や教科横断型校内研修会など

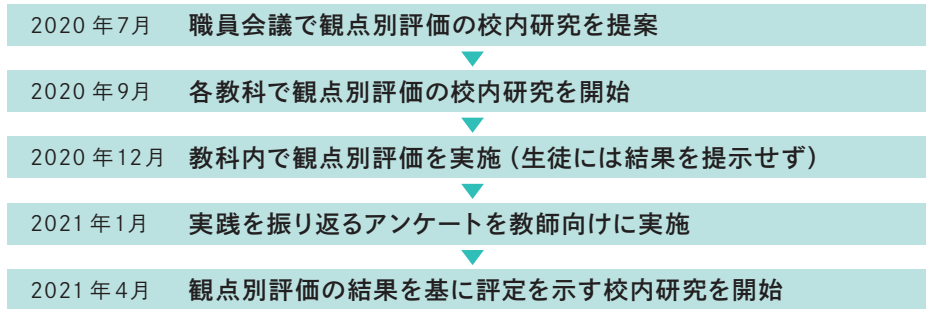
を校内で開催してきました。そうした場で得た知見から、観点別評価に関する研究に着手する必要を多くの教師が感じていました。観点別評価に対する根本的な理解から始めるのはハードルが高いように思いました。そこで、ま

ずは実践してみてもうまいかな、いところがあれば話し合っ解決策を考え、改善を重ねていく研究の形を採ることにしました。

20年4月から、県の指導主事の助言も得ながら校内研究の詳細な内容を検討し、7月の職員会議では、9月からの校内研究の目的と内容、その後の流れなどを提案しました（図1・図2）。

校内研究では、まず2学期に各教科で観点別評価を実施し、学期末の成績評価の際、成績報告書の所見欄にABC評価を記載することにしました。ただし、その評価

図1 御殿場高校の取り組みの流れ



※学校資料を基に編集部で作成。

はあくまでも研究の一環であり、今年度の実際の評価とは連動させないため、生徒には結果を提示しないこととしました。

Q₂

観点別評価の校内研究でどのようなことを重視したか

現状の4観点と新しい3観点をどのように切り分けるか、生徒の実態に合った評価ができるかについて、実際に評価を実施してみて確かめようと呼びかけた

A₂

校内研究のポイントを職員会議で周知

菅原先生 前述の通り、20年度2学期の観点別評価の校内研究は、7月の職員会議で提案しました。22年度からの新教育課程実施に向けて、観点別評価の計画は避けて通れないものであるということもあってか、校内研究の提案に対しての反対意見は出ませんでした。職員会議では、研究で特に重視してほしい内容として、次の2点を共有しました。1点目は、現状の4観点と新しい3観点を切り分けます。特に、「知識」と「技能」が「知識・技能」と1つの観点となったことで、どのような変化が生じるのか、実技系科目にとって

図2 観点別評価の研究に関する提案要旨(7月職員会議)

◎20年度2学期末の成績評価から、以下の流れで観点別評価を行う。

- ① 20年度2学期末の成績評価から、新学習指導要領における3観点での観点別評価を行う。(ただし、試験導入とする)
- ② 観点別評価の妥当性を教科内で検討、研究し、以下につなげる。
 - 単元の観点別の目標
 - 観点の主旨を踏まえた評価規準
 - 評価の場面や方法
- ③ 21年度は、観点別評価を10段階の評価に変換する研究を行う。

◎具体的な取り組みの例

①知識・技能

- 暗記ができていれば解けるもの、授業で教えた内容や課題で学んだ内容を直接答えさせるものとする
- 定期考査以外にも、小テストなどで測る など

②思考・判断・表現

- 授業で学んだことを基に、自分で考えたり、応用したりする力を見る
- ペーパーテストでは、初見かつ、授業で学習した内容を応用しないと解けない問題を出し、その部分を「思考・判断・表現」の評価と捉える
- 評価の規準は試験より前に決めておき、ルーブリックで生徒に示しておく など

③主体的に学習に取り組む態度

- 授業前後の自分の姿容をどの程度捉えられているかを評価する
- 授業の前後、単元の前後などに、目標を定めたり、自分の取り組みを振り返ったりするペーパーなどを書かせ、その記述内容を評価する
- 新たに学んだこと、分からなかったこと、もっと知りたいことなどを積極的に記述しているものを評価する など

※学校資料を基に編集部で作成。

は重要なテーマになります。2点目は、3観点による評価と、現状の評価のずれです。20年度の

Bラインの評価規準や、どういった評価手法を用いるかなどについて、あえて細かいルールは設

研究では、評定を出すことは求めなかったため、数字での比較はできませんが、目の前の生徒に対する現状の見取りと3観点の評価とのずれが大きい場合は、その原因はカットラインなのか、あるいは評価材料なのかを考えるよう、先生方にお願いました。

けず、各教科に任せました。「評価規準についても、学校独自で設定するものだからこそ、まずは自分たちで運用してみて、分からない

いこと、うまくいかないことが出てきたら、それを教科内で話し合いました」と呼びかけました。

Q3 教科での具体的な取り組みはどのようなものか

3

各単元の到達目標と評価の方法を生徒に伝えた上で、定期考査の各大問に、評価する資質・能力を明記した

A3

評価が難しい観点をどのように見取っていくか

菅原先生 私が担当する国語で

は、「知識・理解」を「知識・技能」に、「話す・聞く・書く・読む」を「思考・判断・表現」に、「関心・意欲・態度」を「主体的に学習に取り組む態度」に対応させて、定期考査の問題を検討しました。生徒には、「授業で身につけた力を、初見の文章の読解でも発揮できるようにすることが求められる」と、

考査を通じて評価する資質・能力について丁寧に説明しました。その上で、合計点に加え、観点別の得点も答案に明記しました。

生徒の学びの意欲を高く維持するためには、単元の流れも重要です。ある単元で、新聞の社説の読み比べを通じて批判的に物事を捉えることの大切さを学んだら、次の単元では、批判的なまなざしで社会の出来事を見つめ、実際に意見文を書くといった工夫をしました。

図3 読み方の基礎 単元まとめのレポート

論理展開を確かめる 単元まとめ

HRNO _____ 氏名 _____

この単元では評論の読み方とグラフや数字の見方を学習しました。授業を踏まえ、評論を読む上で注意すべきことを論じなさい。

◆ループリック

A	・授業で取り扱った評論を読むための具体的な方法をもとに、授業での気づきや自分なりの視点を含めて、評論文を上で注意すべき点を記述できている。 ・相手に伝わるように論理的かつ表現に注意して書かれている。
B	・授業で取り扱った評論を読むための具体的な方法をもとに、評論文を読む上で注意すべき点を記述できている。 ・相手に伝わる表現で書かれている。
C	・授業で学んだことが書かれていない。 ・文章表現が適切でない。 ・テーマからずれている。字数が不足している。

20年度の研究を経て、単元の終了時に行う生徒の自己評価の重要性に気がついた。そこで、21年度の研究では、ループリックを明示した単元まとめのレポートを生徒に課すことにした。
※学校資料を基に編集部で作成。

研究を通して実感したのは、「主体的に学習に取り組む態度」の評価の難しさです。現行の4観点での評価でも、「関心・意欲・態度」の評価に課題を感じている教師は多いと思います。国語科では、授業ごとに振り返りを書かせ、それを基に評価していましたが、むしろ単元の最後に、自分が何を学んだのかを客観的に振り返り、身につけたこと、足りなかったことを

メタ認知させた方が次の学びにつながるのではないかと考えました。そこで、21年度は、ループリックを並記した「単元まとめのレポート」(図3)を課し、ABCで評価して生徒に返却するようにしています。生徒には、「評価に一喜一憂せず、ループリックを見直して、何が足りなかったのか、次はどうしたらよいかを考えることが大切だ」と伝えていきます。

Q4

校内研究で新たに覚えてきた課題は何か

A4

「主体的に学習に取り組む態度」の評価が鍵。21年度は観点別評価を評定につなげ、生徒の実態にふさわしい評価計画を作成する

生徒の実態を踏まえて、生徒に合った評価を模索

菅原先生 20年度2学期の実践を経て、21年1月に観点別評価の校内研究に関するアンケートを教師向けに実施したところ、多くの教師が従来の評価とあまりずれを感じなかったことが分かりました(図4)。ただ、「知識・技能」「思考・判断・表現」はCだが、「主体的に学習に取り組む態度」はAといった生徒が出てきた場合についての問題提起がありました。3観点は連動している以上、「知識・技能」「思考・判断・表現」の力が高まっていなければ、自己調整ができていないわけですから、「主体的に学習に取り組む態度」の評

図4 観点別評価についてのアンケートで分かったこと

- 約9割の教師が、新観点での評価と従来の観点での評価とのずれは気にならない程度だと考えている
- 新観点での評価で大変だったこととして最も多かったのが、「主体的に学習に取り組む態度」の評価
- A B C評価のカットラインや観点別評価の評定への換算などについてはさらに研究が必要
- 研究を通して、評価について一度深く考えたという声が多数上がった
- 評価について個々の考えや取り組みを共有したり、評価規準の目線合わせをしたりするための場を求める声が多かった

※学校資料を基に編集部で作成。

価は低くなるはずですが、生徒の実態を見ると、そう単純に割り切ることはできません。「主体的に学習に取り組む態度」の評価にあたって、多様な評価の場面や材料

をどのように設定・収集すればよいか、知見が不足していると感じました。

21年度は、観点別評価を評定に総括し、従来の基準で行った評定と比べてみることになりました。まずは1学期末にその比較を行います。難しかったとの声が多かった、「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、単元まとめのレポートを活用する研究を同時に行うように提案しています。

今回の学習指導要領の改訂では、評価そのものの見直しが迫られていると感じています。教師一人ひとりが腹落ちし、統一感を持って取り組めるよう、引き続き研究を深めていきます。



教務主任
菅原尚規

すがわら・なおき

教職歴24年。同校に赴任して4年目。国語科。

新課程に関する情報は、『**ハイスクールオンライン**』でお届けします！



● 御殿場高校・菅原先生のインタビュー動画を公開中！
今回ご紹介したお取り組みに関するインタビュー動画をハイスクールオンラインに掲載しています。校内研究に関する資料や、単元まとめのレポート等の学校資料もダウンロードいただけます。ぜひご覧ください！

『ハイスクールオンライン』
トップページ>新課程>【先生インタビュー】観点別学習状況の評価の実践
https://bhs0.benesse.ne.jp/hs_online/shinkatei/report/210006.html

兵庫県・私立神戸山手女子中学校高校

教職員協働の名門校再興

ガバナンスの強化とカリキュラム・マネジメントの推進で、
チームとしての教育力を高める



学校概要

- ◎設立 1924 (大正 13) 年
- ◎形態 全日制／普通科、音楽科／女子校
- ◎生徒数 1 学年約 120 人 (高校)
- ◎2021 年度入試合格実績 (現役のみ) 国公立大は、奈良女子大、香川大、兵庫県立大などに 5 人が合格。私立大は、慶應義塾大、東京理科大、立命館大、龍谷大、関西大、近畿大、関西学院大、関西国際大などに延べ約 149 人が合格。

変革の背景

教育ミッションを実現すべく、
各分掌への分権を進める

兵庫県・私立神戸山手女子中学校高校は、2021年に創立97年目を迎えた伝統校だ。「自学自習」「情操陶冶」を建学の精神として、創立以来、自立した女性の育成に努め、これまで2万人の卒業生を送り出してきた。だが近年、志願者数は減少し続け、生徒の学力の多層化が進んできた。同校の教壇に立って35年目を迎える入試広報センター長の佐々木誠先生は、「このままではいけないと危機感を持ちながら、効果的な対策が打ち出せないで

ここまで来てしまった」と打ち明ける。

「広報面などで様々な工夫をしてきましたが、本質的な改善には至りませんでした。また、『自学自習』を建学の精神に掲げているが、多くの課題を与えて教え込むスタイルの授業がスタンダードで、組織的な授業改善も進んでいませんでした」

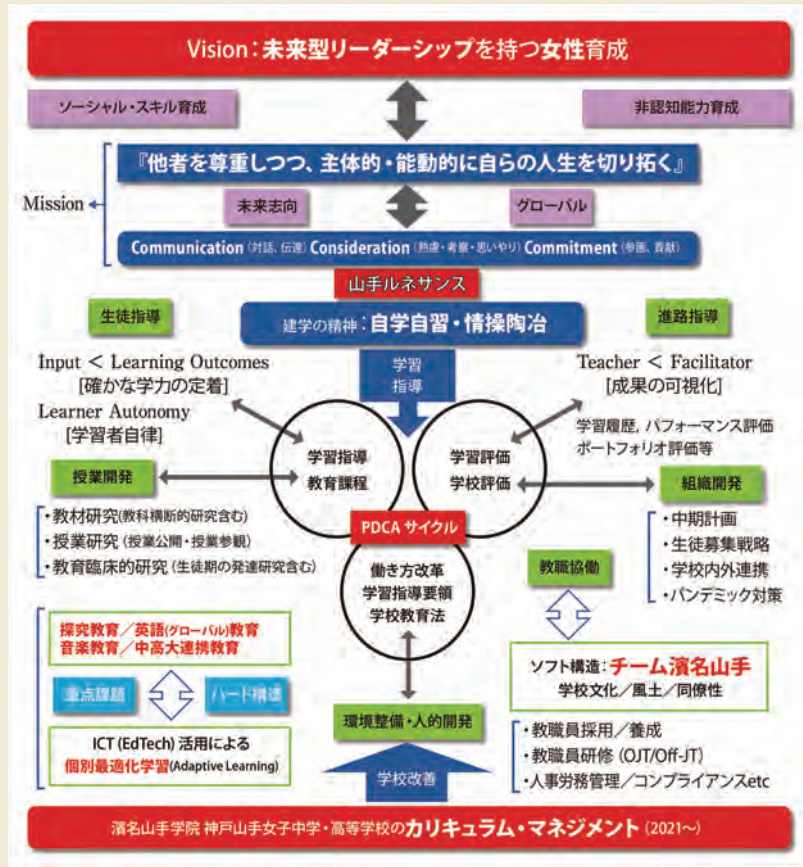
学校存続を危ぶむ声が校内から上がり始めたところで、同校は大きな転機を迎える。それは、私立中学校・高校の改革で多くの実績を残してきた平井正朗校長の着任だ。平井校長は、伝統校の衰退の原因は、進路実績の低下や広報戦略の失敗などではなく、もっと根本的なものだと考えた。

「一人ひとりの教師は高い能力を持ってい

るのにもかかわらず、それが学校全体の教育力として結実していないため、このままでは次世代リーダーが育ちません。長期にわたるマネジメント及びガバナンスの欠如を最大の課題と捉えました。学校のビジョンが不明確であることに加えて、教職員は自身の力をどのように発揮すればよいか分からず、自信を失っていました。そうした状態で、ただICTを導入したり、外部の教育機関と連携を進めたりするだけでは、学校再興にはつながりません」

平井校長は、赴任直後の21年4月1日、1回目の職員会議で、学校法人濱名山手学院の教育ミッションである3C (Communication, Consideration, Commitment) と「未来型リ

図1 カリキュラム・マネジメントの概念構成図



※学校資料をそのまま掲載。

「ダーシップの女性育成」のビジョンについて詳説した（P. 36写真）。予測不可能な未来社会で女性として豊かで幸せな人生を送るために必要な資質・能力を育成するという、未来志向型女子教育の実現に向けたスローガンを「山手ルネサンス」と定め、全教職員と共有

した（図1）。探究教育、英語（グローバル）教育、音楽教育、中高大連携教育やICTの活用など、すべては「山手ルネサンス」のためにあると目線合わせを行ったのだ。平井校長が、教育ミッション実現に向けて重視したのが、一人ひとりの教職員を尊重し

ながらカリキュラム・マネジメントを推進していくことだった。「校長として、私がメッセージを発信するその一方で、各パートにおける役割分担を明確化することで、よりスピーディーに、しかし、小手先ではない本質的な改革を進めていくことができると思いました」（平井校長）

変革の一手

教職協働を徹底し、エビデンスベースの授業改善に着手

まず変えたのが職員室だ。組織的な学校運営に欠かせない「報告・連絡・相談」を円滑にするため、校長や事務局長の机も職員室に配置した。校長室も、来客や打ち合わせ時以外は開放し、生徒や教職員に入室を促した。事務局長の安間秀昭先生は、「教師と事務職員が一体となった学校改革が始まろうとしているのだと感じた」と語る。

「平井校長は、教職員が職域の違いを超えて、対等な立場で学校改革に参画する教職協働の重要性を私たちに説明されました。そこで、先生方に教育活動にもっと集中してもらえるよう、事務職としてできることを事務局内で話し合いました。これまで先生方が行っ



写真 4月1日に開催された第1回職員会議。教育ミッションを達成するために、各分掌はどのようなことに取り組むのか、克服すべき課題は何かを話し合った。

てきた校務の一部を事務局が担うことなどを検討し、既に実施済みの事項もあります」

教頭の中谷卓司先生は、平井校長から「職員室の担任」として、先生方の状況をキャッチし、的確に助言するとともに、自分と情報を共有してほしい」と、求められたという。

「今後、ICTを活用した個別最適化を急速に進めていくためには、管理職も現場をつぶさに知っておくことが重要であると、平井校長はおっしゃいました。そこで、例えば欠席した生徒に対してオンラインで授業の補講をしたことを報告する時は、授業の内容や担

当教師が感じているオンライン授業の課題なども、細かく報告するようにしました」

校長との情報共有の場面が増えたことで、新しい取り組みが実行に移るまでの時間は大きく短縮されたと言う。

「探究学習での校外連携など、現場の教師が提案したことが教育ミッションと合致し、生徒の成長実感につながるという判断がなされれば、校長からすぐさま決裁が下ります。そのおかげで、挑戦を歓迎する風土が現場に生まれてきたように感じます」（中谷先生）

定期考査を活用して、 授業改善の目線合わせを図る

顕在化した学力の多層化という課題にも、現場の教師が主体となって向き合い始めた。まず、すべての教科の定期考査を、基本レベル50%、標準レベル30%、応用レベル20%の出題構成とし、生徒には考査後、合計点だけでなく、問題レベル別の得点に基づいて振り返りを行わせ、次の考査に向けた学習計画を立てさせることにした。教師は、平均点だけでなく、問題レベル別の得点、得点分布など、結果を詳細に分析し、教科横断の定期考査分析会や各教科会において定期考査の問題を振り返るとともに、日々の授業のあり方やGTZ(*)に応じた学力層ごとの指導ポイント



校長
平井正朗 ひらい・まさあき
教職歴34年。同校に赴任して1年目。



事務局長
安間秀昭 やすま・ひであき
職員歴40年。同校に赴任して1年目。



教頭
中谷卓司 なかたに・たくじ
教職歴34年。同校に赴任して33年目。理科。



入試広報センター長
佐々木 誠 ささき・まこと
教職歴34年。同校に赴任して35年目。国語科。



進路指導部長
中村昌義 なかむら・まさよし
教職歴28年。同校に赴任して29年目。数学科。



入試広報センター副室長
大野嘉子 おの・よしこ
教職歴23年。同校に赴任して24年目。国語科。

などを話し合った。進路指導部長の中村昌義先生は、「先生方の創意工夫を校内で共有し、日々の授業を充実させていきたい」と語る。「定期考査を活用した授業改善の検討は21年度からの取り組みです(図2)。近年、本

* ベネッセのアセスメントにおける共通の学力評価指標、「学習到達ゾーン」のこと。「S1」～「D3」の15段階で評価される。



学年団を訪ねて

楽しく学び続ける仕かけづくりと 気持ちを前向きにする声かけを続ける

大阪府・私立箕面自由学園高校 3学年団

同校への志願者数の増加によって、同校史上最多(当時)の新入生を迎え入れた2019年度1学年団。ベテランから初任まで多様なキャリアの教師を牽引する学年主任(当時)の大東先生が最も大切にしたのは、生徒や教師に前向きな言葉をかけ続ける、ポジティブ思考の学年団づくりだった。



直面した課題

◎入学者の多くは、中学校時代に手がからなかった学力中位層の生徒で、教科学習の面で大きな壁を乗り越えた経験に乏しかった。また、学習を計画的に進める力が十分ではなかった。

◎高い目標に向かって努力を続ける中での喜びを味わわせ、「この学校に来てよかった」といった気持ちで卒業させたいと考えた。

学校概要

「豊かな自然環境を基盤に、体験と実践を通して、伸び伸びと個性を發揮できる、教養高い社会人を育成する」を建学の精神とする。Ⅰ類として難関国公立大学合格を目指すSS特進コース・スーパー特進コース・特進コース、Ⅱ類として受験学力の向上とともに英語教育とキャリア教育に力を入れる文理進学コース、クラブ推薦入試制度により入学した生徒を集めたクラブ選抜コースを設置。日本選手権大会9連覇を誇るチアリーダー部など、全国レベルで活躍する部活動も多い。

設立 1951(昭和26)年

形態 全日制/総合学科/共学

生徒数 1学年約560人

2021年度入試合格実績(現浪計) 国公立大は、北海道大、滋賀大、大阪大、東京都立大、大阪市立大、大阪府立大、兵庫県立大などに66人が合格。私立大は、法政大、明治大、同志社大、立命館大、関西大、関西学院大などに延べ959人が合格。



手がかからなかった生徒に、適切に手をかけてあげたい

近年、志願者数が急増している私立箕面自由学園高校。「生徒の多くは、中学校時代、いわゆる手のかからなかった学力中位層です」と、2019年度1学年団の学年主任を務めた大東範行先生は説明する。

「中学校時代に教師の手を煩わせることがなかった分、手をかけてもらったことも少なく、強い意志と計画性を持って壁を突破した経験が乏しい生徒が少なくありません」

19年度1学年の担任の瀬戸口亜希先生は、一部の生徒の自己効力感の低さに驚かされることがあったと振り返る。

「3年間しっかり勉強すればこんな大学を目指せるよと説明しても、『私には無理です』と、自分の可能性を信じ切れない生徒が目立ちました。また、1年生の家庭学習時間は1日100分間という目標に対して、『100分間も何を勉強すればよいのですか。どうすればそんな時間を確保できるのですか』と、自分で学習の見通しを立てられない生徒もいました。進路面も学習面も、生徒の実態に寄り添った支援が必要だと感じました」

大東先生は学年団に所属する教師に、「生徒は、本当は自分のことを見てもらいたいはず

です。手のかからないおとなしい生徒が秘めた承認欲求を見逃さないようにしましう」と、学年としての指導方針を共有した。

「この学校に来て人生が変わった、この学校を選んで本当によかったと、すべての生徒に思ってもらうことを目標に、高校3年間の指導をスタートさせました」(大東先生)

楽しく学ぶ雰囲気をつくり、学校への帰属意識を高める

学年団はまず、学習習慣の定着に力を入れた。通学途中などでの隙間学習も加算してもよいからと、毎日100分間の家庭学習を生徒に呼びかけた。学年全員で取り組む雰囲気をつくるため、100分以上学習に取り組めた生徒にシールを与え、クラス間でシールの数を競うようにした。

大東先生が重視したのが、楽しく学習を続けられる仕かけづくりだ。「若手教師も遠慮せずにアイデアを出してほしいと声をかけてもらいました」と山口哲司先生は振り返る。

「廊下の壁をすぐろくに見立てて、朝学習に取り組んだ時間に応じて壁に貼った自分のシールを移動させる『おはようスタディ』では、生徒は楽しみながらお互いの学習時間を競っていました(P.40写真)。廊下の壁に大



リーダーに聞く！ 5つのQ&A

Q どのようなチームを目指しましたか？
A みんな仲よく、いつも笑顔で、何でも相談できるチームです。

Q リーダーとして心がけていることは？
A しんどいことこそ、自分が率先してやるということです。

Q 学年団としての「成功」は？
A いろいろなキャリア、年齢の教師が一致団結できていることだと思います。

Q リーダーとして自覚する
長所は何ですか？
A 明るく、前向きなところです。学校外の方から生徒の行動に対するお叱りの電話をいただく時も、職員室の先生方に「僕の電話応対を聞いていてください」という気持ちで、寄せられる声に真摯に向き合います。

Q リーダーとして自覚する
短所は何ですか？
A 朝令暮改が多いところです。前向きに言えば、少しでもよくなる可能性があるのなら、前言を翻すことをいとわないということですね。そして、自他ともに認める雨男です。



写真 廊下の壁をすごく近くに見立てて、朝学習に取り組んだ時間に応じて生徒は自分のシールを移動させる。大学名が書かれた掲示物には、興味を持ったらすぐに調べられるよう、大学のウェブサイトにはリンクするQRコードをつけた。

学の名前を掲示したのは、学習の積み重ねによって大学に合格できることをイメージさせるのと同時に、大学への興味を喚起させるためです。また、家庭学習の習慣づくりを支援するため、瀬戸口先生発案の『9グリッシュ』という企画も実施しました。『Classi』(＊)を通じて英語の問題を配信し、一番早く学習を開始した生徒の名前を校内の掲示板で紹介し、たたえるというものです」

『おはようスタディ』や『9グリッシュ』に取り組む中で、クラスメート同士で学習時間の目標を設定し、互いに励まし合う姿も見

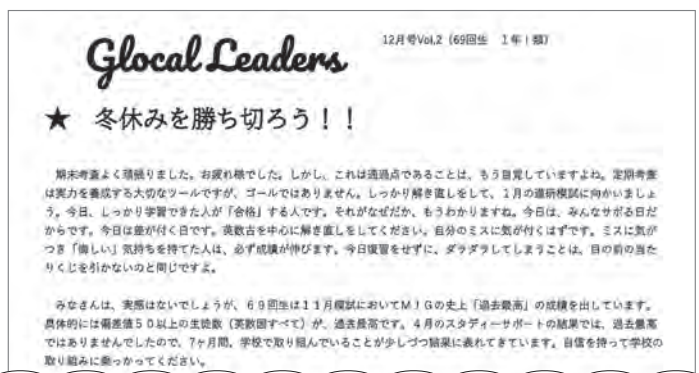
られるようになった。

学習習慣の定着と並行して取り組んだのが、生徒を前向きにするための声かけだ。大東先生は、学年集会での講話や学年通信を通じて、「君たちは、こんなに頑張っているんだ。自分が望む結果が得られるに決まっている。だからこそ、努力を続けよう！」と、希望進路の実現をイメージさせる言葉を生徒にかけ続けた(図)。同じ学年団に所属する横田直彦先生は、「大東先生の言葉で、生徒の学校への帰属意識が高まった」と話す。

「学年通信では、『過去最高の学年です』と、平素の生徒の努力を認めた上で、『次はこれに取り組めばもっとよくなる』と、その時期の生徒に望む学習行動などを提示していました。生徒たちは、努力が認められたことを通じて、自分たちは本当に過去最高の学年で、みんなで成長してきた集団だと思っっているはず」

もちろん、生徒への言葉には裏づけもある。大東学年団では、1年次からスタディーサポートや模擬試験を実施する度に、「中学校の総復習ができていくかを確認しよう」「理科、地理歴史・公民の学力を把握しよう」などと、生徒にそのアセスメントの位置づけや意味を明確に伝え、必要な学習方法を提示してきた。そうした効果もあって、これまで生徒たちは、全国規模の模擬試験などでも例年

図 学年通信



大東先生が作成する学年通信には、生徒の学習意欲を喚起する多くの言葉と、その時期に生徒に求められる学習行動や、学校行事の意味などの説明が盛り込まれていた。

※学校資料をそのまま掲載。

以上によい結果を出している。

「この学校に来てよかった」と、生徒全員に言ってもらえるように」

1・2年生の間に志望校をしっかりと掲げ、主体的に学習に取り組めるようになった生徒は確かに増えたと、クラス担任として21年度から3学年団に所属する、進路指導部長の東野寛紀先生は手応えを語る。

「先日の進路面談でも、何人もの生徒から、

* 株式会社ベネッセホールディングスとソフトバンク株式会社の合併会社である Classi 株式会社が提供する、学校教育での ICT 活用を総合的に支援するサービス。



学年団を訪ねて



入試相談部
山口哲司 やまぐち・たつし
教職歴3年。同校に赴任して4年目。
理科。



教務部
瀬戸口亜希 せとぐち・あき
教職歴3年。同校に赴任して4年目。
英語科。



3学年副主任・生徒指導部
伊藤伸昭 いとう・のぶあき
教職歴23年。同校に赴任して5年目。
国語科。



進路指導部長
東野寛紀 ひがしの・ひろき
教職歴25年。同校に赴任して5年目。
地理歴史・公民科。



3学年主任
横田直彦 よこた・なおひこ
教職歴28年。同校に赴任して3年目。
数学科。



1・2学年時の学年主任 現I類部長
大東範行 おおとう・のりゆき
教職歴24年。同校に赴任して6年目。
地理歴史・公民科。

「この学校に来ていなかったら、今の自分はなかった」といった言葉を聞きました。それは、高校入学時点からの自分の成長を実感できているからこそその言葉です。卒業式の日に、全員に『この学校に来てよかった』と言ってもらえることが学年団の目標です」

学年副主任の伊藤伸昭先生は、学年団の雰囲気がいよいよ、クラスや分掌を超えて、教師全員で生徒を育てることを意識できているからだと考えている。

「例えば、生徒に対して生活面の指導が必要になると、それに気づいた教師が、大東先生と一緒にすぐに対処します。『この事案は生徒指導部の担当だ』などと言って、指導のタイミングを逃すことは、この学年団ではありません。生徒一人ひとりのちょっとした変



**わくわくする学校を
先生方とつくる**
田中良樹校長

「生徒がワクワクする学校を一緒につくる」と、先生方に日々お願いしています。そうした学校をつくるためには、個性を発揮しながら、前向きな気持ちで生徒に接する教師が必要です。もちろん、校長の私も、日々、笑顔で生徒に接しています。

化も本当によく共有できています」

大東先生は、21年度から難関国立大学合格を目指すコースを統括するI類部長に転任。3学年主任は横田先生が務めている。

「高い目標を目指すようになったからこそ、自分に足りないものを直視し、悩む生徒も出てきました。生徒には、今、味わっている苦労の価値を伝えながら、希望進路の実現を支援していきたいと考えています」(横田先生)

「おとなしかった生徒たちが、挑戦を恐れずに頑張るようになりました。生徒の夢がかなうよう、最後まで前向きな言葉をかけ続け、粘り強く支援していきます」(大東先生)

* 学年団 輝きのポイント *

- * 生徒が楽しみながら学習習慣を確立できるような企画のアイデアを学年団で出し合い、次々と実行した
- * 前向きな言葉を生徒にかけ続けることで、生徒は成長を実感し、学校への帰属意識も高まった

自然災害への備え

解説者



日本女子大学
教職教育開発センター
教授 坂田 仰

大阪府の公立高校に勤務後、東京大学大学院法学政治学研究所公法専攻博士課程単位取得退学。1996年、日本女子大学に赴任。専門は、憲法学、公教育制度論。教職員支援機構などでスクール・コンプライアンス体制の確立に向けた活動を展開。

学校で起こり得る危機に対し、どのような備えをしておくべきか。事故や災害などが発生したら、被害を最小限にとどめるためにどう対応すればよいのか。学校の危機管理について研究する坂田仰教授が解説する本コーナー。第3回は、自然災害への備えについて、法的視点を踏まえて解説する。

新学習指導要領でも

安全教育の実施が求められる

自然災害への備えの基本となるのは、4月号の本コーナーで取り上げた学校保健安全法です。2008年に改正された同法では、学校安全の具体的な実施計画を示す「学校安全計画」と、事故や災害等の発生時に教職員が円滑かつ的確な対応を図るための「危機管理マニュアル」の作成を義務づけ、子どもへの安全教育の実施を求めています。

その後、相次いだ震災や水害、土砂災害を教訓に、17年には「第2次学校安全の推進に関する計画」が策定されました。ここでは、学校の組織的な安全体制の構築と、子どもが自分の身を守るようになるための安全教育

の推進が、学校安全の両輪であると示されました(図)。防災に関する法改正も複数行われ、市町村地域防災計画において、水防法や土砂災害防止法(*1)に基づいて要配慮者利用施設に位置づけられた学校や、津波防災地域づくり法(*2)に基づいて津波災害警戒区域内の避難促進施設とされた学校には、避難確保計画の作成と、避難訓練の実施が義務づけられました(*3)。そして、今年の6月には、学校の水害・土砂災害の対策に関する調査結果が文部科学省から公表され、再度、安全体制の強化が通知されました。

新学習指導要領では、各教科・科目や「総合的な探究の時間」等で、それぞれの特質に応じた安全と防災に関する指導を適切に行うよう努めることが明記されました。公民科や

自然災害への備えの重要事項

- ✓ 校地の自然環境や社会的環境とともに、要配慮者利用施設や避難促進施設に該当しているかを確認。
- ✓ ハザードマップや過去の災害を超える事態に備えて、複数の避難場所と避難経路を設定する。
- ✓ 危険発生時の役割分担を明確にしておく。
- ✓ 実践的な安全教育を行い、生徒が災害時に自分の身を守るための主体性を育む。

*1 正式名称は、「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」。 *2 正式名称は、「津波防災地域づくりに関する法律」。 *3 避難確保計画は、「危機管理マニュアル」への追記で代替が可能。

図 自然災害への備えの両輪



想定以上の自然災害が起こること、また、学校外で被災することも考えられる。生徒が主体的に行動できる資質・能力を育むことと、想定外も想定した学校の安全体制を築くことは、自然災害への備えの両輪だとと言える。

家庭科、保健体育科などには、具体的な学習内容の記述があります。

管理責任となる活動の場所は校地外でも災害対応の範囲

学校安全の強化を図る際に特に留意したい点、見落としやすい点について、ここからまとめていきます。

まずは、校地の地形や地質、社会的環境、要配慮者利用施設等の指定の有無を確認した上で、ハザードマップや過去の災害を超える

自然災害に備え、複数の避難場所と避難経路を設定しましょう。災害時の報道で「20年間住んでいて初めて川が氾濫した」といった声が聞かれるように、過去の経験が通用しないほど、気象状況は変化しており、「想定外は想定内」と言えます。また、校地以外でも部

活動の練習場など、学校設置者の管理責任の対象となる活動が行われる場所は、災害対応の範囲内となります。高校生は活動範囲が広いですから、いま一度確認したいところです。

次に大切なのは、地域や自治体との連携です。自然災害では地域全体が被災しやすいため、学校だけでは対応できないことを前提に学校安全計画や危機管理マニュアルを考える必要があります(*4)。それらの作成時には、家庭や地域住民、関係各所に意見・助言を求め、作成後は公開するとよいでしょう。

災害発生時の役割分担は、計画作成時に決めておくことが肝要です。誰が担当するかが明確でなければ、いざという時に迅速な対応ができません。担当者が不在の場合に対応が滞らないように、担当者はメインとサブの複数を置く必要があります。

事前の防災計画と、発生時・発生後の各段階で取るべき対応を整理したら、災害発生時に教職員が状況に応じて判断・行動できるように研修することも、重要な備えと言えます。

生徒が自ら判断し、主体的に行動する姿勢を育む

生徒への安全教育では、「自分の身は自分で守る」という意識の醸成と、状況に応じて主体的に行動する姿勢の育成が重要になります。中学校までの安全教育によって、生徒に一定の知識や意識があるとしても、学校周辺のハザードマップや、地形情報、災害の記録などを活用して、地域の災害の危険性を生徒に周知徹底しましょう。過去の被害の写真を用いて、危険性を具体的にイメージさせることも、意識喚起につながります。また、生徒は一人ひとり通学路が異なり、様々な場所に出かけて活動するので、自分がよく活動する場所での被災を想定して避難経路を考えるといった活動も一案です。

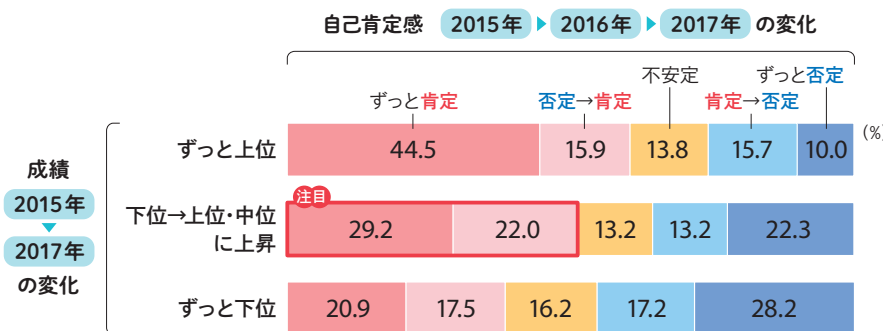
安全体制や安全教育の実務を担う主任を置けるとよいのですが、教務主任などのように、配置が法令で義務づけられてはいません。管理職が学校安全に高い意識を持ってこそ、適切に推進できると言えるでしょう。在任中に災害が起こらなくても、安全・防災の意識を高めた生徒が大人になり、次の世代を育て、その時に被害を食い止めるかもしれません。自然災害への備えは、世代を超えた持続可能な社会につながる取り組みなのです。

*4 『VIEW next』教育委員会版 Vol.2 の特別企画 (P.20-25) では、防災教育について、研究者の提言と、自治体と学校が連携した取り組みを紹介しています。記事は、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトからご覧いただけます。HOME > 教育情報 > 教育委員会向け > バックナンバー > 2021 年度 Vol.2

成績の向上やクラスへの帰属意識が、 生徒の自己肯定感を高める鍵に

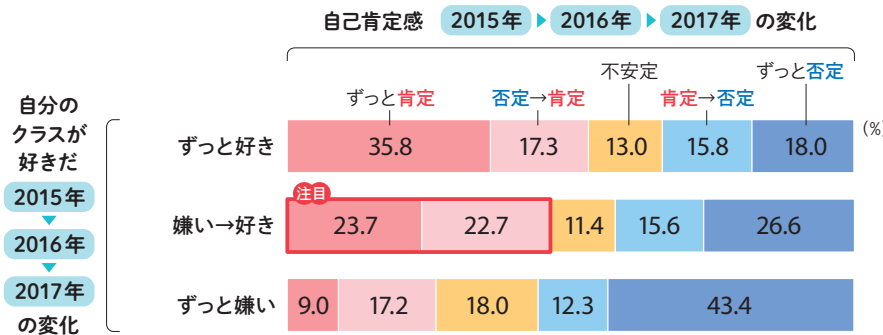
ピックアップデータ 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所
「子どもの生活と学びに関する親子調査」(*1)

データ1 「成績の変化」と「自己肯定感の変化」の関係 (小中高全体)



注1) 2015年から2017年にかけて「小4生→小6生」「中1生→中3生」「高1生→高3生」の子どもの対象に集計。
注2) 成績は、小学生は国語・社会・算数・理科、中学生・高校生は国語・社会・数学・理科・英語の自己評価を合計し、各年について「上位」「中位」「下位」に三分した。成績の変化は、2015年と2017年の2時点のデータを用い、「上位→中位」「下位」「中位→上位」「中位→中位」「中位→下位」の各群は図から省略した。回答者全体に占める比率は、「ずっと上位」20.4%、「下位→上位・中位に上昇」14.6%、「ずっと下位」23.9%。
注3) 数値は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%とならないグラフがある。

データ2 「クラスへの愛着の変化」と「自己肯定感の変化」の関係 (高校生)



注1) 2015年から2017年にかけて「高1生→高3生」の子どもの対象に集計。
注2) 「自分のクラスが好きだ」に、「とてもあてはまる」「まああてはまる」と回答した子どもを「好き」、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」と回答した子どもを「嫌い」とした。変化は、2015年、2016年、2017年の3時点のデータを用い、好きと嫌いを交互に繰り返したケースは「不安定」として図から省略した。
注3) 数値は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%とならないグラフがある。

だと言えよう。

学力を高める教育活動や、クラスへの帰属意識を高める学級活動の充実を図ることは、生徒が自分自身を肯定的に受け入れ、前向きに高校生活を送る上でも重要な視点

だと言えよう。

自己肯定感を高めるヒントを見いだすため、ベネッセが東京大学と共同で実施した調査の結果を分析した。それによると、自己肯定感が「ずっと肯定」または「否定→肯定」に変化した生徒の比率は、成績が「ずっと下位」のままの生徒(38.4%)よりも「下位→上位・中位に上昇」した生徒の方が高く(51.2%)、成績の上昇が自己肯定感に影響していることが分かる(データ1)。同様に、自己肯定感が「ずっと肯定」または「否定→肯定」に変化した生徒の比率は、自分のクラスが「ずっと嫌い」のままの生徒(26.2%)よりも、「嫌い→好き」に変化した生徒の方が高く(46.4%)、クラスへの帰属意識が、自己肯定感に影響していることが分かる(データ2)。

新学習指導要領で重要性が示されている自己肯定感。国立青少年教育振興機構が高校生を対象に行った調査(*2)では、「自分はダメな人間だと思うことがある」という設問の肯定率において、日本の高校生は約73%だった。同様の設問に対して、中国は約56%、米国は約45%、韓国は約35%であり、日本の高校生は他国と比較して自己肯定感が低いことが分かる。

*1 東京大学社会科学研究所とベネッセ教育総合研究所が共同で立ち上げた「子どもの生活と学び」研究プロジェクトによる調査。2015年から毎年、小学1年生から高校3年生までの親子約2万組に調査している。 *2 「高校生の生活と意識に関する調査報告書—日本・米国・中国・韓国の比較—」(2015年)。肯定率は、「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計値から算出。

For Teacher Section

教師個々の教科指導・進路指導に
役立つ事例や情報を、
先生方の思いを乗せてお届けする

P.46

発問・課題設定をキーに見る

主体的・
対話的で
深い学び

授業実践

教科の見方・考え方を働かせる
問いや課題を通じて学びが深まる授業に迫る

お勧めの分掌 ▶

教務担当

担任

体育 北海道浦河高校 みなだ さいいちろう 舟田彩一郎

P.46

自分で立てた問題解決のための仮説を、
対話を通して検証し、自分に合った走法を見いだす

化学 東京都立多摩科学技術高校 よしやす 田中義靖

P.50

問題や実験計画を作るトレーニングを通じて、
事象を多角的に捉える力と思考力を育成

P.54



SDGsの
視点で見る
大学の学び

持続可能な社会の実現に向けた
問題解決に取り組む大学の研究とは？

お勧めの分掌 ▶

進路担当

担任

解説 目標 15 陸の豊かさを守ろう

P.54

目標 17 パートナシップで目標を達成しよう

大学の学び 目標 15 鳥取大学

P.56

農学部 生命環境農学科 植物生態学研究室

目標 17 慶應義塾大学

P.58

総合政策学部 xSDG・ラボ かじえ (蟹江研究室)

P.60

これからの
進路指導のための
世の中トレンド解説

お勧めの分掌 ▶

進路担当

担任

生徒の将来に影響する社会の動きが「学ぶ」「働く」「暮らす」の視点で分かる
トレンド・ワード ジェンダー

P.64

誌上で見学  学びのnext

これから求められる学びとは？
一歩先を行く授業を実践者が紹介

お勧めの分掌 ▶

管理職

教務担当

担任

リーダーシップ教育

神奈川県立藤沢清流高校

集団の目標の達成に向けて、
自らの力を発揮するリーダーシップを育成

主体的・
対話的で
深い学び

授業実践

体育

自分で立てた問題解決のための仮説を、

対話を通して検証し、自分に合った走法を見いだす

北海道浦河高校

舟田彩一朗
ふなださいいちろう

本時の概要

【対象／教科／科目】2年生／保健体育／体育 【分野・単元】陸上競技・短距離走（本時は、全6時間のうちの5時間目。P.49に単元の指導計画を掲載）
【育成を目指す資質・能力】技能、思考力、表現力、主体性、協働性
【学習内容】「最大速度を高める」という課題において、「足の接地時間を短くする方法は？」と、問いを設定。前時に引き続き、生徒同士で情報交換しながら、自分に合った走法を考え、検証していった。本時の最後に50m走を測定し、今日の活動で分かったこと、次の授業で取り組みたいことを発表した。

主 主体的な学び
対 対話的な学び
深 深い学び

09:40 本時の目標と学習内容の説明



主

最大速度を高めるため、足の接地時間を短くする方法を考えるという本時の内容を確認。舟田先生は、「感覚的につかめてきたことを、自分なりの言葉にする」「全力疾走した時に、考えたこととずれが生じるかどうか確認する」と、本時の活動で特に留意してほしいことを説明した。

10:02 グループを超えて考えを広げる



主

対

深

「足首を柔らかく」「股関節から足を動かす」などと、生徒はそれぞれの考えを伝え合いながら練習を続けた。ある女子生徒が別のグループの男子生徒にアドバイスを求めたところ、「前傾姿勢にならない方が足の回転が速くなる」と、新たな視点での助言を得ることができていた。

ふなだ・さいいちろう 教職歴14年。同校に赴任して9年目。保健体育科。3年次主任。浦河高校1年目から言語活動を重視した保健体育の指導に取り組む。社会問題の解決を目指した科学データの利活用コンペティションへの参加など、課題研究の指導にも力を入れる。

学校概要

◎浦河町立浦河実践女学校として開校。北海道様似高校との再編統合を経て、現在に至る。生徒は、2年次より希望進路に合わせて人文科学、自然科学、情報・ビジネス、地域創生の4系列の中からいずれかの系列を選択する。馬術部や陸上競技部、写真部など、全国大会への出場経験がある部活動も多い。

◎設立 1932（昭和7）年

◎形態 全日制／総合学科／共学

◎生徒数 1学年約100人

◎2021年度入試合格実績（現役のみ） 国公立大は、北海道大、弘前大、宮城大、和歌山大、高崎経済大、北九州市立大などに8人が合格。私立大は、天使大、藤女子大、北星学園大、北海学園大、桜美林大、日本大、日本体育大などに延べ32人が合格。



09:53 接地時間を短くする方法を検証



主
対
深

準備運動の後、事前に行った接地時間を短くするための仮説共有を通して、本時に一緒に練習すると自分にメリットがあると思った人と、ペアやグループを組んだ。自身の仮説に基づいた走法の練習を開始し、それぞれが意識していることに対して助言をし合いながら、仮説検証を進めた。

09:42 問題解決のための仮説を共有



対

生徒は本時まで、走る速度を高めるための情報収集を行い、問題解決のための仮説の検証を行ってきた。本時までの振り返りを記録したデリーワークシートを見ながら、自分が今日取り組もうとしていることを生徒同士で共有した。自分とは異なる考えに触れさせることがねらいだ。

10:25 振り返り



主
深

本時の最後に、今日工夫してみて分かったこと、次の授業でやってみようと思ったことを発表。舟田先生は、「いろいろな意見が出ているけれど、あくまでもその人の意見。自分にとって正しいか、合っているかどうかは分からない」「他者の考えを参考に、自分の考えをまとめることが大切」と、生徒に話した。

10:13 測定



主
深

70m 走の予定だったが、生徒の様子から、練習に時間を多く割いた方がよいと判断し、50m に短縮。ラップタイム、スプリットタイムを測った。舟田先生は、「今日の練習方法が適切かどうかだけでなく、その走法が自分に合っていたかどうかも考えて」などと、生徒一人ひとりに声をかけていた。

●私が目指す授業

言語活動の充実によって
すべての生徒が高め合う

生徒が、生涯を通して楽しめるスポーツに出会える。そして、スポーツを通して新たな考えを生み出し、協働的に問題を解決したりする力を身につけることができる……それが私が目指す体育の授業です。育成を目指す資質・能力として特に重視しているのは、種目の特性を理解して必要な技能を高めるための方法を考え、実行したり、問題解決のための意思を表現したりする主体性、ペアワークやミーティングなどで他者の考えや立場を推論できる協働性、情報を抽象化し、構造を捉えられる思考力です。そうした資質・能力の育成において鍵となるのが、生徒の言語活動です。

種目の原理原則が十分理解できていないにもかかわらず、運動能力が高いためにより結果を出す生徒がいる一方で、種目の特性を深く理解し、他者と協働できていないにもかかわらず、運動能力の低さから、よい結果が出ない生徒もいます。体育の授業の中で言語活動を充実させ、種目

の原理原則の理解を大切にすることで、運動能力にかかわらず、それぞれの現在地からの成長を目指すことができますし、運動能力の高い生徒と低い生徒がつながり、お互いに高め合える授業になります。

●私の発問・課題設定の観点

理論的な理解と対話を土台に、自分なりの仮説を立てさせる

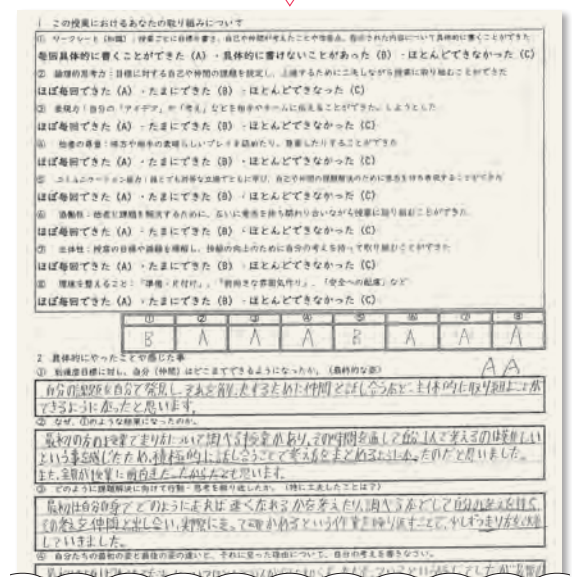
本時の授業では、速く走るための理論的な理解を土台に、接地時間を短くするための自分なりの考えが適切かどうか、ベアやグループで検証していきましました。そして、授業の最後の振り返りで、検証してみて分かったことやこれからの見通しを発表させました。単元ごとに設定された到達目標に向けて自分の課題を設定し、問題解決のための仮説を立てて、他者と協働しながら試行錯誤することを、生徒に求めています。そうした授業では、種目の特性や生徒の技能、そして各自の考え方によって課題や仮説が変わるため、私たちが教師には、種目の専門性と生徒理解が欠かせません。特に、生徒理解が不十分だと、一般的なアドバイスし

図1 デイリーワークシート



デイリーワークシートには、問題解決に向けた見通しや振り返りなどの項目がある。舟田先生は、授業までに生徒全員のワークシートに目を通し、コメントをしている。 ※学校資料をそのまま掲載。

図2 単元後のレポート



単元後のレポートでは、授業で身につけた資質・能力について自己評価をさせ、単元を通じて自身の考えを言語化させている。 ※学校資料をそのまま掲載。

必要な視点を与えることができず、生徒の学びが深まりません。

生徒理解は、授業中の姿やデイリーワークシート(図1)などを通じて行います。接地時間が短縮されず、記録も更新されない生徒でも、デイリーワークシートを見れば、考え方の広がりや意識していることを把握できますし、練習中に、「グループの仲間にとっては正しい方法かもしれないけれど、君にとってはどうだろう」と、生徒の特性に応じて、さらに思考を深めさせる声かけが可能になります。また、授業の最初に、デイリーワークシートを使って生徒

同士で考えを共有することで、他者の考えを新たな自分の考えへとつながられている生徒も多いです。

評価については、単元の最初に、観点別の規準を生徒と必ず共有します。その規準にのっとり、生徒の授業中の姿、ワークシート、単元後のレポート(図2)などで評価しています。各単元で何を評価の対象とするのか、その規準をどのように設定するのは、生徒の姿と体育の目標を照らし合わせて、保健体育科の教師で毎年見直しています。特に、課題や仮説の設定で深く思考し、仲間と協働できている生徒が、技能が劣

るといった理由で評定が4や3になる場合は、指導や評価の仕組みに改善の余地があると考えます。評価の仕組みが毎年変わることが、生徒一人ひとりに向き合えることができているからだと前向きに捉えています。

●成果と展望

体育での学びを、他科目、部活動につなげる

本校の体育では、運動能力が高い生徒が必ずしも成績がよいというわけではなく、生徒も理解しています。「私は運動が苦手ですが、高校

VIEWn-expressでは、
本時の授業の様子を
ダイジェスト動画で紹介！
<8月25日公開予定>

VIEW n-express 検索



では安心して授業が受けられるようになり「言葉を生徒から聞くとうれしく思います。」

体育での成長を、他教科や部活動につなげることが、保健体育科としての次の課題です。実際、「体育であれほどよい考え方ができている生徒なのだから、他科目でももっと成果を出せるはず」と思うことがあります。近年、体育で学んだ見方・考え方を他科目で生かしたり、逆にほかの科目で学んだことを体育で生かしたりした生徒の情報を教師間で共有し、その中から「最優秀生徒」を選び、保健体育科が表彰しています。2年前は、家庭科の授業や部活動などで学んだ考え方を、自ら体育に生かしていた生徒を表彰しました。体育は、高校生としての成長の軸になり得る科目だと、生徒に伝えたいです。

単元の指導計画

【教科・科目】保健体育・体育 【分野・単元】陸上競技・短距離走 【テーマ・作品】最大速度を高める 【設定時数】全6時間（本時は5時間目） 【単元目標】①中間疾走の高いスピードを維持して速く走れる ②自分や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な問題解決に向けて取り組みを工夫するとともに、自分や仲間の考えたことを他者に伝えられる ③陸上競技に主体的に取り組める

時数	学習内容	身につけさせたい 資質・能力	授業の流れ	教師の配慮	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーション（単元のねらいと流れを確認） ウォーミングアップ 100m走測定 振り返り（スプリットタイム、ラップタイム、スピード分析） 	100m走に意欲的に取り組んでいる 【表現力・主体性】	①10mごとにタイムを計測する ②100m走分析プランニングシートに、スプリットタイム、ラップタイム、10mごとのスピードを記入し、自分のスピードを図示する	【主体的な学び】 100m走のスピードを可視化することで、生徒が主体的に取り組めるように仕かける	・生徒の姿
2	<ul style="list-style-type: none"> 本時の説明 理論構築（情報収集、構造化、考え） スタート、中間疾走、フィニッシュ分析 振り返り 	信頼できる情報を収集し、情報の傾向を読み取れている 【思考力】	①100m走構造化シートを活用し、加速度、接地時間についての知識を得る ②100m走分析プランニングシートで、自分の走りについて分析する	【主体的な学び】 課題設定、見通し、行動、振り返りのサイクルを構築する 【深い学び】 探究的な学びをリードすることで、生徒の思考の道筋を整理する	・ワークシート
3	<ul style="list-style-type: none"> 本時の説明 ウォーミングアップ 加速度を上げるための考えを検証（練習あり） 30m走測定 振り返り 	自分の考えを他者に伝え、考えを深められている 【表現力・協働性】	①ペアやグループとなり、得た知識や分析したことを共有し、実践する ②30mを測定し、1時間目の記録と比較する	【主体的な学び】 課題設定、見通し、行動、振り返りのサイクルを構築する 【対話的な学び】 生徒自身の考えを共有させ、知識や情報があることで、対話の量や質を確保できる	・生徒の姿 ・デイリーワークシート
4	<ul style="list-style-type: none"> 本時の説明 ウォーミングアップ 接地時間を短くするための考えを検証（練習あり） 50m走測定 振り返り 	問題を合理的に解決することができている 【技能】	①ペアやグループとなり、得た知識や分析したことを共有し、実践する ②50mを測定し、1時間目・3時間目の記録と比較する	【主体的な学び】 課題設定、見通し、行動、振り返りのサイクルを構築する 【対話的な学び】 他者への説明を続けることで、つながりのある構造化された知識や情報となるように働きかける 【深い学び】 課題を明確にすることで、より主体的な学びとなり、知識や技能のつながりを生み出す	・生徒の姿 ・デイリーワークシート
5	<ul style="list-style-type: none"> 本時の説明 ウォーミングアップ 接地時間を短くするための考えを再検証（練習あり） 70m走測定 振り返り 	自分なりの考えを形成することができている 【思考力】	①ペアやグループとなり、前時の気づきや発見したことなどを共有し、実践する ②70mを測定し、1時間目・3時間目・4時間目の記録と比較する	【主体的な学び】 課題設定、見通し、行動、振り返りのサイクルを構築する 【対話的な学び】 問題解決に向けて行動し続けることで、他者とともに新たな考えを創造する場を生み出す 【深い学び】 これまでのことをつなげ、自分の考えとして整理し、意味づけられるように、振り返りの場を設定する	・生徒の姿 ・デイリーワークシート
6	<ul style="list-style-type: none"> 本時の説明 ウォーミングアップ 100m走測定 振り返り（スプリットタイム、ラップタイム、スピード分析） 	100m走に主体的に取り組んでいる 【主体性】	①10mごとにタイムを計測する ②100m走分析プランニングシートに、スプリットタイム、ラップタイム、10mごとのスピードを朱書きし、自分のスピードを図示し、1時間目と6時間目を比較する	【主体的な学び】 100m走のスピードを可視化することで、成長を実感できる 【深い学び】 デイリーワークシートを参考に学習活動を振り返り、レポートを作成することで、自らの考えの変容を自覚でき、それを共有できる	・ワークシート ・レポート

※舟田先生作成の単元の指導計画を基に編集部で作成。

主体的・
対話的で
深い学び

授業実践

化学

問題や実験計画を作るトレーニングを通じて、
事象を多角的に捉える力と思考力を育成

東京都立多摩科学技術高校 田中義靖 よしやす

13:40 答えが1つではない問いに取り組む



田中先生はまず、問題を掲載したプリントを配布し、本時は、大学入学共通テストで求められる思考力を養う問題演習に取り組むと説明。1問目は、二酸化炭素を発生する方法や現象を挙げさせる問題。各自で考え、解答をプリントに記入した後、数人の生徒が発表し、考えを共有した。

本時の概要

【対象／教科／科目】3年生／理科／化学 【分野・単元】化学基礎と化学の全分野・単元（本時は、全2時間のうちの1.2時間目。P.53に単元の指導計画を掲載）
 【育成を目指す資質・能力】思考力、表現力、主体性、多様性、協働性
 【学習内容】前時までに教科書の全範囲が終了し、本時から問題演習に入った。前半は、教師が作成した3題に、後半は、2021年度大学入学共通テストの5題に取り組みさせた。いずれも、個人で約5分間考えた後、数人が解答を発表・板書し、考えを共有。教師が適宜、補足説明や解説を行った。

主 主体的な学び
対 対話的な学び
深 深い学び

14:16 多様な意見を全体で共有



3問目では、さらに数人の生徒が発表。その中には、「色の濃さから濃度を求める」という意見もあった。田中先生は、「複数の濃度の標準溶液を作り、蛍光光度計で測定して比較する比色分析であれば可能ですね。その際には、検量線を作成します」と、関連知識を補足した。

たなか・よしやす 教職歴24年。同校に赴任して3年目。指導教諭、科学教育研究部主任。理科（化学）。東京都理化学教育研究会副会長、及び次世代化学教育研究会事務局長。校外で、理科教育の研究や化学の普及活動を積極的に行っている。

学校概要

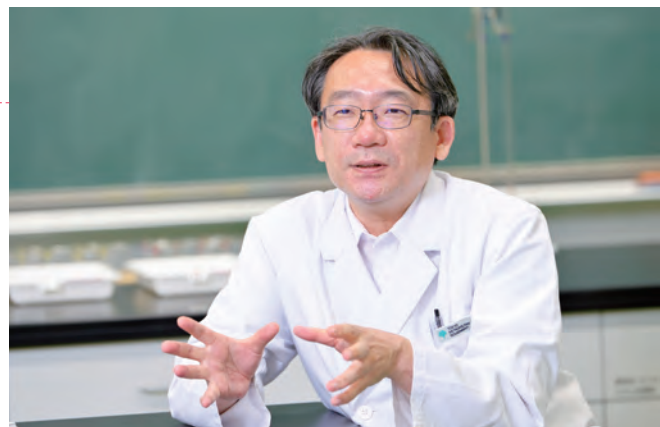
◎育成を目指す生徒像に「先端科学技術のみならず広く自然科学への知的好奇心・探究心・学ぶ意欲に富む生徒」などを掲げ、科学技術への好奇心と探究心を育て、創造力を伸ばす教育を実践している。2018年度、東京都教育委員会「進学指導推進校」指定。2019年度、文部科学省「スーパーサイエンスハイスクール」第2期指定。

◎設立 2009（平成21）年

◎形態 全日制／科学技術科／共学

◎生徒数 1学年約210人

◎2021年度入試合格実績（現浪計）北海道大、東北大、埼玉大、千葉大、東京学芸大、東京農工大、東京都立大などに50人が合格。私立大は、青山学院大、慶應義塾大、上智大、東京農業大、東京理科大、法政大、明治大、早稲田大などに延べ372人が合格。



14:05 実験計画を自分で立てる



主
深

3問目は、「塩化銅(II)水溶液の濃度を求める実験を計画せよ」という問題。各自で5分間考えた後、生徒に考えを聞くと、「水を蒸発させて結晶を取り出し、質量を測る」という意見が上がり、ほかの生徒は「あーなるほど」と声を漏らし、納得の表情を見せていた。

13:51 作問に取り組む



対
深

2問目は、電気分解において「銅の析出量が2.0mol」が答えとなる問題の作成。各自で5分間取り組んだ後、生徒2人が、作成した問題を板書。「ほかにないかな？」と田中先生が投げかけると、さらに1人が発表。それらを受けて、生徒は自分の問題を見直し、修正案をプリントに記入した。

15:01 教師による解説



深

田中先生は、「問題文の中の不要な部分を削除してください」と伝えた上で、問題文の残った部分を板書し、解説。Xの水溶液が還元性を示さないことを問題文から読み取り、平衡が阻害されることを説明した。残りの問いも同様の流れで取り組んだ。

14:34 大学入学共通テストにチャレンジ



主
深

4問目以降は、2021年度大学入学共通テストの「化学」の問題。そのうち1問は第5問の間2で、グルコースの溶液内平衡、物質量の時間変化など、複数の情報を組み合わせて考える問題だ。生徒は、自分が正解だと思う選択肢に対して挙手。正解できたのは数人だった。

●私が目指す授業

答えの丸暗記ではなく、
化学の本質を理解する授業

私の授業では、事象や問題を多角的に捉え、それらの情報を基に自分の考えを構築する力の育成を目指しています。教師が知識を説明して理解させるのではなく、生徒自身が化学の原理や法則を深く理解し、その本質を捉えられるようになる授業が理想です。

そう考え始めたのは、前任校の戸山高校時代です。思考力、判断力、表現力がより問われる大学入学共通テストが導入されることを受け、私は特に生徒の思考力に関する研究を始めました。生徒の多くが、化学の本質を十分理解しないまま、問題演習を重ねる中で答えを丸暗記するため、問題文の表現が少しでも変わると答えられなくなってしまうことに大きな課題を感じていました。

2018年の夏には、全国の先生と思考力を鍛える問題を検討する研究会を実施。以降、授業でも、様々な解答が考えられる問題を出したり、入試問題を扱い、問われていることの本質を説明したりしました。

●私の発問・課題設定の観点

出題者の意図に近づくため、
答えから問題を考えさせる

21年度大学入学共通テストの「化学」は、問題文が長く、出題の仕方が複雑で、目新しい出題方法もありました。そうした問題に対応するには、出題者の意図にいち早く気づき、重要な情報のみを選び取って、それらに関連づけていく力が重要です。そこで今年度から、教科書の内容を学習し終える3年生の1学期には、大学入試に向けて、どのような出題形式でも焦らず論理的に答えを導くことができる思考力を鍛える問題演習を実施することにしました。

本時は、前半では答えが1つではない問題に取り組むことで、出題者の意図に近づくための練習を行い、後半では、そこで培ったスキルを活用し、入試問題に取り組ませました。

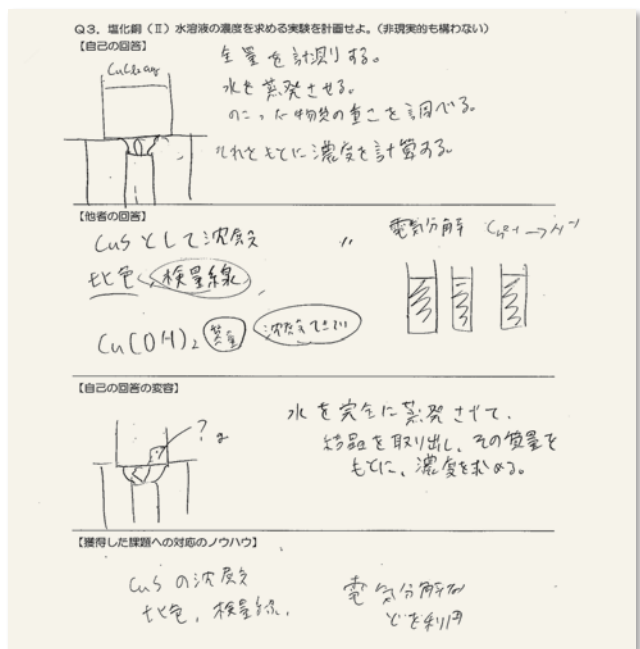
1問目は、二酸化炭素が発生する方法や現象を思いつく限り挙げる問題にしました。教科書では、炭酸カルシウムに塩酸を加えると二酸化炭素が発生すると学習しますが、本時では、呼吸や燃焼などでも二酸化炭素が発生するという意見が生徒から上がりました。

本時のキーとなる発問は、3問目の「塩化銅(II)水溶液の濃度を求める実験を計画せよ」です(図1)。1・2問目よりも難易度を上げるとともに、生徒が自由に発想できるように、実験を計画してもらいました。前半の問いの中で、最も多様な意見が上がると予想され、他者と自分の解答の違いを比較しやすいと考えました。塩化銅の結晶の質量から求める方法、水酸化ナトリウムで水酸化銅を沈殿させて求める方法のほか、比色分析をして濃度を求めるというユニークな意見もありました。また、生徒の発言から、安全面に配慮しているか、正確に測る方法を考えているかなど、きちんと思考している過程がうかがえたのもよかったです。

前半の3問は、答えの自由度が高い問題とすることで、生徒から多様な考えが出されることを期待しました。今回は、コロナ禍の状況に鑑み、議論ではなく、板書や発表を通じて、様々な考え方があることを実感させるとともに、自分の考え方や志向をメタ認知してもらうこともねらいました。

他者の考えから多様な見方に気づかせ、3問目のように実験計画を立てさせることを通じて、同じ事象で

図1 本時のキー課題を掲載したプリント



3問目は、「塩化銅(II)水溶液の濃度を求める実験を計画せよ」という問題。自分が考えた実験計画のほかに、他者が考えた実験計画と自分の考えの変容を書き込める欄を設けることで、視野を広げ、考える力を鍛えることをねらった。

※学校資料をそのまま掲載。

も様々な視点やアプローチがあることを実感してほしいと思っただけです。そうした訓練を積み、問われていることを的確に把握する力を育成したいと考えているのです。

授業後半では、21年度大学入学共通テストに取り組ませました。第4問・問5の、ポリペプチド鎖のらせんの全長を求める問題は、センター試験では見られなかった出題形式で、問題文から必要な情報を抜き出し、立式して数値を求める問題でした。必要な数値を抜き出すことができ

ば、計算自体は簡単です。そうした見方のコツを感じてもらったために、私は解説をした後、「こういう立式になる問題は、ほかにもどんなものが考えられるでしょうか」と問いかけました。生徒は複雑に考えすぎたのですが、生徒は複雑に考えすぎたので、うまく作問できないようでした。今後もしような問いかけを継続し、思考力を鍛えたいと考えています。

後期にも、今回のような問題演習を実施予定です。その際は、対話の時間を多く設けて、生徒が自由に学び合えるようにしたいです。

●成果と展望

定期考査でも思考力や表現力を問い、学習評価につながる

本校の21年度大学入学共通テストの「化学」の平均点は、全国平均より5点以上、上回りました。授業で学んだ知識を活用する問題演習を積み重ねてきた成果だと捉えています。今年度は、問題を多角的に捉え、作問の意図をつかむトレーニングを積み重ね、思考力をさらに伸ばしていきたいと思えます。

授業内で実施する問題演習でも、生徒の思考力を見たいと考えています。また、生徒の発言にユニークな発想が見られれば評価しています。そして、定期考査でも、思考力や表現力を評価する問題を出すようにしています。作問を担当する1年生の1学期の中間考査では、1問程度思考力や表現力を評価する記述式問題を出しました(図2)。この問題では、温度上昇が穏やかになったというだけでは△で、沸騰に熱が使われているところまでを記述することを求めています。

今後は、今回のような記述式問題を増やし、それらの結果を、観点別

VIEWn-expressでは、
本時の授業の様子を
ダイジェスト動画で紹介!
<8月27日公開予定>

VIEW n-express 検索



学習状況の評価のうち、思考、判断、表現の評価の対象にしようと考えています。

図2 1年生 1学期 中間考査の問題(抜粋)

問3 図1で沸騰が始まった場所を矢印で示し、そのように判断した理由を簡潔に述べよ。

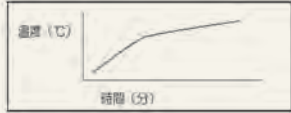


図1. 食塩水に一定の速さで一定の熱量を加えていったときの温度変化

思考力と表現力を評価する記述式問題。記述内容を、観点別学習状況の評価の対象にする予定だ。

※学校資料を基に編集部で作成。

単元の指導計画

【教科・科目】理科・化学 【分野・単元】化学基礎と化学の全分野・単元 【テーマ・作品】思考力を養う問題演習 【設定時数】全2時間(本時は1・2時間目) 【単元目標】思考力を養う。

時数	学習内容	身につけさせたい 資質・能力	授業の流れ	教師の配慮	評価方法
1	視点を変えた問題に取り組み、思考力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 視点を変えた問題に対応できるようになる。 自己の考えを発信することができるようになる。 <p>【思考力、表現力、主体性、多様性、協働性】</p>	<p>①次の3題を掲載したプリントを配布。 Q1. 二酸化炭素が発生する化学反応をできるだけ多く答えよ。 Q2. 電気分解の問題で「銅の析出量が2.0molJが解答になるものを作成せよ。 Q3. 塩化銅(II)水溶液の濃度を求める実験を計画せよ。(非現実的な実験でも構わない)</p> <p>②各問題に、5分間ずつで取り組ませる。 ③各問題、生徒数人に解答を板書・発表させる。 ④教師が解説し、生徒に自分と他者の解答を比較させる。</p>	<p>【主体的な学び】 答えが複数考えられる問題を出し、生徒が個性を発揮できるようにして、主体的な活動を促す。</p> <p>【対話的な学び】 各自の解答を発信し、他者の解答と比較できるようにして、自己の変容を促す環境を整備する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> プリントへの記入内容
2	視点を変えた問題に取り組み、思考力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 問われていることを的確に把握できるようになる。 自由な発想で解答や実験計画を立てられるようになる。 自己の変容をメタ認知できるようになる。 <p>【思考力、表現力、主体性、多様性、協働性】</p>	<p>①大学入学共通テストの「化学」の問題から、5つの小問を掲載したプリントを配布。 ②各問題に、5分間ずつで取り組ませる。 ③各問題、生徒数人に解答を板書・発表させる。 ④教師が解説し、生徒に自分と他者の解答を比較させる。</p>	<p>【深い学び】 比較することで、自分の考え方や志向を知り、他者の解答を分析して、自己の変容につなげるように促す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 演習問題の解答内容

※田中先生作成の単元の指導計画を基に編集部で作成。



SDGsの達成に向けた取り組みや研究の視点で、大学の学びを紹介する本コーナー。
今号では、陸域の生態系の保護などを目指す目標15と、パートナーシップの活性化を目指す目標17に関する大学の学びを取り上げる。
まずは、それぞれの目標について、世界と日本の状況を解説した後、目標15は鳥取大学、目標17は慶應義塾大学の学びを紹介する。



解説



目標15 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する

世界の状況

密猟により人獣共通感染症が
広がり、人間の健康にも影響

陸域の生態系の保護は、残念ながら
らよい方向に進んでいません。特
に深刻なのが、ターゲットの7に挙
げられている密猟です。密猟は、そ
の動物を絶滅させるだけでなく、私
たち人間の健康をも危険にさらして
います。新興感染症の75%は、人
と脊椎動物の間で感染する人獣共通感
染症です。密猟・密売によって人間

社会にウイルスが持ち込まれること
が原因だとされ、新型コロナウイルス
スもその1つだと言われています。
土地の劣化も大きな問題です。陸

地の約2割にあたる20億ha以上
が劣化し、32億人が影響を受けると
ともに、生物を絶滅に追いやってい
ます（*1）。気候変動など、劣化
の原因は様々ですが、砂漠地帯の国
や地域では、灌漑によって地表に塩
がたまる塩類集積（*2）という問
題を抱えています。
また、世界における森林面積の減

解説



目標17 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

世界の状況

コロナ禍の影響で、
途上国への援助が不十分に

目標17では、持続可能な開発の実
現のため、地球規模の協力・連携を
推し進め、資金や技術、自働能力、
貿易などの手段の強化を目指してい
ます。

目標達成度は厳しい状況です。新
型コロナウイルスの影響で、世界各
国で自国の対策が優先され、途上国
への資金援助額は減少。海外渡航が

できないため、技術的な援助なども
十分に行われていません。

各国の資金援助実績を比較する
上で有効な指標は、国民総所得
（GNI）に占める政府開発援助
（ODA）の割合ですが、目標17で
掲げられている目標数値0.7%を
達成しているのは、スウェーデン、
ノルウェー、ルクセンブルクなどの
わずかしか国です（*4）。

他国と協調することは、世界全体
の利益だけではなく、自国の利益に
もなると考える中小国を中心に、資

*1 国際連合広報センター「持続可能な開発目標報告2020」。 *2 乾燥地域などで、過剰な灌漑などによって、耕地の土壌表面に多量の塩類が集積する現象。
*3 森林には生物多様性保全のほか、土砂災害防止機能や水源涵養（かんよう）機能などがある。

少ペースは、やや穏やかになっていきますが、目標を達成できていません。それらの問題の原因は、人間の活動によるものがほとんどです。フランスの取れた共存を実現するために、人間と自然界の相互関係についての理解を深める必要があります。

日本の状況

人工林を適切に管理し、国内での有効活用を

日本は緑豊かな国で、実は江戸時代から、森林面積は変わっていません。現在は、主に戦後に植えられた人工林が全体の4割を占めます。しかし、高度成長期以降、安価な輸入材が増え、人工林は十分な手入れが行われず、放置されました。そのた

め、木が過密になり、弱々しい木しか育たないことから、土砂災害が起こりやすい状態にあります。また、光が森林に入らず、多様な生物が住みにくくなっています。多面的機能（*3）を發揮させるためには、人工林を適切に管理する必要があります。

人工林から伐採した木材を、国内で活用していくことも重要です。適切に管理され、切り出された木であることを認証する森林認証制度があります。森林面積に占める認証森林の割合はまだ少数程度で、欧州や北米に比べて低位にあります。日本は、公共工事に違法伐採の疑いのある熱帯林合板が使用される事例もあり、適正に生産された木材を活用する意識はやや低いと言えます。

自然環境を、国民の生活や企業の経営基盤を支える重要な資本の一つとして捉え、経済成長と同時に自然資本の管理・増大を目指すことが求められているのではないのでしょうか。

P.56～57で、目標15の達成に向けた「鳥取大学」の学びを紹介します。



鳥取大学 農学部
生命環境農学科
教授
永松大
ながまつ・だい

専門分野は、植物生態学、植生科学、保全生態学。東北大学大学院理学研究科生物学専攻博士課程後期修了。農林水産省森林総合研究所研究員、鳥取大学地域学部准教授、教授を経て、2017年から現職。

金援助での貢献度が高いことが分かります。そうした国々が得意とする、様々なステークホルダーが対話を通じて問題解決に取り組む社会の仕組みを、世界全体に広げていく必要があると考えられます。

日本の状況

多様性を理解し、パートナーシップのあり方を見直す

日本のODAの対GNI比は、0.29%と、目標の0.7%に遠く及ばず、日本の経済力に対して拠出額は低い状況です（*4）。人的貢献も十分ではありません。国連関係機関における日本人職員数は、G7諸国に比較すると少ないのが現状です（*5）。

その現状をよりよい方向に変えていくには、大きく2つの手立てが必要だと考えています。1つは、透明性があり、誰もが参加できる社会の仕組みづくりです。もう1つは、多様性を理解する教育の浸透です。グローバルな問題を解決するためには、多様性を理解し、国を超えた協力関係が重要であることを、すべての国民が理解する必要があります。それらを十分に進めていくためには、国や自治体、研究機関、企業

NGOなどが垣根を超えて協働していくべきです。例えば、科学技術のイノベーションが、SDGs達成に大きな役割を果たすと期待されていますが、現状では各省庁による取り組みとなっており、横のつながりが十分だとは言えません。グローバル・パートナーシップを考えるだけでなく、日本国内のパートナーシップのあり方も考えていく必要があるでしょう。

P.58～59で、目標17の達成に向けた「慶應義塾大学」の学びを紹介します。



慶應義塾大学大学院
政策・メディア研究科
教授
蟹江憲史
かにえ・のりちか

専門分野は、国際関係論、サステナビリティ学、地球システム・ガバナンス。北九州市立大学講師、助教授、東京工業大学大学院准教授、パリ政治学院客員教授などを経て、2015年から現職。

*4 外務省「OECDによる2018年の各国ODA実績（暫定値）の公表」（2019年4月）。

*5 外務省「国際機関で働く日本人職員」（2019年12月末現在）。

この学びに
関する
SDGsの
目標



大学の学び

豊かな自然環境での実習で実践力を磨き、
森林や湿原の生物多様性を守る研究を行う
鳥取大学 農学部 生命環境農学科
植物生態学研究室

この学びに関する
他のSDGsの目標



2年次に大学周辺の自然の中で実習し、興味を深める

地球温暖化に起因する気候変動は、農林業においても対応すべき重要な課題だ。鳥取大学農学部生命環境農学科では、地域から地球まで、広範な問題の解決に農学の立場から

私たちが紹介します



農学部生命環境農学科
里地里山環境管理学コース
4年
藤原桃香
ふじわら・ももか

高知県立中村高校卒業。



鳥取大学大学院
持続性社会創生科学研究科
修士1年
南方悠生
みなかた・ゆうき

大阪府・私立常翔学園高校、鳥取大学農学部生命環境農学科卒業。

貢献する人材を養成している。

1年次には、学科の基礎科目を履修し、農学を学ぶための基礎学力を身につける。2年次には、各自の興味に応じて4つの教育コース（*1）に分かれ、専門科目を学ぶとともに、コース別の実験・実習で協働力や専門的な実践力を養う。

同学科卒業後、鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究科に進学した修士1年の南方悠生さんは、自然に興味があり、同学科に入学した。「植物科学や基礎生態学の授業を受けたら、大学周辺の自然に触れたい」
「植物科学や基礎生態学の授業を受けたら、森林に興味を持ち、樹木について学べる里地里山環境管理学コースに進みました」

同学科4年の藤原桃香さんは、生き物が好きで、中学校の理科の教師を志し、入学。1年次に農学の基礎を

幅広く学び、植物にも興味を持つようになった。植物を深く学びたいと思っようになったきっかけは、2年次の「里地里山演習Ⅰ」で、それは、大学周辺の里山地域に赴き、その土地と人のかかわりについて学ぶ授業だ。

「それまで木や草花にはあまり関心はありませんでしたが、その演習や『植物分類学』の授業で植物の種類を見分けられるようになると、興味湧いてきました。今は大学内を歩いていても、生えている植物が気になるようになりました」

現地調査を行い、生物多様性を守るための計画を練る

3年次の後半には研究室に所属し、専門的な学びを深めていく。

南方さんは、「里山森林実習Ⅱ」

で大学の研究林である岡山県真庭市・蒜山での実習に行った際、同地が元々草原で、火入れ（*2）後にできた二次林であることを知った。実習の調査で、そうした森を放置すると、特定の樹種ばかりが育つ均質化が起き、生物多様性の維持に支障を来すことを学んだ。

「蒜山の森がどのように遷移していくのかを研究することで、今後の森林管理に貢献したいと考え、植物生態学が専門の永松大教授の研究室に入りました」（南方さん）

永松教授の植物生態学研究室では、「目標15 陸の豊かさを守ろう」や目標13の達成に貢献するため、森林や鳥取砂丘の生物多様性、生態系保全を維持する研究を行う。同研究室の特徴は、現地調査を重視していることだ。

* 1 国際乾燥地農学、里地里山環境管理学、植物菌類生産科学、農芸化学の4つの教育コースが設置されている。 * 2 草原に火をつけ、草本から高木への遷移を後戻りさせ、茅葺き屋根の材料となるススキなどの草原を維持するための手段。

植物に興味を持った藤原さんは、同研究室で、鳥取県岩美町にある唐川湿原に咲く、カキツバタ群落を再生するための調査を行っている。同湿原には約100種類の湿原植物が自生しており、国の天然記念物に指定されている。

「1970年代以降、ゴルフ場建設など、湿原周辺の開発が進んだ結果、湿原の乾燥化が問題になっています。私は、湿原の劣化状況を調べ、自然再生計画を検討したいと考えています」(藤原さん)

藤原さんは、2週間に1度、ほかの研究室の学生と一緒に湿原を訪れ、水質や地下水位、植生などを丸1日かけて調査している(写真1)。「湿原特有の植物については、知らないことが多すぎます。勉強しな



写真1 唐川湿原で植生調査を行う藤原さん。もう1人の学生が水質などの調査を担当しており、今後は集めたデータを互いに共有して研究を進めていく。

らの調査は大変ですが、フィールドワーク中心の研究は自分に合っていると感じ、いつも調査日を待ち遠しく思っています。湿原に十分に水が行きわたる水路を計画するという内容で卒業論文をまとめ、目標15の達成に貢献したいです」(藤原さん)

森林の未来を予測し、生物多様性の維持に貢献

南方さんは、学部時代は蒜山のアカマツ林の現状について調査(写真2)。現在は、研究林で最も広く分布するコナラ林の遷移を研究中だ。

「森の上層と下層で、優占している樹種の違いを調べています。また、上層木が枯れて林内が明るくなった場合に、コナラやほかの樹木の成長にどのような影響を与えるのかについて調査しています」(南方さん)
30m四方に区切った、3つの異なる環境におけるコナラの成長の調査では、森に差し込む光の量を調整するため、木を伐採することもある。

「様々な環境下でのデータを収集し、何の樹種の芽が出て、どのように成長するのか、未来の森林を予測



写真2 蒜山のアカマツ林において、コンパス測量を行う南方さん。測量などは1人ではできないため、研究室のメンバーに依頼し、複数人で調査を進める。

できるのが、この研究の面白さです。研究を継続し、生物多様性の高い森の存続に貢献したいです(目標12・15)」(南方さん)

樹木の調査は手間がかかるため、研究室のほかの仲間にも手伝ってもらうことが多いとのことだ。

「研究室の仲間は、鳥取砂丘における植生や、森林とシカの関係など、多様な研究をしています。ほかの研究を手伝うことで、多様な植物に触れたり、様々な調査方法を学んだりすることが出来ます」(南方さん)

同研究室では、地方公務員の林業職を目指す学生が多いという。「研究で培った実践力を生かし、環境保全や緑化などにかかわれる組織や企業に就職したいと考えています」(南方さん)

学びとSDGs

恵まれた研究環境を利用し、得たデータから価値を見いだす



農学部
生命環境農学科
教授
永松大
ながまつ・だい

本学科では、農学を極める「地の利」と先人が蓄えた「知の利」を学び、豊富な実習を経験することを通じて、未来を拓く農学者を育てています。

私が専門とする植物生態学は、現場に赴いてデータを収集し、それらの数値にどのような意味があるのかを自ら解き明かしていくことが大切です。また、2年次から蒜山の研究林や広大な農場での実習のほか、インターンシップや海外農学実践科目などを通して実践力を磨き、自らの研究に生かしてほしいと考えています。

各コースには、約15ずつの研究室があり、1つの研究室に所属する学生は、大学院生まで含めて6人程度と少なく、きめ細かい指導を行っています。人数が少なくても、広い視野を持って研究が進められるよう、週1回、3つの研究室が合同でゼミを実施し、自分とは異なる分野の研究をする学生との意見交換の場を設けています。多様な視点から、社会貢献を意識した研究を進めてほしいと考えています。



大学の学び

1年次から実践的な問題解決に取り組み、 持続可能な社会の担い手を目指す

慶應義塾大学 総合政策学部
XSDG・ラボ(蟹江研究室)

環境問題や社会問題を 自身の手で解決したい

慶應義塾大学総合政策学部は、グローバル社会の問題の発見・解決に取り組み、社会を先導する「問題解決のプロフェッショナル」となる人材を育成している。

総合政策学部4年の大貫萌子さん、幼少期をヨーロッパとアフリカ

私たちが紹介します



総合政策学部4年
大貫萌子
おおぬき・ももこ
東京都・私立国際基督教
大学高校卒業。



総合政策学部2年
落合航一郎
おちあい・こういちろう
東京都立武蔵高校卒業。

で過ごし、貧富の差などの社会問題に関心を持つようになった。高校時代には、SDGsの普及を目指すNGOの活動に参加していたが、次第に目標の浸透だけでは不十分ではないかと思いはじめた。

「どのステークホルダーの何が変われれば、社会変革を起こせるのかと考えた時に、個人の消費行動を変えることが鍵なのではないかと思うようになった。そこで、サステイナビリティ学を専門に研究している蟹江憲史教授の下で深く学ぼうと、入学を決めました」

同学部2年の落合航一郎さんは、高校時代に参加したボルネオ島(※1)でのフィールドツアーで、パーム油を生産するために熱帯雨林を伐採して開墾されたアブラヤシ農園の状況を目のあたりにし、環境問

題の解決に関心を持った。

「農園が見渡せる展望台に立つと、鳥や虫の鳴き声も、川のせせらぎも聞こえない異様な空間が広がっていました。その空間を生んだ原因は私たちの消費だと危機感を抱き、持続可能なパーム油の生産を行うために、国やNGOが連携して国際的な認証組織をつくることができな

か、研究したいと考えました」
同学部では、授業科目は学年別に設置されており、学生が自分にとって必要な科目を必要な学年で履修できる仕組みになっている。大貫さんは、1・2年次は、どのように社会が形成されているのかを学びたいと考えた。特に自身の研究に役立つのは、蟹江教授の「環境対応プラクティス」という科目だった。環境に関する国際制度の設計には、

国家間の交渉が不可欠であり、その過程を体験的に学ぶことができた。

「社会的合意を果たすには、自国の利益を主張するのではなく、互いの妥協点を見いだしながら合意を図っていく難しさを学びました」

熱意や行動力だけでなく、 学術的な意義を意識し研究

同学部の学びの中心となるのは、1年次から所属できる研究会だ。学年に関係なく、所属する学生が学び合い、問題解決に実践的に取り組む。

2人は、1年次の秋学期から蟹江教授の「XSDG・ラボ」に所属。「目標17 パートナリーシップで目標を達成しよう」などのSDGsに関する研究のほか、企業や自治体と連携したプロジェクトに取り組む。

この学びに関する 他のSDGsの目標



*1 ボルネオはマレーシア領、インドネシア領、ブルネイからなる島。落合さんはボルネオ島のマレーシア領、サバ州に渡航。

落合さんが1年次に参加したのは、東京オリンピック・パラリンピックが社会に与える影響について調べ、SDGsの観点から評価する新聞社と連携したプロジェクトだ(写真1)。会場のバリアフリーの状況や、会場で提供される食材の持続可能な調達状況(※2)などを調べた。研究の過程で、高校時代との問題への取り組み方の違いを感じた。



写真1 落合さんは、ラボを代表して「小学生SDGsサミット」に参加。自身のプロジェクトについて発表し、小学生の時から持続可能性について考える重要性を訴えた。

「高校時代は、例えば、ゴミ問題が気になれば、繁華街に「ゴミ拾いに行くなど、まず行動に移していました。一方、大学での研究は、仮説を裏づけるデータを収集し、そこから新しい価値観を見いだして発表することで、社会のより大きな動きにつながっていきます。熱意や行動力を大

事にしつつ、新規性や有効性、信頼性といった学術的な意義も意識するようにになりました」(落合さん)

企業のSDGsへの貢献度を評価するプロジェクトを立案

大貫さんは、1・2年次に兵庫県中学校でSDGs教育を行うプロジェクトに参加(写真2)。3年次には、元々取り組みたいと思っていた、ステークホルダーの違いによるSDGsへの貢献度を研究しようとして、「学生によるSDGs貢献度に関する企業分析と評価プロジェクト」を蟹江教授に提案し、現在は、リーダーとしてメンバー20人を率いている。



写真2 大貫さんは、1年次に、兵庫県豊岡市の中学生向けに、SDGsの視点で同市へのUターン人口を増やす方法をともに考える授業を実施した。

「企業のSDGsへの貢献度を評

価する項目を、新聞社が実施するSDGsの調査をベースに、学生の視点を踏まえて設定しようとしています。難しいのは、主観と根拠のバランスです。新しい評価指標を追加する際も、明確な根拠を示さなければなりません。自分の主観だけで決めていないか、常に自分を客観視して、研究を進めています」(大貫さん)

大貫さんは、同プロジェクトを卒業論文にまとめる予定だ。就職活動中の学生が企業のSDGsへの貢献度を踏まえて、仕事や職場を選択するようになることに貢献できればと考えている(目標8)。

「SDGsウォッシュ」(※3)問題に関心のあつた落合さんも、今年度から同プロジェクトに参加。ラボのメンバーと協働し、「新型コロナウイルスの感染拡大などの緊急時におけるマニュアルの有無」といった従来にはなかった企業の評価項目を追加したと言つた。

「若い世代が求めている企業のあり方を明確に示すことで、各企業の取り組みが表面的なものではなく、より実質的なものになればと考えています(目標16)」(落合さん)

学びとSDGs

プロジェクトでの実践から、使える知識・技能を身につける



慶應義塾大学大学院
政策・メディア研究科
教授
蟹江憲史
かえ・のりちか

私のラボでは、本学部の目指す「問題解決のプロフェッショナル」を育成するため、SDGsの考え方を応用し、企業や地域の問題解決に取り組む学びを進めています。学部1年生から大学院生までが、1つのプロジェクトとともに実践的に学ぶ中で、社会で活用できる知識・技能を身につけてほしいと考えています。

ただ、理論的な基盤がなく、現場の雰囲気にならされて活動しているだけでは、真の問題解決にはたどり着けません。実践とともに、知識・技能の重要性も理解してほしいと思っています。

また、問題に深く切り込むには、多様な経験に基づいた自分の考えを持つことが重要です。国際連合の本部やハイレベル政治フォーラムなどに学生を同行させ、広い視点で問題を捉える感性を養えるようにしています。

SDGsに関心がある高校生には、本当に自分が課題だと思つたことを追究し、多くの仲間と議論する経験を積んでほしいと思います。

※2 森林・海洋資源の保全や生物多様性に配慮した採取・栽培、食材の生産における強制労働や木材の違法伐採の排除など、持続可能性に配慮して食材が調達されているかを調査。 ※3 実態が伴わないのにSDGsに取り組んでいると主張すること。

トレンド・ワード

ジェンダー

生徒の学びや進路選択、そしてその後の人生に影響を与えるような革新的な技術や価値観を「社会のトレンド」として、「学ぶ」「働く」「暮らす」の観点から解説する本コーナー。今回は「ジェンダー」を取り上げる。性の違いによる差別や人権侵害の解消を目指すジェンダー平等の実現は、SDGsの目標の1つにも掲げられ、世界的な課題となっている。日本は、ジェンダー平等への対応の遅れが指摘されているが、一方で、若い世代を中心に、ジェンダー意識が高まっている状況だ。ジェンダー平等が実現すると、人々の価値観や社会のあり方はどのように変化するのか、関西大学文学部の多賀太教授に話を聞いた。



解説者

関西大学 文学部 教授
多賀太 たが・ふとし

久留米大学文学部助教授などを経て、現職。専門分野は、教育学、社会学、男性学。社会活動として、「男性の非暴力啓発運動」にも力を入れる。著書に、『男子問題の時代?』（学文社）、『揺らぐサラリーマン生活』（ミネルヴァ書房）など。

サマリー

性別によって生き方や振る舞いが制限されず、誰もが自分らしく生きられる社会に

ジェンダー平等は、あらゆる人々に切実なテーマ

「ジェンダー」は、一般に、生物学的な性別「セックス」に対し、社会的・文化的につくられる性別のことを指して用いられる。しかし、世界的なジェンダー意識の高まりを受け、その用法は変化しつつある。関西大学の多賀太教授は、次のように

説明する。

「欧米を中心に、性別一般を表す言葉として、『ジェンダー』が使われるようになっていきます。LGBTQ（*1）といった多様な性のあり方が知られるようになり、人間を生物学的な男女の2種類に分けること自体も、社会的・文化的な認識の下に行われているという考え方が生まれてきたからです」

SDGsの目標の1つにも掲げら

れているジェンダー平等の実現は、世界的な課題だ。具体的には、女性への差別や人権侵害、LGBTQといった性的マイノリティーの人々の生きづらさを解消することが挙げられる。男性がジェンダーの関係性の中で苦しむケースも見られ、それも課題だと言える。

「男性は、男らしさとして『強く

あれ』『競争に勝て』といったことを求められ、働いて一家を養う責任を背負う状況に苦しめられることがあります。つまり、ジェンダー平等は、性別にかかわらず、誰にとっても切実な課題なのです」

世界的にジェンダー平等が重視される背景には、その実現が社会や地域の持続的な発展に欠かせないという理由もある。

「日本では、少子高齢化により労働力が不足し、女性も働き手として期待されています。女性が安心して働けるためには、性別による待遇の違いの解消や、男性の家事や育児へ

*1 レズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシュアル（両性愛者）、トランスジェンダー（心と体の性が一致しない人）、クエスチョニング&クエア（自分の性が分からない人や、性別をどれかに決めない人）の頭文字を取った言葉。

図1 ジェンダーギャップ指数の上位国と日本の順位(2021年)

順位	国名・地域名	値	前年値	前年からの順位変動
1	アイスランド	0.892	0.877	—
2	フィンランド	0.861	0.832	1
3	ノルウェー	0.849	0.842	-1
4	ニュージーランド	0.840	0.799	2
5	スウェーデン	0.823	0.820	-1
6	ナミビア	0.809	0.784	6
7	ルワンダ	0.805	0.791	2
8	リトアニア	0.804	0.745	25
9	アイルランド	0.800	0.798	-2
10	スイス	0.798	0.779	8
11	ドイツ	0.796	0.787	-1
12	ニカラグア	0.796	0.804	-7
13	ベルギー	0.789	0.750	14
14	スペイン	0.788	0.795	-6
15	コスタリカ	0.786	0.782	-2
16	フランス	0.784	0.781	-1
17	フィリピン	0.784	0.781	-1
18	南アフリカ共和国	0.781	0.780	-1
120	日本	0.656	0.652	1

※ World Economic Forum (http://www3.weforum.org/docs/WEF_GGGR_2021.pdf) を基に編集部で作成。

の参加促進など、誰もが活躍しやすい環境づくりが欠かせません」

**ジェンダー平等の流れに
取り残された日本**

日本は、世界経済フォーラム(以下、WEF)が公表する「ジェンダーギャップ指数」(※2)が、2021年は156か国中120位だった(図1)。WEFのレポートでは、低順位の原因として、女性の大企業や国會議員の少なさ、企業の女性管理職の割合の低さ、男女の所得格差などが指摘されている(図2)。

日本のジェンダー平等への対応の遅れには、どういった問題があるのだろうか。

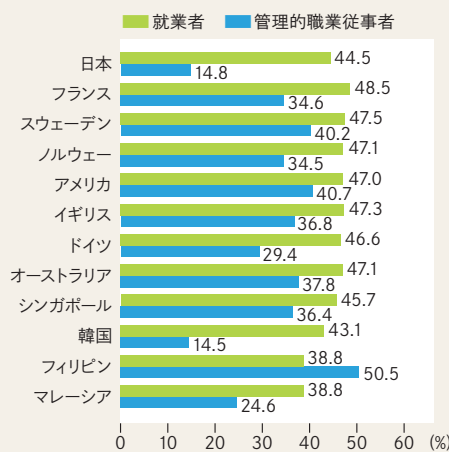
「欧米では、オイルショックによる不況や女性解放運動の高まりなどを受け、1980年代以降、男女の役割の見直しが進みました。一方、バブル経済の好況にあった日本では、男性が働き、女性が家庭を守るという体制から抜け切れず、その結果、男女平等の世界的潮流から取り残されました。その後も、男性の長時間労働を前提とした就業モデルや、ジェンダーの関係性で優位な立

場にある年長の男性が政治や経済の要職を占める状況は大きく変化することはなく、現在に至っています」

一方で、経済状況の変化により、日本でも共働きが一般的になった。男性の育児休業の取得率は依然として低迷しているが、わずかながら年々高まっており、若い世代を中心に、ジェンダー意識は着実に変わりつつある。

「メディアで女性差別発言があると、男性からも抗議の声が上がるようになった状況には、日本社会の変化を感じます。今後は、女性だけではなく男性にとっても、当事者意識

図2 就業者、及び管理的職業従事者に占める女性の割合(国際比較)



注1) 総務省「労働力調査(基本集計)」(2019年)、その他の国は「ILOSTAT」より作成。

注2) 日本、フランス、スウェーデン、ノルウェー、アメリカ、イギリス、ドイツ、フィリピンは、2019年、その他の国は2018年の値。

注3) 総務省「労働力調査」における、「管理的職業従事者」とは、就業者のうち、会社役員、企業の課長相当職以上、管理的公務員等。また、「管理的職業従事者」の定義は国によって異なる。

※内閣府「令和2年版 男女共同参画白書」を基に編集部で作成。

●次ページからは、「学ぶ」「働く」「暮らす」の3つの切り口で、ジェンダー平等による、社会や生活の変化を具体的に見ていく。

を持って現状を変える行動を起こすことが重要になるでしょう。啓発活動に頼るだけでなく、法制度の面からもジェンダー平等を図ることで、日本も性別によって生き方や振る舞いが制限されず、自分らしく生きられる社会に少しずつ近づいていくと考えています」

*2 世界経済フォーラム(World Economic Forum: WEF)が毎年公表する、各国における男女格差を測る指数。「経済」「政治」「教育」「健康」の4つの分野のデータから作成される。値が大きい程、男女格差が少ない。

学ぶ

本人の希望や意思に沿った進学がしやすくなる

教育機会の男女格差の解消は、世界的に大きな課題の1つだ。日本では、長年の取り組みにより、大学等

への進学率の男女差はほぼ解消した。ただし、大学院進学者の割合（18年度）は、男性が約15%、女性が約6%であり、依然として開きがある。加えて、専攻分野の性差も大きい。理学や工学などは男性、人文科学や薬学、看護学などは女性の進学者が多い。

「専攻分野や職業の性別のステレオタイプを基に、本人が意識的・無意識的に選択したり、周囲の大人が誘導したりすることが要因だと考えられます。結果的に、本来やりたかったことや、自分に向いていることができず、自己実現が阻まれたり、社会的に有為な人材が生かせなかったりする弊害が生じてしまいます」

ジェンダー平等が実現した社会では、そのようなステレオタイプが弱まり、本人の希望や意思に沿った進学が実現しやすくなると期待され

る。そのためには、進路指導において大切な点があるという。

「単に生徒本人の希望を尊重するだけでなく、その希望が男女の役割についての無意識の思い込みに影響されていないか振り返ってみたり、男性（女性）が多数派の職場で生き生きと活躍している女性（男性）の役割モデルを示したりすることも大切です」

進学先や就職先で性別による有利・不利を生じさせないためには、大学や企業などの受け入れ側の取り組みも欠かせないだろう。そして、ジェンダー平等の社会を築いていける生徒を育むためには、校内のジェンダー・バイアス（*3）を取り除く努力も重要だ。

「環境面では、男女別の名簿や色分け、男女別の制服などが挙げられます。性別による呼び方、褒め方、叱り方の違い、ステレオタイプに沿った進路指導なども、生徒に影響を与えるでしょう。合理的な理由が

ない限り、性の違いで区別しないことが基本的な考え方です」

生徒に対するジェンダー教育では、性別にかかわらず経済的自立やワークライフバランスの大切さを教えていきたい。

「ジェンダー平等が実現されると、

働く

性別の役割分担から解放され、キャリア形成が柔軟に

労働の観点では、管理職登用の性差や賃金格差などが問題視されることが多い。

「男女雇用機会均等法により、制度上、性の違いによる差別はなくなりましたが、日本の企業の多くは、長年勤続して長時間働く社員が出世や昇給しやすいシステムになっています。結果として、出産や育児で長期休業する女性が不利になりやすいことが、男女格差を生じさせています。また、出産・育児による退職を経て復職する際、非正規雇用となるケースが多いことも、賃金格差の大きな要因となっています」

個々の考えに基づいて人生をつくり上げていく姿勢がより重要になります。その人らしく生きやすい半面、自己決定や自己責任が要求されることに留意してキャリア観や人生観を育んでほしいと思います」

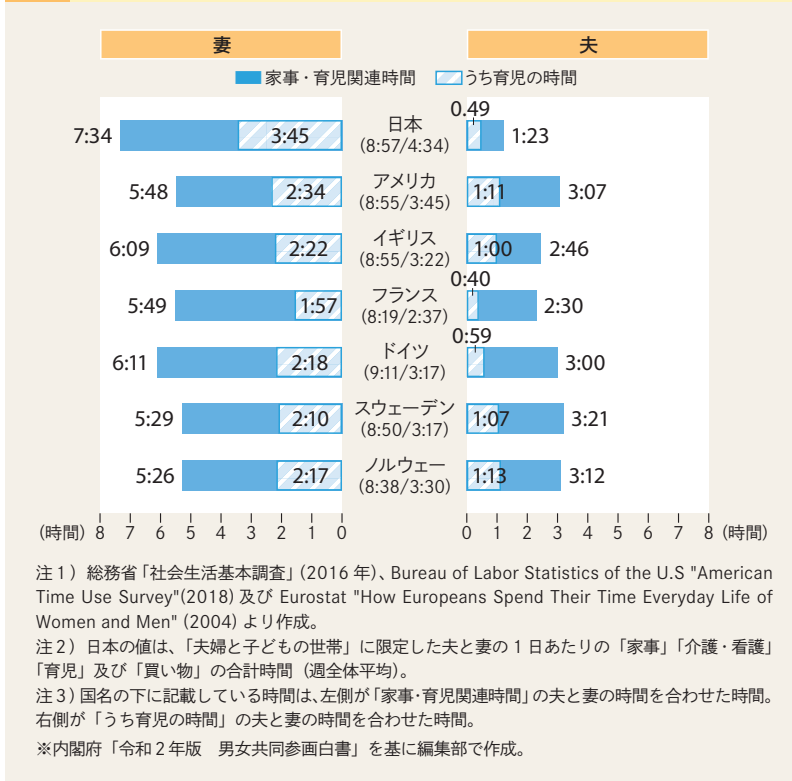
現在、そうした問題を解消しようと、働き方改革が推進されている。

日本でも共働きが一般的となり、家事や育児、介護を夫婦で分担する意識が、若い世代を中心に高まっている。

「ただし、国際的に見ると、日本の男性の家事・育児時間は著しく少ない状況です（図3）。個人の努力には限界があるので、長時間労働を前提とした男性を稼ぎ手とする就業モデルを見直す必要があるでしょう。例えば、正規・非正規などの雇用形態や立場にかかわらず、同じ価値を持つ仕事に対して同額の賃金を支払う『同一価値労働同一賃金』が

*3 男女の役割について、無意識のうちに固定的な観念を持つこと。

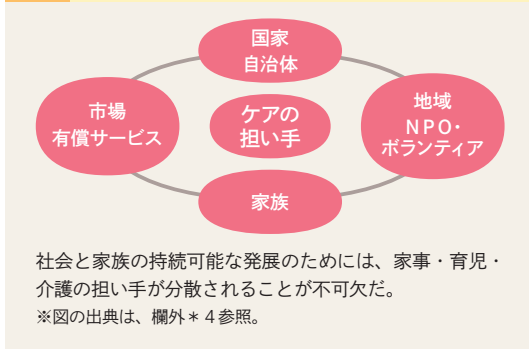
図3 6歳未満の子どもの持つ夫婦の家事・育児関連時間の国際比較 (全体平均・1日あたり)



実現すれば、性別に関係なく、個人の意思で働き方を選びやすくなるでしょう」
そうした労働環境であれば、ライフステージに合わせて、子どもが小さい頃は夫婦ともに仕事を抑えて育児を楽しんだり、夫が転職活動中に妻が働いて家計を支えたりと、状況

に合わせた働き方ができるようにするだろう。
ジェンダー平等の社会では、従来の性別による役割分担から解放され、誰もがライフステージに合わせて、より柔軟にキャリアを形成していく姿が見えてくる。

図4 今後の家事労働の担い手



家事や育児、介護は、これまで女性による無償労働が中心だった。しかし、日本でも共働き世帯が増加する中、家事労働の担い手は、公的サービスや民間の代行業者など、国や自治体、企業、地域ボランティアなどに分散されると考えられる(図4)。
ジェンダー平等が実現すれば、人生設計も大きく変わるだろう。男性

暮らす 家庭でも地域でも、人々が支え合う社会へ

家事や育児、介護は、これまで女性による無償労働が中心だった。しかし、日本でも共働き世帯が増加する中、家事労働の担い手は、公的サービスや民間の代行業者など、国や自治体、企業、地域ボランティアなどに分散されると考えられる(図4)。
ジェンダー平等が実現すれば、人生設計も大きく変わるだろう。男性

「そうした固定観念がなくなれば、男性が子育てや地域活動に参加しやすくなるでしょう。ジェンダー平等の社会とは、性別にかかわらず、仕事・地域・家庭生活の責任とその喜びを分かち合い、安心・安全に、健康に、生き生きと暮らせる社会であり、一人ひとりがその積極的な担い手となることで、実現へと近づいていくのです」

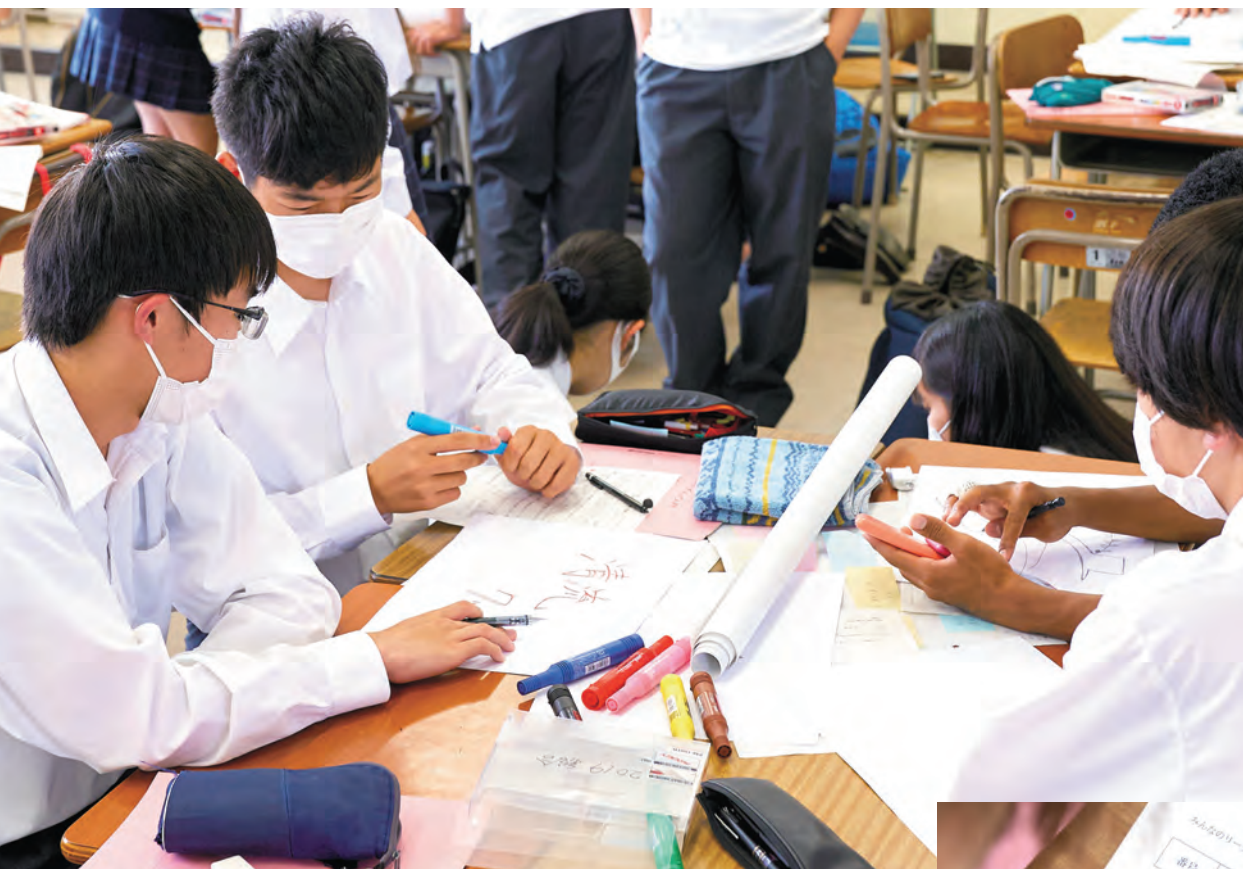
*4 落合恵美子ほか「日本におけるケア・ダイヤモンドの再編成：介護保険は『家族主義』を変えたか」(国立社会保障・人口問題研究所『海外社会保障研究』No.170号, 2010年)に掲載の図を参考とした多賀教授の解説を基に編集部で作成。



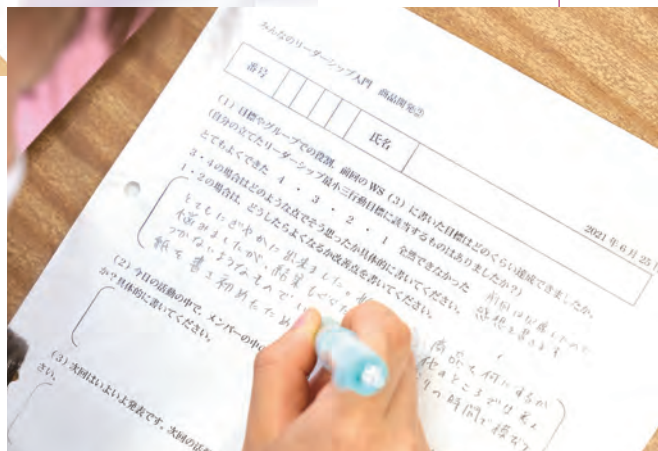
リーダーシップ教育

集団の目標の達成に向けて、 自らの力を発揮するリーダーシップを育成

神奈川県立藤沢清流高校



本時の活動は、自校をアピールするための商品やサービスを考えて、プレゼンテーションの準備をすること。アイデアがまとまると、プレゼンテーションに向けて、キャッチコピーの考案や、ポスターに掲載するイラスト作成など、役割を決め、それぞれの活動を率先して行っていた。



授業の最後に行う振り返りでは、自分を含むグループのメンバーの行動や発言の中で、目標の達成において役立ったことをワークシートに記入した。

どんな学び？

1 授業の内容は？

権限や役割によらないリーダーシップの意味や大切さについて理解し、日常生活で発揮することが目標です。「目標共有・率先垂範・相互支援」の3要素を軸にグループワークなどを行います。

2 育成を目指す資質・能力は？

コミュニケーション力やプレゼンテーション力、傾聴力、情報収集力など、社会人に必要な力を幅広く育成します。

3 なぜ、この学びが必要？

リーダー経験のない生徒でも、自分にも発揮できるリーダーシップがあると知り、実践することで、すべての教育活動が一層活性化すると考えました。

目標を共有し、自ら行動して 仲間を支える力を身につける

一般的にリーダーと言えば、優れた能力で集団を率いる人をイメージすると思いますが、本校では、誰もが発揮できるリーダーシップを育成しています。それは、目標共有（目標の浸透）、率先垂範（自ら行動し、周囲を巻き込む）、相互支援（仲間を支える・支援を求める）の3要素から成ります。例えば、グループの代表として発表する人だけでなく、資料作成に専念した人も、リーダーシップを発揮していると捉えます。また、ちょっとした提案で議論を進めることもリーダーシップの発揮であり、そうしたグループでの目標の達成に向けて主体的にかかわる資質・能力の育成を目指しています。

本校の生徒は真面目ですが、おとなしく、意思表示をためらう傾向があります。しかし、生徒が3要素を身につければ、授業での活動や学校行事などが活性化されるのではないかと考え、2016年度、リーダーシップ教育を導入しました。そして、この教育を支援する企業とともにカリキュラムを作成し、17年度、1年次の

学校設定科目として「みんなのリーダーシップ入門」を開講しました。

仲間を認め合う振り返りで 自己肯定感を高める

授業は1コマ90分間で、毎回4〜5人のグループになって活動します。単元の展開はまず、前述の3要素について説明した上で、常に具体的な目標を設定し、意識して行動するよう促します。そして、毎時間、グループで活動し、コミュニケーション力や傾聴力を高めていきます。それらの活動を踏まえ、グループで本校をアピールする商品やサービスを考え、それをプレゼンテーションすることにしました(図)。

図 「みんなのリーダーシップ入門」単元計画(抜粋)

1	オリエンテーション	リーダーシップの3要素を学ぶ。
2	クラスのキャッチコピー・行動計画	理想のクラス像を絵に描き、クラスのキャッチコピーを考える。
3	自己理解・他者理解(コンセンサス)	NASAの「月面サバイバル」のコンセンサス・ゲームを通じて、視野を広げる助けとして自分の意見と異なる意見を捉えることを学ぶ。
4	ノンバーバルコミュニケーション	同じ言葉を複数の生徒が発し、口調や表情でどのように印象が異なるかを考える。
5	情報を組み立てる(課題解決ゲーム)	各人の情報を整理しながらテーマパークの施設の配置を明らかにする作業を通じて、コミュニケーション力を高める。
6	協働する力(人間コピー)	廊下の絵の内容を、絵を見ていない人に伝え、口頭の情報だけで絵を仕上げます。
7	ペーパークラフト	グループで、紙1枚と限られた道具で1つのものを制作。伝え、聞く力や3要素を発揮。
8	プレゼンテーション基礎	まず結論を述べてから、具体例を加えて説明する発表の手法を身につける。
9	商品開発①企画	自校をアピールする商品やサービスを考え、プレゼンテーションする。ポスターを描いたり、プレゼンテーションソフトを活用したりと、提案方法は各グループで考える。
10	商品開発②企画・発表準備	
11	商品開発③発表	

※学校資料を基に編集部で作成。

毎授業の最後には、グループのメンバー相互にフィードバックを行います。自身の活動の貢献度や次時に向けた改善点を考えるための「振り返り」をし、その内容をグループ内で共有します。グループに貢献できたという実感は、生徒の自己肯定感を高めます。さらに、本時の学びが他の授業や生活の中でどう生かせるかをワークシートに書かせ、次時までに実践するよう促しています。

それらの積み重ねによって、生徒は様々な場面でリーダーシップを発揮していきます。ある部活動では、先輩後輩を問わず意見を出し合い、活動方法を改善した結果、チームが活性化したことが報告されています。

教職歴34年。同校に赴任して11年目。外国語科(英語)。



総括教諭・
キャリア支援グループ
小島昭彦
こじま・あきひこ

学校概要

- ◎ 神奈川県立大清水高校と同藤沢高校が再編統合し、大清水高校の校地に開校。キャッチフレーズは「まじめがかっこいい」。2013〜15年度、神奈川県「確かな学力向上推進重点校」(アクティブラーニングに基づく学力向上推進)、16〜21年度「授業力向上推進重点校」に指定され、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善に取り組む。
- ◎ 設立 2010(平成22年)
- ◎ 形態 全日制/普通科/共学
- ◎ 生徒数 1学年約280人
- ◎ 2021年度入試合格実績(浪浪計)
国公立大は、静岡大に1人が合格。私立大は、青山学院大、駒澤大、専修大、東海大、東洋大、日本大、法政大、明治大、神奈川大、関東学院大などに延べ262人が合格。

VIEWn-expressでは、
「ウェブで見学 学びのnext」で、
同校のリーダーシップ教育について
さらに詳しく紹介!
<8月23日公開予定>

VIEW n-express

検索





今号の「発問・課題設定をキーに見る 主体的・対話的で深い学び 授業実践」では、本コーナー初の体育の授業を取り上げました（北海道浦河高校 舟田彩一朗先生）。グラウンドに立つのは学生時代以来となることにワクワクしつつ、運動靴に履き替え、取材に臨みました。当日は、誌面用と動画用の2台のカメラが、熱いまなざしで生徒を追いかけましたが、広いグラウンドに生徒が散り散りになってグループ活動をしていたため、大事な場面を逃さないようにと、走り回っての撮影に。編集スタッフも、画面に映り込まないように、カメラマンと一緒に動き回りました。そんな苦勞の甲斐もあって、生徒が試行錯誤しながら学びを深めていく様子を、誌面でお伝えすることができたのではないかと思います。ウェブコーナー「VIEW n-express」で公開予定の授業のダイジェスト動画も、ぜひご覧ください！（渡邊）



VIEWnext
高校版は

電子ブックで閲覧可能です

『VIEW next』高校版、『VIEW21』高校版2020年4月号以降の記事は、電子ブックでご覧いただけます。ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトでご確認ください。
HOME → 教育情報 → 高校向け → 情報誌最新号

<https://berd.benesse.jp>

VIEWnext

高校版 2021年10月号

10月15日発行
(予定)

『VIEW next』高校版は
年6回の発行です

先生方からのご意見を
紹介します

Reader's VIEW

2021年6月号へのご意見

対象を意識したスクール・ポリシーの策定を目指す

スクール・ポリシーを策定する際、難しい言葉や言い回しを使いがちだが、6月号の特集の香川県立高松北中学校・高校が実施したスクール・ポリシーに対するアンケートを見て、中学生や保護者にとって分かりやすい表現を考えなければならないことを学んだ。本校でも、お飾りではなく、対象に伝わることを意識したスクール・ポリシーをつくりたい。

岐阜県立加茂農林高校 渡邊強矢

自校の教育活動をスクール・ポリシーに落とし込む

本校では、ランドデザインの策定や、育成を目指す資質・能力についてのルーブリックの作成、探究学習を起点としたキャリア教育などを実践してきたが、それらの実践の内容と、成果として得られた生徒の変容を、外部にうまく発信していくことに課題を感じていた。6月号の特集を読んで、教育活動をスクール・ミッションやスクール・ポリシー（特にカリキュラム・ポリシー）に落としこむ重要性を再認識できた。校内で、スクール・ポリシーを作成する意義を伝えていきたい。

東京都立南多摩中等教育学校 徳武英人

高校生でも「何かを変えられる」経験の大切さ

校則に関して、生徒や保護者、地域住民から意見をいただくことが増えた。生徒会が中心となり、時代にに応じて不要な校則を廃止したり、変更したりしたいが、そのハードルが高く、現状では、生徒が「何も変えられないことを学ぶ」ことになっていると感じる。大人の世界でも何かを変えることは難しいが、6月号の「未来を描く！ 創る！ イノベティブな生徒たち」で紹介された広島県・私立安田女子中学高校の生徒たちのように、自分たちで校則を見直し、自分たちの行動も見直すという経験は、生きる力につながると思う。

東京都立葛飾総合高校 川島健太郎

授業は生徒が主役

6月号の「主体的・対話的で深い学び 授業実践」で紹介された山梨県立青洲高校の飯室雄大先生の授業は、単なる反転学習ではなく、先生自身が、アメリカで学んだ「スチューデント・センタード・ラーニング」に基づいていることに感銘を受けた。授業は生徒が主役だと分かっているにもかかわらず、そうした授業を実践するのはなかなか難しい。文法の授業を受けた生徒の変容ぶりを読み、私も飯室先生の授業を体験したいと思った。

徳島県立総合教育センター 牧野浩章

これからの時代に必要な金融教育

人生100年時代と言われる中で、経済・金融の面からキャリア形成を考えることは、生徒にとって有意義である。世界では金融教育が行われており、日本はその点において遅れていると感じる。自分の授業でも金融教育の導入を検討中であるため、6月号の「誌上で見学 学びの next」の宮城県・私立常盤木学園高校の取り組みは大変参考になった。

静岡県立静岡東高校 神谷隼基

VIEWnext 編集部からのお知らせ

本誌特集テーマとも
連動!

自校の研修・会議に使える! **対話促進スキル向上・オンライン講座のご案内**

2021年度大学入試で躍進した高校が、躍進の一因となった対話の場について解説!



講師

長崎県立諫早高校
教務主任
後田康蔵

開催日時 2021年10月4日(月)

16時30分~17時40分

形式 オンライン(ライブ配信)

※お申し込みいただいた方に、
詳しい参加方法をご案内します。

参加申し込み締め切り 2021年9月29日(水)

参加費 無料

参加申し込み
受け付け中!

詳しくは
本誌 24 ページを
ご覧ください。

ニューコンテンツ、続々

ベネッセ教育総合研究所ウェブサイト内のコーナー **VIEWn-express** リリース

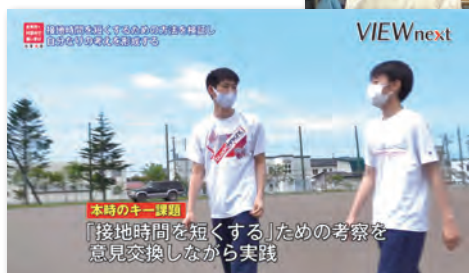
「VIEW n-express」では、最新の教育現場の状況や取り組み、今求められている情報、現場の教師や識者のオピニオンなどを、「express = 速達」でお伝えします。

アクセスは
こちら!



誌面で紹介した2つの授業が動画で見られる!

今号の「発問・課題設定をキーに見る 主体的・対話的で深い学び 授業実践」で紹介した、北海道浦河高校・舟田彩一郎先生の体育の授業と、東京都立多摩科学技術高校・田中義靖先生の化学の授業の様子を、ダイジェスト動画でご覧いただけます。



田中先生の授業動画では、生徒が他者の発言から問題を多面的に捉えていく過程を紹介します。

舟田先生の授業動画では、生徒同士で試行錯誤しながら、走る速度を高める方法を見いだしていく様子が分かります。

ウェブで見学 学びのnext

今号の「誌上で見学 学びのnext」で紹介した、神奈川県立藤沢清流高校の「リーダーシップ教育」について、指導の留意点、学習の振り返りや評価の方法などを、さらに詳しくお伝えします。



VIEWnextのLINEをご登録いただければ、VIEWn-expressやVIEWnextの電子ブックに、**ダイレクトにアクセス**できます!

VIEWnext公式アカウント

LINE@

友だち募集中!

VIEWnextや教育に関連する最新情報をタイムリーにお届けします。

友だち登録をすれば、冊子の発刊時や新コンテンツの公開時に通知が届きます。

*友だち登録の方法は、右の2次元コードを読み取っていただくか、LINE アプリの

「友だち追加」>「ID検索」で「@view21」とご入力いただき、追加をお願いいたします。



吉田元彦 先生

Yoshida Morohiko

兵庫県・私立姫路女学院中学校・高校

身につけた教養を、
国際社会でも
発揮できるように

心の教育を重視してきた本校は、礼儀作法や言葉遣いなどを学ぶ学校設定教科「教養」を通して、生徒に豊かな人間性を育んできました。2020年度に兵庫県播磨高校から姫路女学院高校へ校名を変更し、21年度、創立100周年を迎えました。まさに次の一歩を踏み出した本校が、心の教育を根幹に据え、変化に対応する力を育むため、力を入れているのが、リベラルアーツ教育と国際教育です。リベラルアーツ教育では、隔週土曜日に「リベラルアーツ・デー」を設け、SDGsを題材にしたグループ討議や、

外部講師を招いた少人数のゼミ形式の授業を集中的に実施し、社会課題に触れながら、その背景にある多様性の理解を深めています。また、国際教育では、オールイングリッシュの授業や、海外姉妹校との交流などを通じて、グロー

バルな視野とコミュニケーション能力を育成しています。そうした教育活動とともに、「なぜ?」「何のために?」と本質に迫る問いを生徒に繰り返し投げかけたり、立ち止まってから挨拶をする「停止礼」を教師も徹底したりすることが生徒の成長を促します。

先日、1人の生徒が、「近所の方に停止礼をしたら驚かれました。学校の外で実践してもよいのですか」と質問してきました。私は、「身につけた力が本物なら、国境をも越えて相手の心に届く」と、2年前に国連本部を訪問した生徒が停止礼を行った際に、ドイツの外交官に感動された逸話を交えて答えました。身につけた資質・能力を、社会で堂々と発揮できるようにすることが、生徒の次の一歩だと思います。



生徒より

1年生の時は、リベラルアーツ・デーのグループ討議で発言するのは大体同じ人で、議論もうまく進まなかったのですが、2年生になった今は、全員が自分の意見を言うようになりました。また、ALITの先生との会話も、恥ずかしさを感じることがなくなり、自分の考えを正確に伝えることを、意識して話すようになりました。今後は、本校ならではの学びである停止礼などの礼儀作法を、社会に出た時にも自信を持って発揮できるように、磨いていきたいです。

よしだ・もとひこ 教職歴28年。同校に赴任して3年目。教頭。進路部統括部長。国語科、書道科。

兵庫県・私立姫路女学院中学校・高校 全日制／普通科、商業科／女子校／1学年約240人／2021年度入試合格実績(現役のみ)国公立大は、鳥取大、岡山大、神戸市外国語大に3人が合格。私立大は、立命館大、近畿大、甲南大、武庫川女子大などに延べ51人が合格。

お客様サービスセンター

フリーダイヤル 0120-350455 [受付時間] 月～金8:00～18:00/土8:00～17:00(祝日、年末・年始を除く)

株式会社ベネッセコーポレーション岡山本社 〒700-8686 岡山市北区南方3-7-17